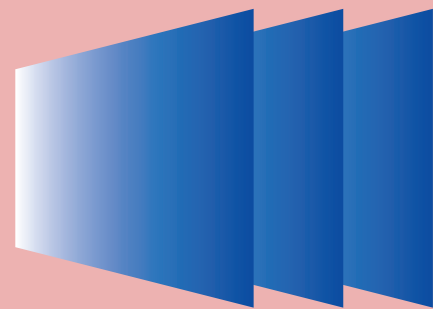


Student Life Report

私立大学 学生生活白書2022



- ◆進学目的・理由／充実度／期待
- ◆経済
- ◆ライフ（大学生活）
- ◆正課教育
- ◆正課外活動
- ◆不安・悩み
- ◆進路・就職
- ◆身についたこと



一般社団法人 日本私立大学連盟

目次

まえがき

各章まとめ・総括	1
テーマ1～4	2
調査概要	14
基本事項	16
1章：進学目的・理由／充実度／期待	17
2章：経済	25
3章：ライフ（大学生生活）	33
4章：正課教育	41
5章：正課外活動	53
6章：不安・悩み	67
7章：進路・就職	75
8章：身についたこと	79
委員名簿	82
一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧	83

STUDENT LIFE REPORT 2022

私立大学 学生生活白書 2022

まえがき

日本私立大学連盟の学生委員会が令和3年9月から10月に実施した「第16回学生生活実態調査」の分析結果として『私立大学学生生活白書2022』を、ここにお届けいたします。

本書の分析に用いた『第16回学生生活実態調査』は、前回の「第15回調査」（平成29年9月～10月実施）以降の変化の把握を重視しつつも、時代の趨勢をふまえるとともにWEB調査化にともない調査項目を見直し、合計60の質問項目を設定しました。また、令和2年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大にともなって大学教育と学生生活が一変したため、調査直前まで質問文や回答選択肢を検討しました。調査の実施にあたっては、各加盟大学のご協力のもと、加盟125大学、20,205人の学生諸君から貴重な回答（有効回収率40.6%）をいただくことができました。厚く御礼申し上げます。

各加盟大学へはすでに集計報告書（『第16回学生生活実態調査集計報告書』）をお届けしておりますが、本書は、加盟大学の学生諸君の生活実態に関する分析結果として、今回調査を含む3回分の時系列比較を中心にとりまとめています。

今回の調査結果の主要な特徴としては、前回の第15回調査において初めて減少した「所属学部・学科の満足度」と「正課教育の満足度」が反転上昇した一方で、「学生生活の充実度」は2014年以降低下傾向にあること、「就職や将来の進路」「授業など学業」に関する悩みが増加している点が挙げられます。この背景には、コロナ禍において、キャンパスの閉鎖や授業のオンライン化など、大学教育の在り方をはじめ学生を取り巻く環境が大きな変化にさらされたことがかかわっていると考えられます。実際、今回の調査結果でも、学内滞在時間が低下するとともに、「正課外活動」の参加率が低下しています。

そこで本書の冒頭には、「在籍満足度と学修成果（成績自己評価）との関係」「学生生活における不安や悩みの実態」「コロナ禍の影響」「自分の経済状況および家計における学費負担感についての考察」といった特集ページを設けています。

コロナ禍によって、学生を取り巻く環境は大きく変化しました。この状況の中、本書から現代学生の生活実態、そのニーズや志向の特徴と変化などを的確に把握し、大学教育と学生支援の諸課題をご検討いただくことで、各加盟大学がよりきめ細かな学習支援・学生生活支援をおこなう上で活用いただければ幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた各加盟大学の教職員ならびに学生諸君に重ねて厚く御礼申し上げます。また、調査の実施や分析にかかわられたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。

令和4年9月

学生生活実態調査分科会
分科会長 **北條 英勝**

1章：進学目的・理由／充実度／期待

- ・ [所属学部・学科の満足度] は過去最高値となった。
- ・ 一方、 [学生生活の充実度] は2014年以降、減少傾向が続く。

2章：経済

- ・ 全体傾向としては、経済状況は「余裕がある」「やや余裕がある」層が微増し、学費について「負担になっている」と回答した学生の割合は前回から減少した。但し、1か月の総収入は前回から1,600円減額。
- ・ 2014年以降、奨学金受給率は低下傾向が続いている。

3章：ライフ（大学生生活）

- ・ 自身の関心や大切なこととして「大学の勉強」や「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が大幅に増加。
- ・ 反面、新型コロナウイルス感染症の影響の表れか、学外活動や人間関係に関する項目は減少。

4章：正課教育

- ・ 前回は低下傾向だった正課教育の満足度は大幅増。
- ・ 「楽しく面白い授業」「教養が身につく」「卒業要件を満たすため」「知的刺激がある」などが増加し、授業を重視する様子がうかがえる。

5章：正課外活動

- ・ 課外活動への参加率は53.7%と前々回からの減少傾向が続いている。一方でインターンシップの参加率は増加し続けている。

6章：不安・悩み

- ・ 「就職や将来の進路」と「授業など学業」が大幅に増加。
- ・ 「ハラスメント・犯罪被害経験」自体は減少傾向。ハラスメントでは「セクシュアル・ハラスメント」、犯罪では「性被害」がトップ。このうち「セクシュアル・ハラスメント」は前回調査から大幅に上昇。

7章：進路・就職

- ・ 「就職できるかどうか」「就職すること自体」ともに不安が増加。
- ・ 一方で、「自分の能力や資格を活かせるところか」は減少し、福利厚生など待遇面を重視する割合が増加している。

8章：身についたこと

- ・ [身についたと実感できる力] は前回から全般的に横ばい。大幅に増加したのは「パソコンやインターネットを使いこなす力」。

総括

前回、調査開始以来初めて減少した [所属学部・学科の満足度] [正課教育の満足度] は、今回調査で反転上昇した。一方、 [学生生活の充実度] は2014年以降低下傾向にある。特に学内滞在時間をはじめとする生活時間や、 [正課外活動] の参加率など下がっている項目が多く、今回の [学生生活の充実度] の比率低下はコロナ禍の影響が大きいと考えられる。

今回増加した [正課教育の満足度] だが、「就職や将来の進路」と「授業など学業」に関する悩みが増加している点に注意が必要だろう。コロナ禍で実施された正課教育の様々な工夫を継続しつつ、卒業後、「出口」に関するケアも求められている。

テーマ1 在籍満足度と学修成果（成績自己評価）との関係

- ▼前回調査（【2017】）でのテーマのひとつとして、正課教育満足度と学生生活充実度が在籍満足度に与える影響があった。
- ▼その大きな結論は、「正課教育満足度、学生生活充実度とも在籍満足度に大きな影響を与えるが、学生生活充実度の与える影響の方が大きい」というものだった。
- ▼しかし、高等教育行政のトレンドを踏まえれば、正課教育の重要性は増している。特に学修成果については厳しい自己評価が求められている。
- ▼今回調査では、学生の自己申告による成績評価データを採取し、その他のデータとの関係を分析しているが、本項では特に「在籍満足度と学修成果（成績自己評価）との関係」をみていく。

◆参考）前回（【2017】）結果のポイント

■ 正課教育満足度・学生生活充実度の分類方法

		Q30-⑥ 【授業等、正課教育全体】満足度				
		○		×		
		大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満
Q14 学生生活の 充実度	○	充実している まあ充実している		正課教育満足度○ 学生生活充実度○	正課教育満足度× 学生生活充実度○	
	×	普通である あまり充実していない 充実していない		正課教育満足度○ 学生生活充実度×	正課教育満足度× 学生生活充実度×	

■ 所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったと思えますか。（一つだけ）

		よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
● 凡例					
全体【2017】	(n=12,369)	67.5%	4.6	27.9	
正課教育満足度・ 学生生活充実度別	正課教育満足度○学生生活充実度○ (n= 5,343)	89.2	0.9	10.0	
	正課教育満足度○学生生活充実度× (n= 1,038)	56.6	5.4	38.0	
	正課教育満足度×学生生活充実度○ (n= 3,614)	66.2	3.4	30.4	
	正課教育満足度×学生生活充実度× (n= 2,374)	25.4	14.4	60.2	

Q12.03

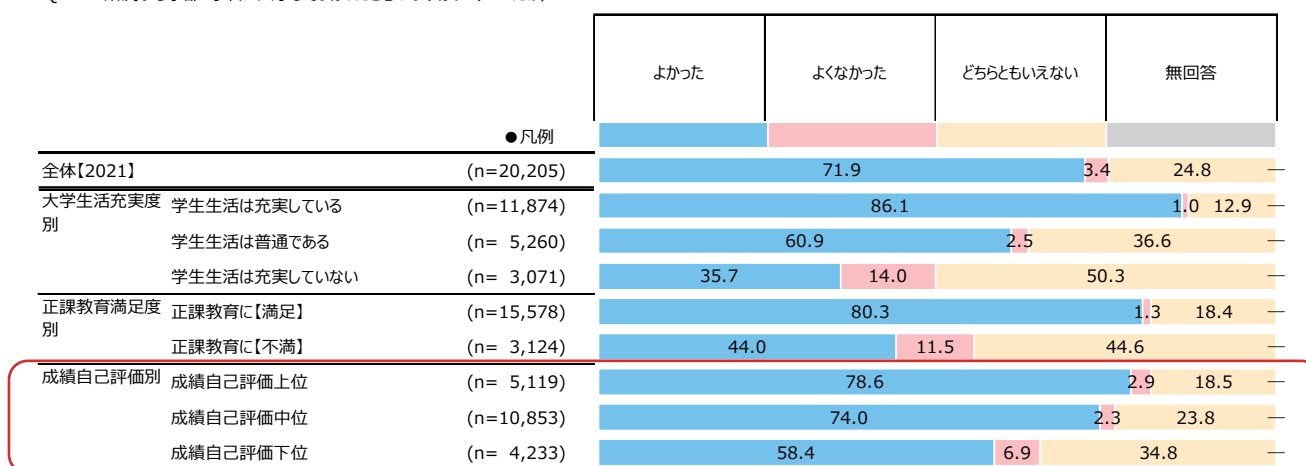
テーマ1 在籍満足度と学修成果（成績自己評価）との関係

◆ 成績自己評価の高い層ほど、在籍満足度も上昇する。

- 「大学生生活充実度」や「正課教育満足度」と比べると、その傾斜は緩やかであるが、成績自己評価上位層ほど在籍満足度が高くなる傾向は明快である。

■ 学部・学科入学満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったですか。（一つだけ）

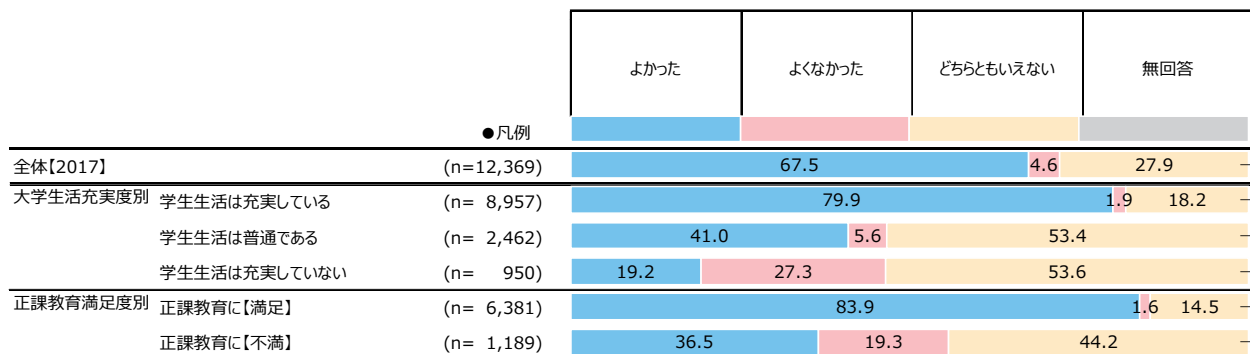


Q12.01

<参考>

■ 【2017年調査】所属学部・学科の満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったですか。（一つだけ）



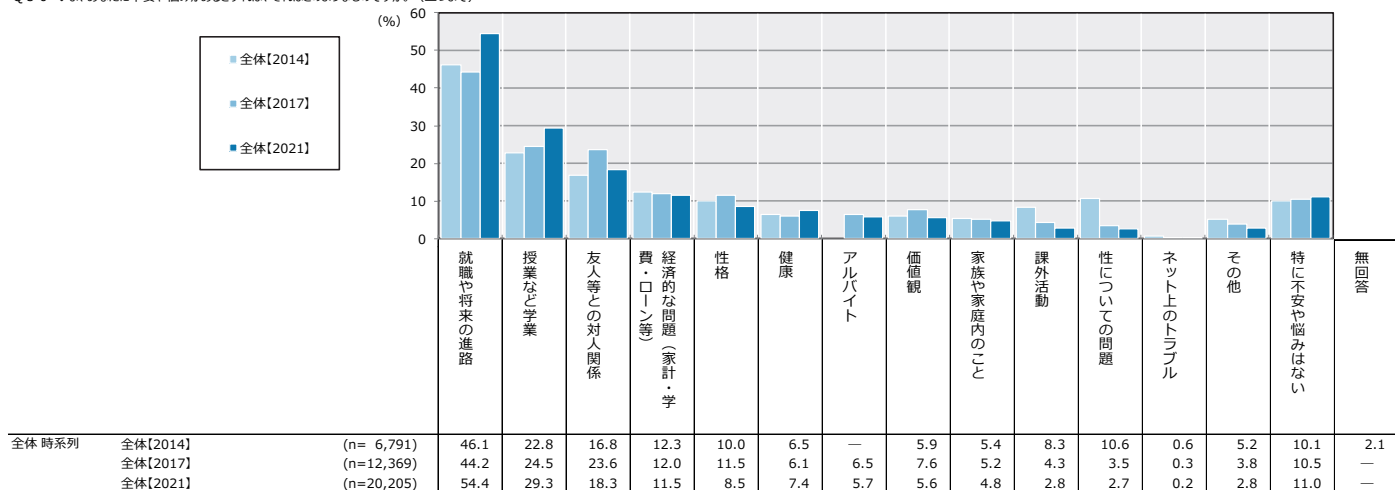
Q12.2018

テーマ2 学生生活における不安や悩みの実態

- ▼ 学生生活における不安や悩みを概観する。
- ▼ 悩みの内容の1位は「就職や将来の進路」だが、前回までの減少傾向から反転し、10ポイント上昇。「授業など学業」も、前回から5ポイント程度増加。
- ▼ 総合指標である「所属学部・学科の満足度」や「正課教育の満足度」は、今回調査で反転上昇した。しかし、その過程や結果については学生の不安・悩みが大きくなっていることがわかる。
- ▼ その悩みの相談先として、「友人」や「先輩」は減少し、「家族」もしくは「誰とも相談しない」が増加している。おそらくコロナ禍による生活時間の変化が影響していると考えられる。
- ▼ ハラスメントを「受けたことがある」は3.1%で、前回（5.6%）から減少しているが、その内訳では「セクシュアル・ハラスメント」が前回から大幅に増加している。また、ハラスメントや犯罪被害にあった人のうち、「誰にも言わなかった（言えなかった）」が2割強である点も注意したい。

■現在の不安や悩み（全体／複数回答）

Q 5 0 いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。（二つまで）



※「全体【2021】」で降順ソート

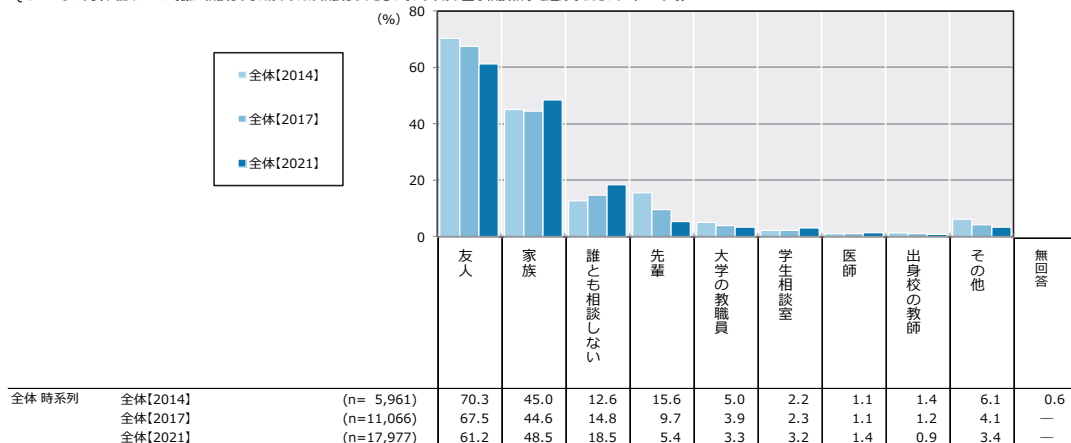
※「経済的な問題（家計・学費・ローン等）」は2021年文言変更、2017年までは「経済問題（家計・学費・ローン等）」

※「アルバイト」は2017年追加／「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

Q50.02

■不安や悩みの相談（意向）先（悩みあり回答者／複数回答）

Q 5 1 その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しようと思っますか。主な相談相手を選んでください。（二つまで）



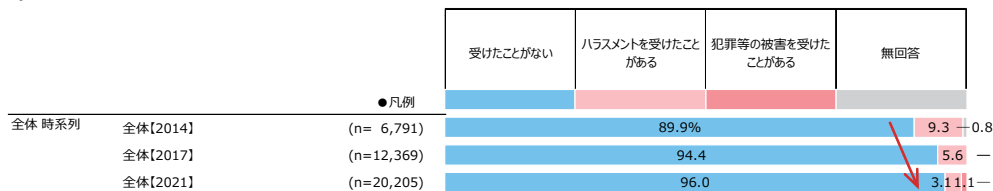
※「全体【2021】」で降順ソート

Q51.02

テーマ2 学生生活における不安や悩みの実態

■ ハラスメント・犯罪被害経験の有無（全体／単一回答）

Q 5 2 あなたは大学入学後ハラスメント<いやがらせ>や犯罪等の被害を受けたと感じたことがありますか。（二つまで）



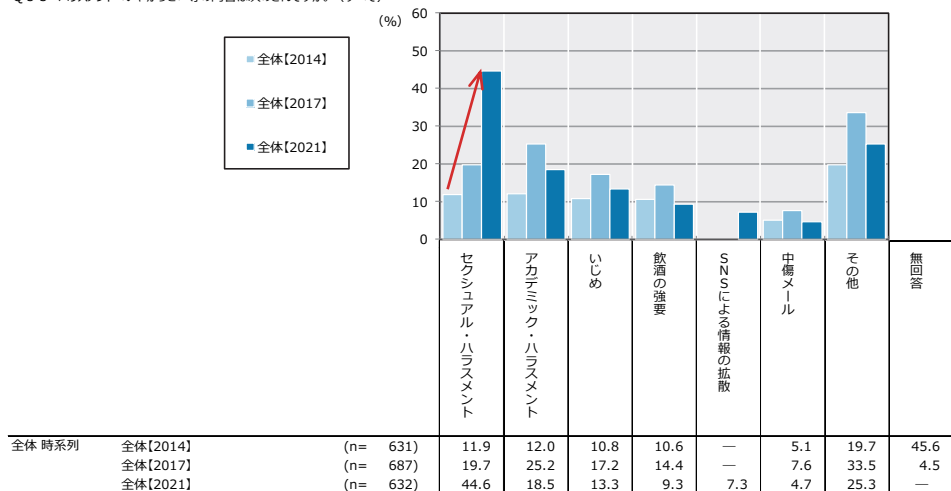
※「ハラスメントを受けたことがある」は2021年文言変更、2017年までは「受けたことがある」

※「犯罪等の被害を受けたことがある」は2021年追加

Q52.02

■ 受けたハラスメントの内容（ハラスメント経験者／複数回答）

Q 5 3 ハラスメント<いやがらせ>等の内容は次のどれですか。（すべて）



※「全体【2021】」で降順ソート

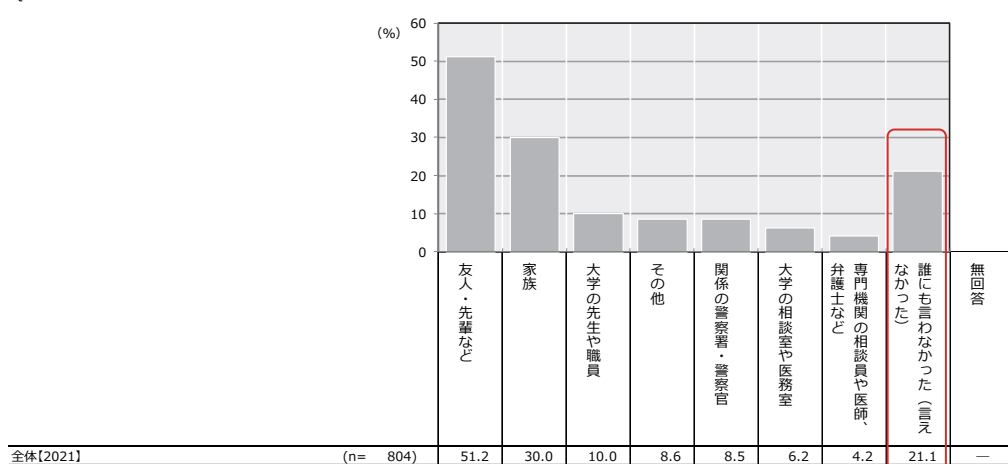
※「SNSによる情報の拡散」は2021年追加

Q53.02

■ ハラスメント・犯罪被害時に支援してくれた人（ハラスメント・犯罪経験者／複数回答）

* 2021年 新規設問

Q 5 5 ハラスメントや犯罪等の被害にあった時、あなたの力になってくれたのは次の誰（どこ）でしたか。（主なものを三つまで）



※「全体【2021】」で降順ソート

Q55.02

テーマ3 コロナ禍の影響（推測）

- ▼前回と今回の調査の間には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）禍（以下「コロナ禍」）があり、多くの学生・大学が大きな影響を受けた。
- ▼今回調査では特段、コロナ禍に直接照準を合わせた質問は設定されていないが、コロナ禍の影響と考えられるデータが散見される。本項ではそれらのデータをまとめる。
- ▼結果は以下のようにまとめられる。
各大学の努力もあって正課教育の満足度は上がっているが、学生生活充実度は下がっている。これはキャンパスで過ごす時間や正課外活動参加率、アルバイトが減少したことなどが大きく影響していることが容易に推測できる。特にコロナ禍での入学となった「2年」「1年」は、入学後の心身の状況も上の学年に比べよくない。また学生の卒業後の不安は増えていることから、学年ごとにきめ細やかな今後の対応策が求められる。

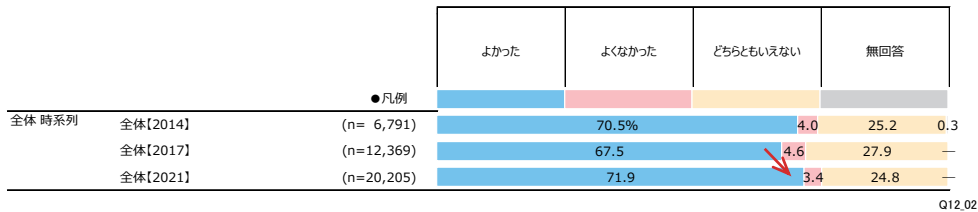
◆【満足度】総合指標である所属学部・学科入学満足度、および正課教育の満足度は上昇、学生生活充実度は大幅に減少。

◆最も減少幅が大きいのは、コロナ禍での入学となった「2年（現3年）」について「1年（現2年）」。

- ・正課教育満足度の大幅な上昇は、各大学の努力によるものであろう。
- ・学生生活充実度の減少は、次ページ以降に掲載の“キャンパス滞在時間の減少”や“様々な活動機会の喪失（課外活動、ボランティア活動等）”などが大きな影響を及ぼしていると考えられる。（期待していた大学生生活を過ごせなかった影響）

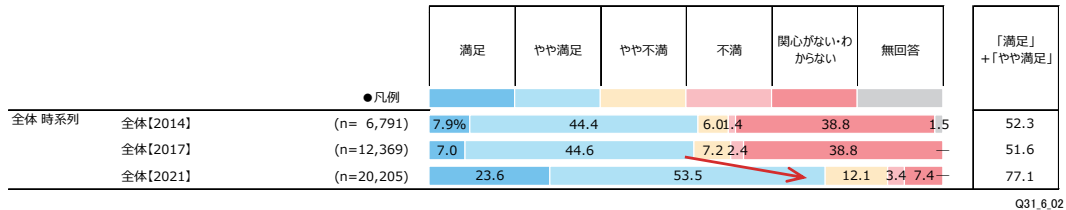
■ 学部・学科入学満足度（全体／単一回答）

Q 1 2 所属する学部・学科に入学してよかったですか。（一つだけ）



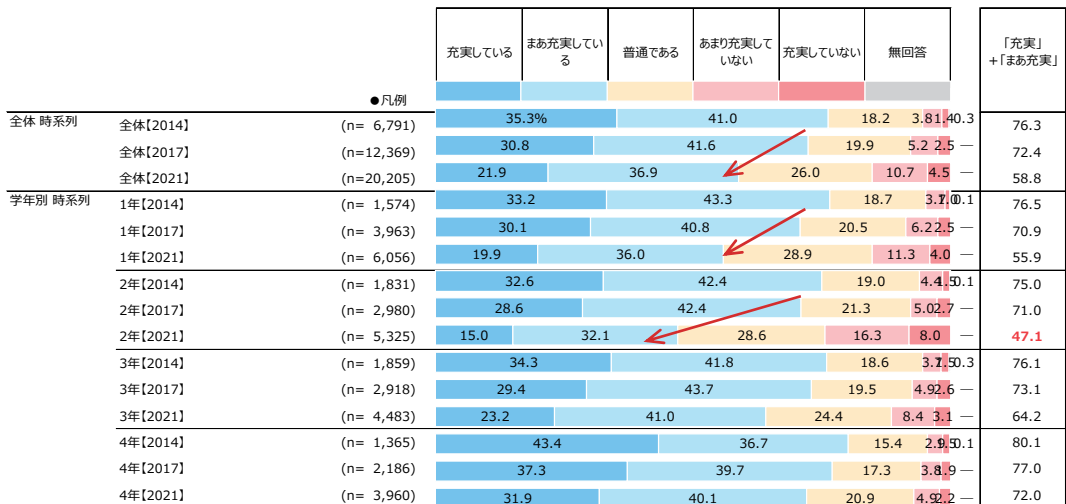
■【授業等、正課教育全体】満足度（全体／単一回答）

Q 3 1 - ⑥【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（一つだけ）



■ 学生生活充実度（全体／単一回答）

Q 1 4 あなたの学生生活は充実していますか。（一つだけ）



テーマ3 コロナ禍の影響（推測）

◆【生活時間】学生のキャンパス滞在時間（⑤）は前回調査から半減し3時間。

■大きく増加した時間

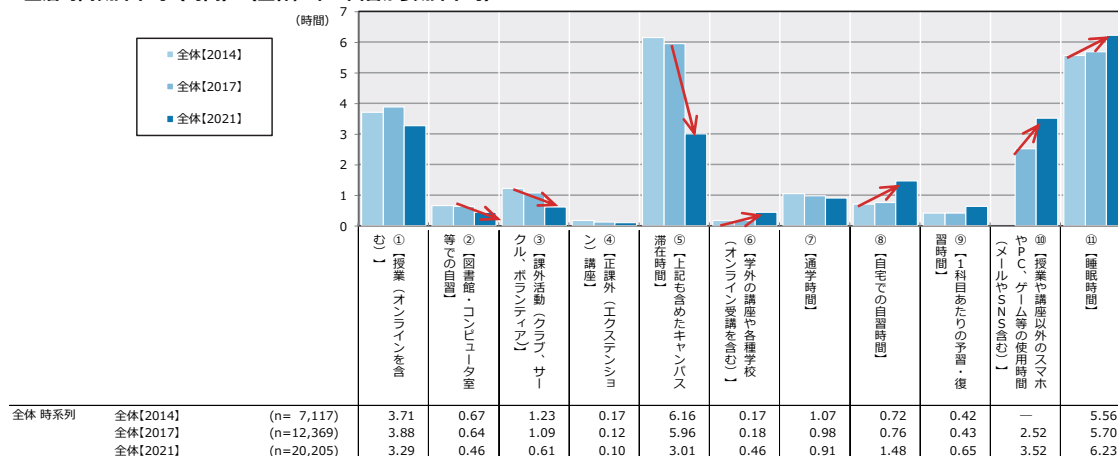
- ・「授業や講座以外のスマホやPC、ゲーム等の使用時間」（⑩） 約1時間の大幅増加。
- ・「自宅での自習時間」（⑧） 倍増して約1.5時間に。
- ・「睡眠時間」（⑪） 約30分増加。
- ・「学外の講座や各種学校（オンライン受講を含む）」（⑥） 約30分増加。

■大きく減少した時間

- ・「授業（オンラインを含む）」（①） 30分以上の減少。
- ・「課外活動（クラブ、サークル、ボランティア）」（③） 30分弱の減少。

◆課外活動やボランティア活動に参加していない割合をみると、全学年とも過去2回に比べ増えているが、特に増加が目立つのはコロナ禍での入学となった1・2年生。様々な経験の場が失われた様子がうかがえる。

■生活時間概算平均（時間）（全体／単一回答から概算平均）



※【授業や講座以外のスマホやPC、ゲーム等の使用時間（メールやSNS含む）】は2021年文言変更、2017年に【メール・SNS・ゲームの使用時間】として追加
Q24.01

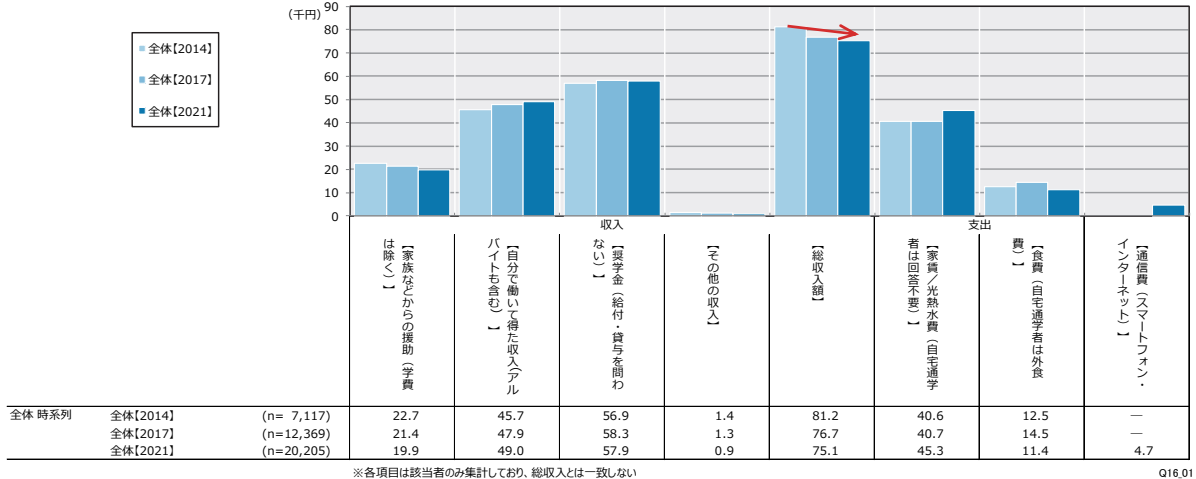
■＜学年別傾向＞課外活動参加状況（全体／単一回答）、ボランティア活動参加経験（全体／単一回答）

		課外活動		ボランティア活動			課外活動		ボランティア活動	
		最初から参加していない	参加している	最初から参加していない	参加している		最初から参加していない	参加している		
1年[2014]	(n= 1,574)	15.8	84.2	15.2	84.8	3年[2014]	(n= 1,859)	15.2	84.8	64.3
1年[2017]	(n= 3,963)	24.1	75.9	21.0	79.0	3年[2017]	(n= 2,918)	21.0	79.0	69.2
1年[2021]	(n= 6,056)	38.3	61.7	24.1	75.9	3年[2021]	(n= 4,483)	24.1	75.9	77.0
2年[2014]	(n= 1,831)	16.9	83.1	19.0	81.0	4年[2014]	(n= 1,365)	19.0	81.0	62.7
2年[2017]	(n= 2,980)	21.4	78.6	22.3	77.7	4年[2017]	(n= 2,186)	22.3	77.7	66.0
2年[2021]	(n= 5,325)	42.3	57.7	22.3	77.7	4年[2021]	(n= 3,960)	22.3	77.7	72.2

テーマ3 コロナ禍の影響（推測）

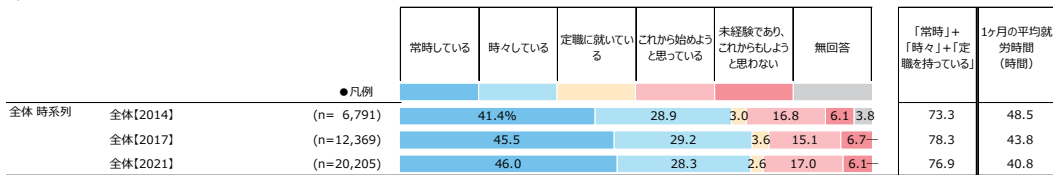
- ◆【経済状況】1ヶ月の総収入額やアルバイトの実施状況は、全体では大きく悪化はしていない。
- ◆ 但し、アルバイト状況など、3・4年生の状況とコロナ禍での入学となった1・2年生の状況に違いが生じているものもみられる。
 - ・ 1ヶ月の総収入額は微減だが、「自分で働いて得た収入（アルバイトも含む）」は微増。
 - ・ 全体では、1ヶ月のアルバイトの比率、就労時間も微減となっているが、「1年」「2年」はいずれも前回から減少。「3年」「4年」の就労率はほぼ前回水準。

■収入／支出（月額）（全体／単一回答から概算平均）



■就労（アルバイト）の有無（全体／単一回答）

Q 2 2 - ④ 就労（アルバイトを含む）について選んでください。（一つだけ）



■＜学年別傾向＞就労（アルバイト）の有無（全体／単一回答）

学年	n	「常時」+「時々」+「定職を持っている」		「常時」+「時々」+「定職を持っている」	
		(%)	(時間)	(%)	(時間)
1年	1,574	61.4	45.8	76.9	48.7
1年	3,963	68.0	40.7	84.1	45.0
1年	6,056	65.3	38.1	84.5	41.3
2年	1,831	74.8	48.5	80.3	51.0
2年	2,980	82.9	45.1	84.0	46.1
2年	5,325	78.2	41.1	85.3	43.1

※赤字部分は全体値を下回る箇所

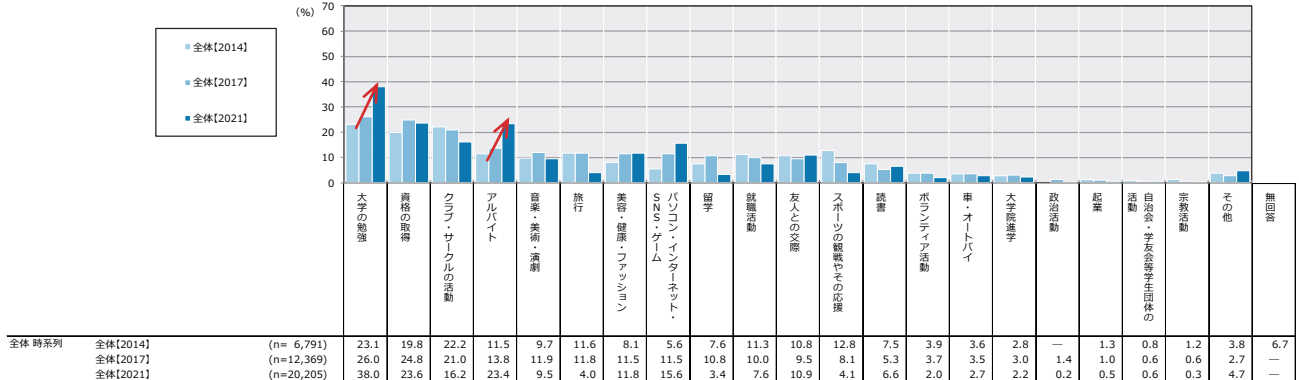
テーマ3 コロナ禍の影響（推測）

- ◆【関心・悩み】就職と授業についての学生の関心や悩みが増えている。
- ◆現在の心身の状況を学年別にみると、「良い」の割合が目立って低いのは「2年」。

- ・「アルバイト」への関心は上昇しているが、悩みの比率は横這いである。
- ・なお、「旅行」や「留学」、「スポーツの観戦やその応援」などに対する関心は大幅に減少している。

■現在の関心事（全体／複数回答）

Q 2 5 現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。（二つまで）

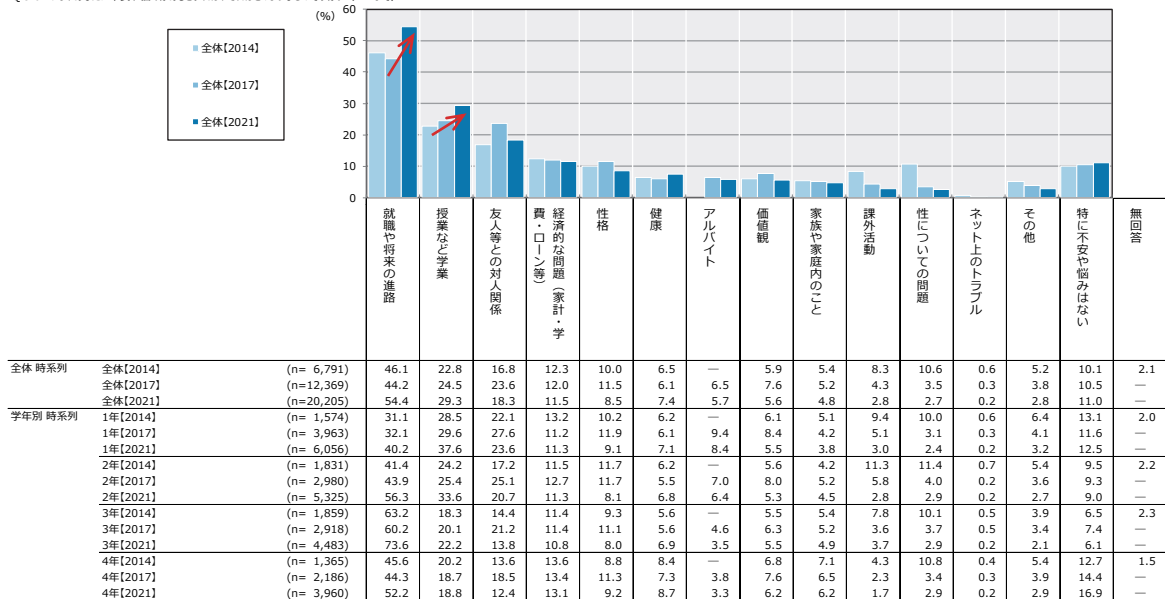


※「全体【2021】」で降順ソート ※「クラブ・サークルの活動」は2021年文言変更、2017年まで「クラブ・サークル活動」/「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」は2017年文言変更、2014年まで「パソコン・インターネット」 「自工会・学生会等学生団体の活動」は2021年文言変更、「自工会・学生会活動」は2017年文言変更、2014年まで「自工会活動」 「スポーツの観戦やその応援」は2021年文言変更、2017年までは「スポーツ」/「政治活動」は2021年文言変更、2017年に追加した際は「政治」

Q25.02

■現在の不安や悩み（全体／複数回答）

Q 5 0 いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。（二つまで）



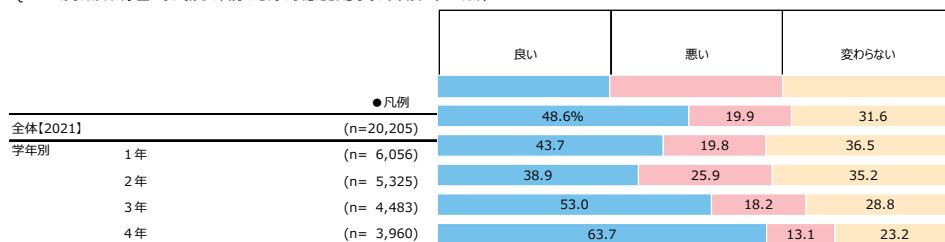
※「全体【2021】」で降順ソート ※「経済的な問題（家計・学費・ローン等）」は2021年文言変更、2017年までは「経済問題（家計・学費・ローン等）」 ※「アルバイト」は2017年追加/「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」 ※「特に不安や悩みはない」は2021年文言変更、2017年までは「不安や悩みはない」

Q50.02

■現在の心身の状況（全体／単一回答）

*2021年 新規設問

Q 2 7 あなたは、大學生になってからの自分の心身の状態をどう感じていますか。（一つだけ）



Q27.02

テーマ4 自分の経済状況および家計における学費負担感についての考察

- ・ 今回の調査では、総収入（額）そのものはやや下がったものの、「自分の経済状況」や「家計における学費負担感」については、全体では好転する結果となっている。
- ・ ここ数年、国による給付奨学金制度の創設のほか、修学支援新制度の発足など、経済支援に関する施策が充実してきており、そうしたことも大きく影響しているものと考えられるが、今回調査ではあくまで「奨学金の受給状況」としてとらえているため、詳細までは追うことができない。
- ・ ここでは、学生の「総収入別」に、奨学金受給者、奨学金未受給者に分けて、「自分の経済状況」や「家計における学費負担感」をみていく。

<総収入別 各収入・支出項目平均額>

◆ 総収入が多い層は、家族の援助や奨学金も多いが、自分の収入も多い。

推測：自分で学費をカバーしているのではないかと？

→支出項目として『学費』の聴取、および、「学費を誰が払っているか」という点を明確にする必要がありそうである。

■ 総収入別 各収入・支出項目平均額

※総収入AVE = 7.51万円

<収入項目>

Q16_5 総収入別	Q16_1N家族からの援助			Q16_2N自分で稼いだ収入			Q16_3N奨学金			Q16_4Nその他		
	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差
全体	20,205	19,929	32,020	15,542	48,955	28,917	7,671	57,915	41,022	20,205	869	8,027
なし	607	0	0	76	0	0	46	0	0	607	0	0
～1万円	963	7,871	17,033	247	8,725	18,193	109	34,954	45,259	963	524	5,768
～2万円	831	9,826	13,515	432	11,898	10,115	106	30,377	41,448	831	451	2,343
～3万円	1,089	11,125	15,403	737	20,210	11,679	213	30,070	39,491	1,089	422	4,404
～4万円	1,260	9,183	14,830	982	28,966	10,701	263	30,970	32,402	1,260	353	2,609
～5万円	2,091	13,374	20,402	1,614	36,586	13,007	445	35,101	34,335	2,091	440	3,702
～6万円	1,633	11,785	19,052	1,390	43,371	15,166	409	35,012	29,097	1,633	478	4,392
～7万円	1,533	12,456	20,327	1,343	49,974	18,607	423	37,494	30,872	1,533	502	5,227
～8万円	1,673	14,507	23,248	1,468	55,572	21,722	568	39,322	29,625	1,673	726	6,259
～9万円	951	15,941	23,449	837	58,447	23,390	412	39,430	25,923	951	415	4,188
～10万円	2,176	26,723	32,599	1,785	57,854	27,130	1,015	46,926	27,229	2,176	671	5,104
～15万円	3,081	31,310	38,728	2,644	57,458	29,180	2,043	62,937	29,583	3,081	964	7,964
15万超	2,317	44,404	52,423	1,987	69,494	39,563	1,619	100,120	40,472	2,317	3,131	18,413

<支出項目>

Q16_5 総収入別	Q16_7N食費AVE			Q16_8N通信費AVE			Q16_6N家賃/光熱費AVE		
	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差	n数 (人)	平均値 (円)	標準偏差
全体	20,205	11,391	10,713	20,205	4,695	6,053	5,790	45,333	31,135
なし	607	3,377	7,073	607	3,254	5,850	35	29,143	34,417
～1万円	963	4,190	6,657	963	3,827	6,254	67	31,791	31,233
～2万円	831	5,229	6,440	831	3,869	5,764	83	30,904	29,551
～3万円	1,089	7,066	7,308	1,089	3,857	5,284	179	38,017	34,149
～4万円	1,260	7,387	7,716	1,260	3,544	5,439	180	34,500	30,476
～5万円	2,091	9,220	8,854	2,091	3,654	5,239	431	33,979	30,143
～6万円	1,633	9,573	8,731	1,633	4,075	5,650	302	36,242	31,328
～7万円	1,533	10,559	9,478	1,533	3,836	5,522	326	35,798	30,984
～8万円	1,673	11,429	9,786	1,673	4,461	5,543	392	39,286	28,153
～9万円	951	11,972	9,725	951	4,472	5,953	269	41,245	28,040
～10万円	2,176	14,604	10,908	2,176	5,526	6,714	901	44,068	29,278
～15万円	3,081	15,689	11,511	3,081	5,749	5,853	1,515	48,917	27,555
15万超	2,317	17,700	12,914	2,317	6,776	7,132	1,110	59,622	32,563

テーマ4 自分の経済状況および家計における学費負担感についての考察

<総収入別 奨学金受給状況>

◆総収入が多い層ほど、奨学金受給率は高くなる。

- ・(≒受給しているが故に総収入を高く維持できる人の存在を確認)

◆総収入15万超え層では、「両方受給」が1割を超える。

■総収入別 Q19_奨学金受給状況

		Q19_奨学金受給状況					受給・計
		給付奨学金	貸与奨学金	両方	受けていない		
Q16_5総収入別 (平均7.51万円)	全体	n数 20,205	2,437	4,225	1,009	12,534	7,671
		%	12.1%	20.9%	5.0%	62.0%	38.0%
	なし	n数 607	27	12	7	561	46
		%	4.4%	2.0%	1.2%	92.4%	7.6%
	～1万円	n数 963	42	55	12	854	109
		%	4.4%	5.7%	1.2%	88.7%	11.3%
	～2万円	n数 831	38	57	11	725	106
		%	4.6%	6.9%	1.3%	87.2%	12.8%
	～3万円	n数 1,089	96	98	19	876	213
		%	8.8%	9.0%	1.7%	80.4%	19.6%
	～4万円	n数 1,260	126	110	27	997	263
		%	10.0%	8.7%	2.1%	79.1%	20.9%
	～5万円	n数 2,091	169	229	47	1,646	445
		%	8.1%	11.0%	2.2%	78.7%	21.3%
	～6万円	n数 1,633	159	211	39	1,224	409
		%	9.7%	12.9%	2.4%	75.0%	25.0%
	～7万円	n数 1,533	151	230	42	1,110	423
		%	9.8%	15.0%	2.7%	72.4%	27.6%
	～8万円	n数 1,673	200	299	69	1,105	568
		%	12.0%	17.9%	4.1%	66.0%	34.0%
	～9万円	n数 951	151	221	40	539	412
		%	15.9%	23.2%	4.2%	56.7%	43.3%
	～10万円	n数 2,176	338	569	108	1,161	1,015
		%	15.5%	26.1%	5.0%	53.4%	46.6%
	～15万円	n数 3,081	506	1,262	275	1,038	2,043
		%	16.4%	41.0%	8.9%	33.7%	66.3%
	15万超	n数 2,317	434	872	313	698	1,619
		%	18.7%	37.6%	13.5%	30.1%	69.9%

※黒太字：全体値より5ポイント以上高い箇所
 ※赤太字：全体値より5ポイント以上低い箇所

<総収入別 経済状況(全体)>

◆総収入が多い層(上記にて奨学金受給率が4割を超える4層)において「苦しい・計」の割合が高く、うち3層が全体値を上回る。

■総収入別 Q17_経済状況

		Q17_経済状況					余裕あり・計	苦しい・計	
		余裕がある	やや余裕がある	ふつう	やや苦しい	苦しい			
Q16_5総収入別 (平均7.51万円)	全体	n数 20,205	3,229	3,896	7,975	3,788	1,317	7,125	5,105
		%	16.0%	19.3%	39.5%	18.7%	6.5%	35.3%	25.3%
	なし	n数 607	97	95	304	75	36	192	111
		%	16.0%	15.7%	50.1%	12.4%	5.9%	31.6%	18.3%
	～1万円	n数 963	176	159	438	140	50	335	190
		%	18.3%	16.5%	45.5%	14.5%	5.2%	34.8%	19.7%
	～2万円	n数 831	156	170	325	124	56	326	180
		%	18.8%	20.5%	39.1%	14.9%	6.7%	39.2%	21.7%
	～3万円	n数 1,089	200	210	418	209	52	410	261
		%	18.4%	19.3%	38.4%	19.2%	4.8%	37.6%	24.0%
	～4万円	n数 1,260	188	254	537	223	58	442	281
		%	14.9%	20.2%	42.6%	17.7%	4.6%	35.1%	22.3%
	～5万円	n数 2,091	386	418	852	344	91	804	435
		%	18.5%	20.0%	40.7%	16.5%	4.4%	38.5%	20.8%
	～6万円	n数 1,633	282	368	638	262	83	650	345
		%	17.3%	22.5%	39.1%	16.0%	5.1%	39.8%	21.1%
	～7万円	n数 1,533	289	351	568	235	90	640	325
		%	18.9%	22.9%	37.1%	15.3%	5.9%	41.7%	21.2%
	～8万円	n数 1,673	290	363	619	310	91	653	401
		%	17.3%	21.7%	37.0%	18.5%	5.4%	39.0%	24.0%
	～9万円	n数 951	121	211	393	168	58	332	226
		%	12.7%	22.2%	41.3%	17.7%	6.1%	34.9%	23.8%
	～10万円	n数 2,176	301	427	832	448	168	728	616
		%	13.8%	19.6%	38.2%	20.6%	7.7%	33.5%	28.3%
	～15万円	n数 3,081	368	501	1,230	726	256	869	982
		%	11.9%	16.3%	39.9%	23.6%	8.3%	28.2%	31.9%
	15万超	n数 2,317	375	369	821	524	228	744	752
		%	16.2%	15.9%	35.4%	22.6%	9.8%	32.1%	32.5%

※黒太字：全体値より5ポイント以上高い箇所
 ※赤太字：全体値より5ポイント以上低い箇所

テーマ4 自分の経済状況および家計における学費負担感についての考察

<総収入別 経済状況> 奨学金受給者ベース

- ◆ なんらかの奨学金を受給していても、4割弱が「苦しい・計」と回答。
- ◆ 「苦しい・計」の割合が最も高いのは、総収入が平均2-3万前後の層（前述の通り、アルバイト実施率が低い）
- ◆ 但し、総収入の高い層でも「苦しい・計」が4割を超える点は見逃ごせない。（自分で稼いでもまだ「苦しい」状況）

■総収入別 Q17_経済状況 ※奨学金受給者(7,671人)のみ ・・奨学金を受給していても「苦しい」と回答している者がどの程度存在するか？

		Q17_経済状況					余裕あり ・計	苦しい ・計	
		余裕がある	やや 余裕がある	ふつう	やや苦しい	苦しい			
Q16_5総収入別	全体	n数 7,671	476	992	3,248	2,116	839	1,468	2,955
		%	6.2%	12.9%	42.3%	27.6%	10.9%	19.1%	38.5%
	なし	n数 46	5	5	18	10	8	10	18
		%	10.9%	10.9%	39.1%	21.7%	17.4%	21.7%	39.1%
	～1万円	n数 109	6	8	56	26	13	14	39
		%	5.5%	7.3%	51.4%	23.9%	11.9%	12.8%	35.8%
	～2万円	n数 106	6	15	40	29	16	21	45
		%	5.7%	14.2%	37.7%	27.4%	15.1%	19.8%	42.5%
	～3万円	n数 213	16	25	83	65	24	41	89
		%	7.5%	11.7%	39.0%	30.5%	11.3%	19.2%	41.8%
	～4万円	n数 263	13	38	114	71	27	51	98
		%	4.9%	14.4%	43.3%	27.0%	10.3%	19.4%	37.3%
	～5万円	n数 445	35	66	195	112	37	101	149
		%	7.9%	14.8%	43.8%	25.2%	8.3%	22.7%	33.5%
	～6万円	n数 409	32	55	180	106	36	87	142
		%	7.8%	13.4%	44.0%	25.9%	8.8%	21.3%	34.7%
	～7万円	n数 423	27	60	182	106	48	87	154
		%	6.4%	14.2%	43.0%	25.1%	11.3%	20.6%	36.4%
	～8万円	n数 568	28	82	238	163	57	110	220
		%	4.9%	14.4%	41.9%	28.7%	10.0%	19.4%	38.7%
	～9万円	n数 412	20	55	192	102	43	75	145
		%	4.9%	13.3%	46.6%	24.8%	10.4%	18.2%	35.2%
	～10万円	n数 1,015	52	127	428	304	104	179	408
		%	5.1%	12.5%	42.2%	30.0%	10.2%	17.6%	40.2%
	～15万円	n数 2,043	125	251	876	569	222	376	791
		%	6.1%	12.3%	42.9%	27.9%	10.9%	18.4%	38.7%
	15万超	n数 1,619	111	205	646	453	204	316	657
		%	6.9%	12.7%	39.9%	28.0%	12.6%	19.5%	40.6%

※黒太字：全体値より5ポイント以上高い箇所
※赤太字：全体値より5ポイント以上低い箇所

<総収入別 経済状況> 奨学金未受給者ベース

- ◆ 奨学金を受けていない者のうち、「苦しい・計」と回答した者は17.2%。一方、「余裕あり・計」は45.1%と調査回答対象の全体値（35.3%）を大きく上回る。
- ◆ 奨学金受給者に比べ、「苦しい・計」が目立って高い層はみられない。
- ◆ 但し、総収入が「なし」の層では、「余裕あり・計」が3割台前半と、他層に比べて低い。
- ◆ 総収入15万円超層のみ「余裕あり・計」が6割を超えており、他層に比べ経済状況のよさがうかがえる。

■総収入別 Q17_経済状況 ※奨学金未受給者(12,534人)のみ

		Q17_経済状況					余裕あり ・計	苦しい ・計	
		余裕がある	やや 余裕がある	ふつう	やや苦しい	苦しい			
Q16_5総収入別	全体	n数 12,534	2,753	2,904	4,727	1,672	478	5,657	2,150
		%	22.0%	23.2%	37.7%	13.3%	3.8%	45.1%	17.2%
	なし	n数 561	92	90	286	65	28	182	93
		%	16.4%	16.0%	51.0%	11.6%	5.0%	32.4%	16.6%
	～1万円	n数 854	170	151	382	114	37	321	151
		%	19.9%	17.7%	44.7%	13.3%	4.3%	37.6%	17.7%
	～2万円	n数 725	150	155	285	95	40	305	135
		%	20.7%	21.4%	39.3%	13.1%	5.5%	42.1%	18.6%
	～3万円	n数 876	184	185	335	144	28	369	172
		%	21.0%	21.1%	38.2%	16.4%	3.2%	42.1%	19.6%
	～4万円	n数 997	175	216	423	152	31	391	183
		%	17.6%	21.7%	42.4%	15.2%	3.1%	39.2%	18.4%
	～5万円	n数 1,646	351	352	657	232	54	703	286
		%	21.3%	21.4%	39.9%	14.1%	3.3%	42.7%	17.4%
	～6万円	n数 1,224	250	313	458	156	47	563	203
		%	20.4%	25.6%	37.4%	12.7%	3.8%	46.0%	16.6%
	～7万円	n数 1,110	262	291	386	129	42	553	171
		%	23.6%	26.2%	34.8%	11.6%	3.8%	49.8%	15.4%
	～8万円	n数 1,105	262	281	381	147	34	543	181
		%	23.7%	25.4%	34.5%	13.3%	3.1%	49.1%	16.4%
	～9万円	n数 539	101	156	201	66	15	257	81
		%	18.7%	28.9%	37.3%	12.2%	2.8%	47.7%	15.0%
	～10万円	n数 1,161	249	300	404	144	64	549	208
		%	21.4%	25.8%	34.8%	12.4%	5.5%	47.3%	17.9%
	～15万円	n数 1,038	243	250	354	157	34	493	191
		%	23.4%	24.1%	34.1%	15.1%	3.3%	47.5%	18.4%
	15万超	n数 698	264	164	175	71	24	428	95
		%	37.8%	23.5%	25.1%	10.2%	3.4%	61.3%	13.6%

※黒太字：全体値より5ポイント以上高い箇所
※赤太字：全体値より5ポイント以上低い箇所

テーマ4 自分の経済状況および家計における学費負担感についての考察

<総収入別 家計における学費の負担感> 奨学金受給状況比較

- ◆ 奨学金未受給者（12,354人）の中には、「本当に不要な者」と「本来は必要だった者」が混在するため、「Q20.奨学金未受給理由」を用いて、できるだけ「本当は必要だった層」を取り出した。
 - ・ Q20奨学金未受給理由：「受ける必要がなかった」と「その他」を除外した5,166人
- ◆ 奨学金受給者（7,671人）と未受給理由で絞り込んだ者（5,166人）を比べると、いずれも「負担・計」は83~84%とほぼ同水準であることがわかる。
- ◆ 未受給理由を絞り込むと、「申請したが受けられなかった」「家計基準が合わなかった」「応募の機会を逃した」など、わずかな違いで奨学金を受給できず支援から漏れた者の存在がうかがえる。
 - ・ 総収入別にみても、6万円以下までは「負担・計」の割合が奨学金受給者を上回る部分が多い。

■総収入別 Q18_家計における学費の負担感

<全体>				<奨学金受給者>			<奨学金未受給者>			<奨学金未受給者を「未受給理由」で絞り込み> ※「受給不要」「その他」と回答した者を除外		
		負担・計	負担ではない・計	負担・計	負担ではない・計	負担・計	負担ではない・計	負担・計	負担ではない・計	負担・計	負担ではない・計	
Q16_5総収入別 (平均7.51万円)	全体	20,205	15,028	7,671	6,343	12,534	8,685	5,166	4,326			
			74.4%		82.7%		69.3%		83.7%			
	なし	607	425	46	32	561	393	226	197			
			70.0%		69.6%		70.1%		87.2%			
	～1万円	963	699	109	95	854	604	349	294			
			72.6%		87.2%		70.7%		84.2%			
	～2万円	831	583	106	79	725	504	294	253			
			70.2%		74.5%		69.5%		86.1%			
	～3万円	1,089	762	213	171	876	591	379	311			
			70.0%		80.3%		67.5%		82.1%			
	～4万円	1,260	936	263	216	997	720	416	353			
			74.3%		82.1%		72.2%		84.9%			
	～5万円	2,091	1,506	445	372	1,646	1,134	668	570			
			72.0%		83.6%		68.9%		85.3%			
～6万円	1,633	1,203	409	349	1,224	854	483	415				
		73.7%		85.3%		69.8%		85.9%				
～7万円	1,533	1,136	423	357	1,110	779	472	390				
		74.1%		84.4%		70.2%		82.6%				
～8万円	1,673	1,220	568	475	1,105	745	434	354				
		72.9%		83.6%		67.4%		81.6%				
～9万円	951	716	412	342	539	374	208	172				
		75.3%		83.0%		69.4%		82.7%				
～10万円	2,176	1,681	1,015	868	1,161	813	494	404				
		77.3%		85.5%		70.0%		81.8%				
～15万円	3,081	2,427	2,043	1,698	1,038	729	453	370				
		78.8%		83.1%		70.2%		81.7%				
15万超	2,317	1,734	1,619	1,289	698	445	290	243				
		74.8%		79.6%		63.8%		83.8%				

※黒太字：全体値より5ポイント以上高い箇所（該当箇所なし）

※赤太字：全体値より5ポイント以上低い箇所（該当箇所なし）

※赤枠囲み：<奨学金受給者> <奨学金未受給者> <未受給理由で絞り込みを行った奨学金未受給者>の3つを比較し、最もスコアが高い箇所を枠囲み

調査概要

◆ 調査の目的

- 「第16回学生生活実態調査」(以下、本調査)は、本連盟加盟大学に在籍する学部学生の生活状況等を調査し、学生の生活実態を把握するとともに、時代の変化に応じた比較分析を行い、加盟大学並びに連盟の諸活動を検討する際の基礎的資料とすることを目的として実施した。

◆ 調査の対象

- 本調査の対象学部は、令和2年度に設置されている学部(令和3年度新設学部は除く)とし、現在、同設置学部に在籍している学生(留学生を含む)を調査の対象とした。加盟大学への調査依頼数は、同設置学部の学部学生数(令和2年5月1日現在)の約5%の学生数を算出した(5%の学生数が20人以下の学部は、一定サンプル数を確保するため20人とした)。

◆ 調査方法

- 集計結果の客観性を高めるために、調査対象者(学部学生)の抽出には学年、性別等を配慮し、学部ごとにできる限り厳密な無作為抽出を依頼した。また、その他の方法によって(無作為抽出に依らない)調査対象者の抽出をした場合には、その旨を実施結果報告書に明記願った。
- なお、大学ごとに回答用URLおよびQRコードが記載された「調査協力依頼文書」のデータを希望する大学にはそれを配付すると共に、調査対象者への依頼方法として次の3つを提示し、いずれかの方法で調査してもらうよう依頼した。
 - 印刷した「調査協力依頼文書」を無作為抽出した対象学生にのみ郵送または手渡し。
 - 学生向けのメール一括送信システムを利用し、無作為抽出した対象学生にのみ回答用URLおよびQRコードを送信。
 - 学内情報を掲載する学生向けポータルサイトを利用し、無作為抽出した対象学生にのみ回答用URLおよびQRコードを通知。

◆ 調査の基本設計・調査項目

1) 調査の基本設計について

本調査の基本設計にあたっては次の点に留意した。

- 調査の継続性を重視し、客観的で数値化できる内容設定によって経年変化の比較分析を可能とする。
- 年々さまざまな変化をみせる学生生活の実態をより具体的に、また、よりの確に把握できるようにする。
- 学生生活が営まれている大学の諸改革や社会の動きとの関連にも意を注ぎ、新しい環境の変化と学生生活との関連についても分析を試みる。

2) 調査項目について

調査項目は、これまでに実施された調査において採用された調査項目を検討し、それらをⅠ基本事項、Ⅱ大学等の選択理由、入学後の満足度、大学への期待・要望、Ⅲ経済、Ⅳライフ(大学生生活)、Ⅴ正課教育、Ⅵ正課外活動、Ⅶ不安・悩み、Ⅷ進路の8分野の質問群として質問項目を設定した。

◆ 調査の実施時期

- 調査実施期間：令和3(2021)年9月上旬～10月下旬(8月30日付調査依頼)

◆ 回答回収結果

- | | |
|--------------------|---------|
| (1) 調査対象大学数 | 125大学 |
| (2) 回答提出大学数 | 124大学 |
| (3) 調査依頼数 | 49,739人 |
| (4) 有効回答数(調整後) | 20,205人 |
| (5) 回収率((4) / (3)) | 40.6% |

■専攻分野学部系統分類

専攻分野	学部名		
人文科学系	異文化コミュニケーション学部	国際人文学部	人間学部
	神道文化学部	国際教養学部	文化構想学部
	仏教学部	現代心理学部	心理こども学部
	国際英語学部	心理学部	神学部
	人間科学部	文学部	表象文化学部
	外国語学部	グローバル地域文化学部	文芸学部
	人文学部	教育学部	グローバル教養学部
	文化学部	国際文化学部	言語コミュニケーション学部
	心理福祉学部	発達教育学部	国際・英語学部
法律・政治・社会系	コミュニケーション学部	環境情報学部	産業社会学部
	現代法学部	政経学部	社会福祉学部
	社会科学部	国際関係学部	福祉総合学部
	総合政策学部	現代社会学部	公益学部
	アジア太平洋学部	コミュニティ福祉学部	地域政策学部
	国際政治経済学部	社会情報学部	現代福祉学部
	人間福祉学部	社会イノベーション学部	観光学部
	経済経営学部	政策学部	国際社会学部
	政治経済学部	法学部	社会学部
	国際学部	国際観光学部	人間社会学部
	現代日本社会学部	人間健康福祉学部	国際コミュニティ学部
	社会共生学部	地域共創学部	文化社会学部
商・経済・経営系	情報学部	国際経営学部	経済科学部
	流通学部	マネジメント学部	商学部
	現代経営学部	経営情報学部	流通情報学部
	ネットワーク情報学部	サービス経営学部	経済学部
	経営学部	マネジメント創造学部	グローバルビジネス学部
	ビジネス学部		
理・工学	デザイン工学部	理工学部	情報通信学部
	化学生命工学部	システム理工学部	生命科学部
	理学部	情報科学部	総合生命科学部
	農学部	生物学部	生産工学部
	工学部	基盤工学部	創造理工学部
	環境都市工学部	総合情報学部	情報理工学部
	先端理工学部	建築・環境学部	建築都市工学部
	建築学部		
スポーツ・体育系	スポーツ科学部	スポーツ・健康科学部	スポーツ健康科学部
	スポーツ健康学部	人間健康学部	体育学部
	健康学部		
医・歯・薬・看護系	医学部	歯学部	薬学部
	松戸歯学部	医療看護学部	保健看護学部
	看護医療学部	看護保健学部	医療保健学部
	看護学部	医療健康科学部	立川看護学部
	千葉看護学部	東が丘看護学部	保健医療学部
	和歌山看護学部		

【注記】加盟大学の学部設置状況に鑑み、今回調査から「医・歯・薬系」と「看護系」を統合のうえ整理した。

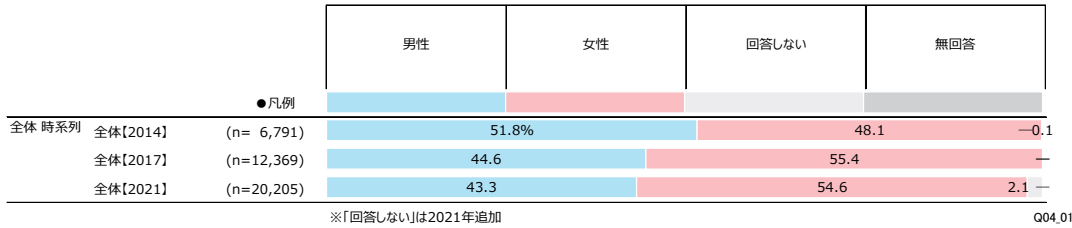
また、今回より新たに「スポーツ・体育系」を設けた。

専攻分野別集計においては、上記分類表に掲載した学部以外に所属する学生の回答結果は反映されていない。

基本事項（プロフィール）

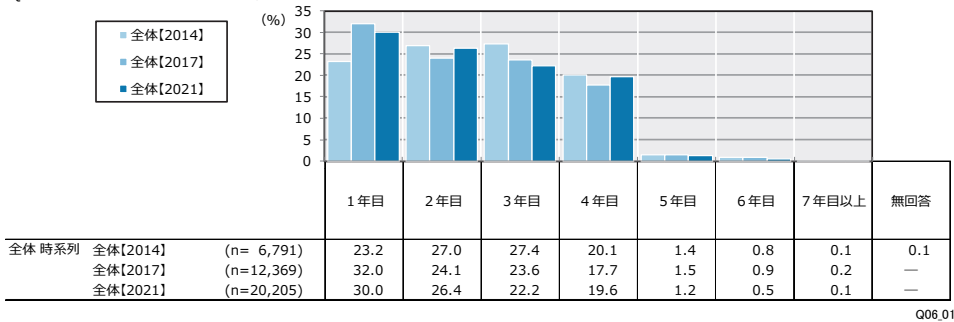
■性別（全体／単一回答）

Q 4 性別はどちらですか。（一つだけ）



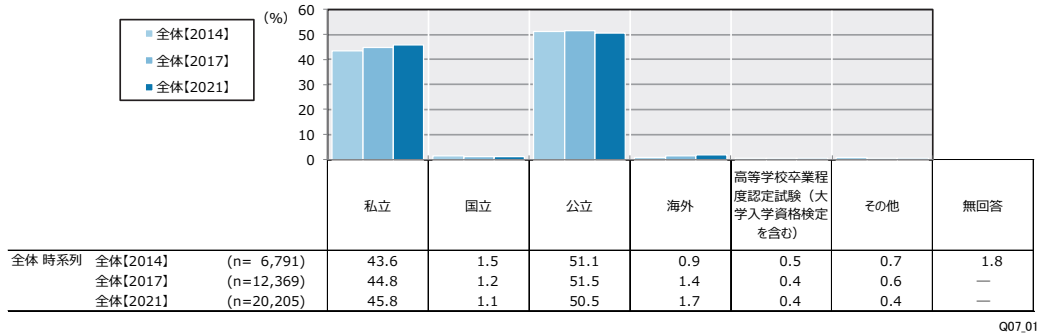
■入学してからの年数（学年）（全体／単一回答）

Q 6 入学してから何年目ですか。（一つだけ）



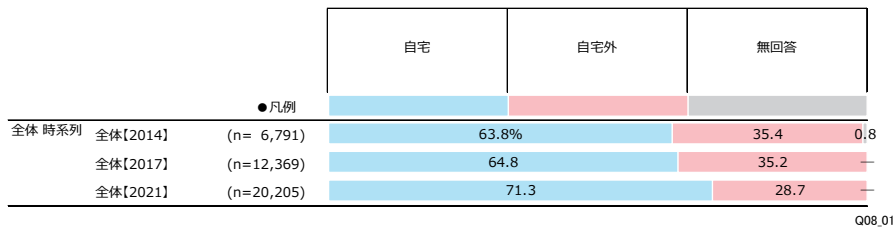
■出身高校（全体／単一回答）

Q 7 あなたの出身高校等は次のどれですか。（一つだけ）



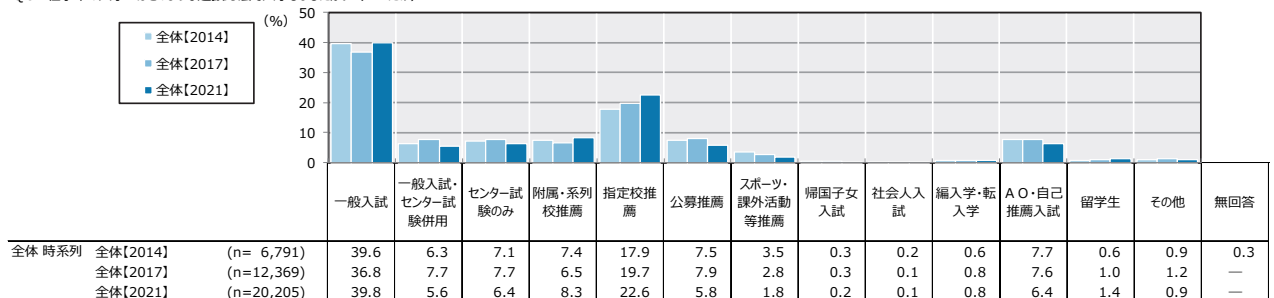
■現在の住まい（全体／単一回答）

Q 8 あなたの現在の住まいはどちらですか。（一つだけ）



■選抜方法（全体／単一回答）

Q 9 在学中の大学へはどのような選抜方法で入学しましたか。（一つだけ）



1章：進学目的・理由／充実度／期待

● 大学進学目的

「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が前回同様1位。今回は6割を超えた。

「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「友人を得たり人脈を形成するため」等は、2017年から微増。

● 所属大学の選択理由

「自分の実力（偏差値）に合っていたから」「自宅からの通学が可能だったから」「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」「就職に有利だと思ったから」が前回同様上位。

● 所属学部・学科の満足度

前回初めて減少した「所属学部・学科の満足度」は今回増加に転じ、調査開始以来の最高値となった。

● 大学に入ってよかったと思う点

新たに設定した「学びたい（学問）分野が学べたこと」が1位。今回唯一5割を超えた項目。

前回まで1位の「信頼できる友人を得たこと」はスコアが大きく減少し、順位も後退。

● 学生生活の充実度

学生生活が「充実している」と回答した学生の割合は、2014年以降減少が続いている。

入学と同時にコロナ禍となり、思うような学生生活を送れなかった2年生（現3年生）における割合が最も低い。

● 大学の施設・サービスへの期待や要望

前回同様、「学生食堂を充実してほしい」が1位だが、スコアは大きく減少。

新たに設定した「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」が25.9%で2位。

コメント

「所属学部・学科の満足度」は過去最高値となったにもかかわらず、「学生生活の充実度」は減少傾向が続いており、学年差も大きいことから、今後の学生支援等においては、学年別のケアも考慮すべきであろう。

「大学進学目的」では「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が6割を超え、前回同様の1位。「所属大学の選択理由」において、上位3項目はスコアが減少傾向にあったが今回いずれも増加。前回大きくスコアを伸ばした「就職に有利だと思ったから」は今回も微増。また上位ではないが、「専門に限らず質の高い教養教育が充実していると思ったから」も少しずつスコアが上昇している。

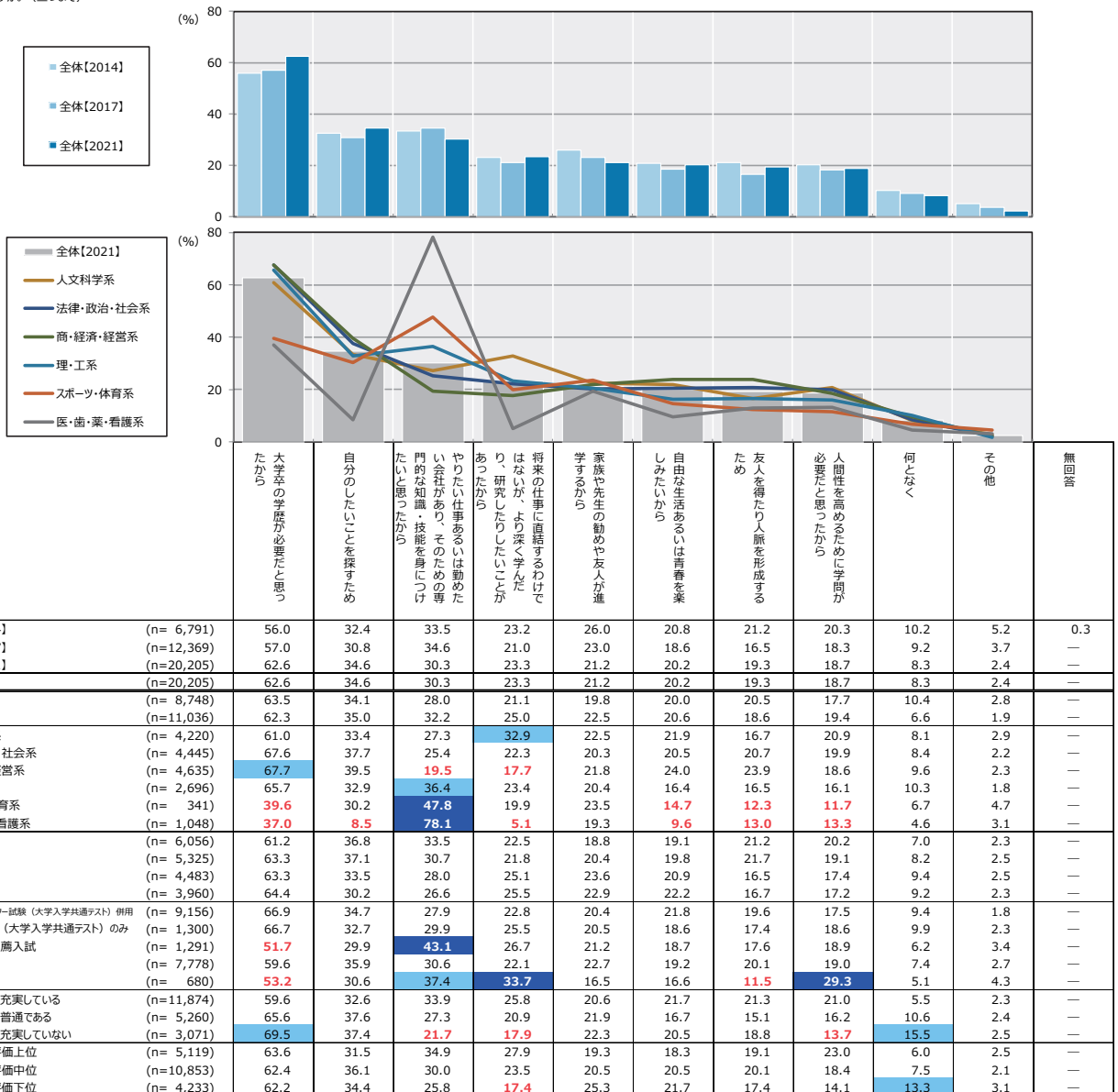
大学進学目的

- ◆「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が前回同様1位。今回は6割を超えた。
- ◆「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「友人を得たり人脈を形成するため」等は、2017年から微増。

- ・全体では「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が62.6%と突出。
- ・「自分のしたいことを探すため」「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が、30%台でこれに続く。
- ・2017年減少傾向にあった「自分のしたいことを探すため」「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」「自由な生活あるいは青春を楽しみたいから」「友人を得たり人脈を形成するため」等は、今回上昇に転じた。減少傾向が続いているのは「家族や先生の勧めや友人が進学するから」「何となく」。
- ・学部系統別みると、「人文科学系」は「将来の仕事に直結するわけではないが、より深く学んだり、研究したりしたいことがあったから」、「商・経済・経営系」は「大学卒の学歴が必要だと思ったから」、「理・工学」「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」は「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が他学部系統に比べ高い点の特徴。
- ・学年別みると、「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」や「人間性を高めるために学問が必要だと思ったから」は学年が下がるほどスコアが高くなる傾向がみられる。
- ・入試方法別みると、「AO・自己推薦入試」は「やりたい仕事あるいは勤めたい会社があり、そのための専門的な知識・技能を身につけたいと思ったから」が他の入試方法に比べて高い。

■大学進学目的（全体／複数回答）

Q10 大学進学目的は何ですか。（三つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

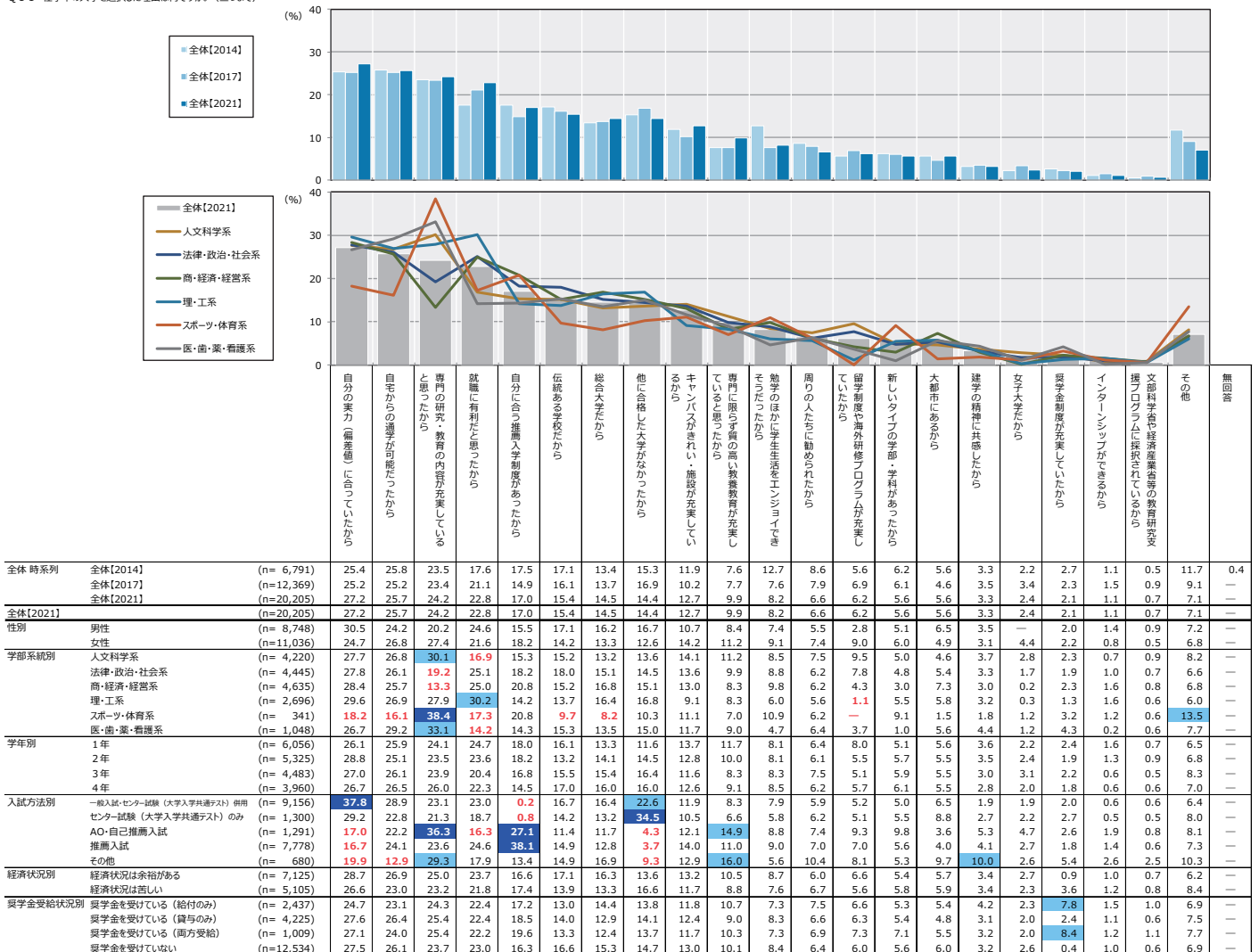
Q10.01

大学選択理由

◆「自分の実力（偏差値）に合っていたから」「自宅からの通学が可能だったから」「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」「就職に有利だと思ったから」が前回同様上位。

- ・ 前回は「自宅からの通学が可能だったから」との同率1位だったが、今回は「自分の実力（偏差値）に合っていたから」が選択理由の単独1位となった。また「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」は前回同様3位。これら上位3項目はスコアが減少傾向にあったが今回いずれも増加。前回大きくスコアを伸ばした「就職に有利だと思ったから」は今回も微増（前々回17.6%→前回21.1%→今回22.8%）。
- ・ 上位ではないが少しずつスコアが上昇しているのは「専門に限らず質の高い教養教育が充実していると思ったから」（前々回7.6%→前回7.7%→今回9.9%）。
- ・ 学部系統別に見ると、「人文科学系」「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」は「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」、「理・工系」は「就職に有利だと思ったから」が高い点の特徴。
- ・ 学年別による違いはあまりみられない。
- ・ 入試方法別に見ると、「一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用」では「自分の実力（偏差値）に合っていたから」、「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」では「他に合格した大学がなかったから」、「AO・自己推薦入試」では「専門の研究・教育の内容が充実していると思ったから」、「推薦入試」では「自分に合う推薦入学制度があったから」が、他の入試方法に比べて高い。

■大学選択理由（全体／複数回答）
Q11 在学中の大学を選択した理由は何ですか。（三つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート
 +10 : 「全体[2021]」より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 「全体[2021]」より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 「全体[2021]」より5ポイント以上低い数値に網掛け

学部・学科入学満足度

◆ 前回初めて減少した【所属学部・学科の満足度】は今回増加に転じ、調査開始以来の最高値となった。

- 全体では71.9%が現在所属する学部・学科に入学して「よかった」と回答。
- 1998年以来、上昇を続けていた満足度（＝「よかった」の割合）が、2017年初めて減少に転じたが、今回再び7割を超えて、過去最高値となった。
- 性別では、「よかった」の割合は女性が男性を6.3ポイント上回った。
- 学部系統別では「よかった」の割合が7割を下回るのは「商・経済・経営系」と「理・工系」の2つ。
- 学年別にみると、「よかった」の割合は、「2年」が66.7%、「1年」が71.1%と、コロナ禍以前に入学の3・4年に比べて低くなっている。
- 入試方法別にみると、「よかった」の割合は「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」が66.3%と他の入試方法に比べて低い。
- 大学生生活充実度別にみると、充実度が高い層ほど「よかった」の割合は高く、「充実している」では86.1%が「よかった」と回答。
- 正課教育満足度別にみると、満足層の「よかった」の割合は80.3%と、不満層（44.0%）を大きく上回る。
- 成績自己評価別にみると、「よかった」の割合は自己評価下位層のみ58.4%と、中・上位層に比べ低い。

■ 学部・学科入学満足度（全体／単一回答）

Q12 所属する学部・学科に入学してよかったと思いますか。（一つだけ）

			よかった	よくなかった	どちらともいえない	無回答
●凡例						
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	70.5%	4.0	25.2	0.3
	全体【2017】	(n=12,369)	67.5	4.6	27.9	—
	全体【2021】	(n=20,205)	71.9	3.4	24.8	—
全体【2021】	(n=20,205)	71.9	3.4	24.8	—	
性別	男性	(n= 8,748)	68.6	4.4	27.0	—
	女性	(n=11,036)	74.9	2.5	22.5	—
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	73.3	3.4	23.3	—
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	72.5	3.2	24.3	—
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	67.3	4.0	28.7	—
	理・工系	(n= 2,696)	69.9	3.8	26.3	—
	スポーツ・体育系	(n= 341)	74.8	3.2	22.0	—
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	75.1	2.7	22.2	—
学年別	1年	(n= 6,056)	71.1	2.4	26.5	—
	2年	(n= 5,325)	66.7	4.4	28.9	—
	3年	(n= 4,483)	73.6	3.5	22.9	—
	4年	(n= 3,960)	78.2	3.1	18.7	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	71.0	3.5	25.4	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	66.3	3.5	30.2	—
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	75.4	3.6	20.9	—
	推薦入試	(n= 7,778)	72.7	3.2	24.0	—
	その他	(n= 680)	76.6	2.6	20.7	—
大学生生活充実度別	大学生生活は充実している	(n=11,874)	86.1	1.0	12.9	—
	大学生生活は普通である	(n= 5,260)	60.9	2.5	36.6	—
	大学生生活は充実していない	(n= 3,071)	35.7	14.0	50.3	—
正課教育満足度別	正課教育に【満足】	(n=15,578)	80.3	1.3	18.4	—
	正課教育に【不満】	(n= 3,124)	44.0	11.5	44.6	—
成績自己評価別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	78.6	2.9	18.5	—
	成績自己評価中位	(n=10,853)	74.0	2.3	23.8	—
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	58.4	6.9	34.8	—

Q12.01

大学に入ってよかった点

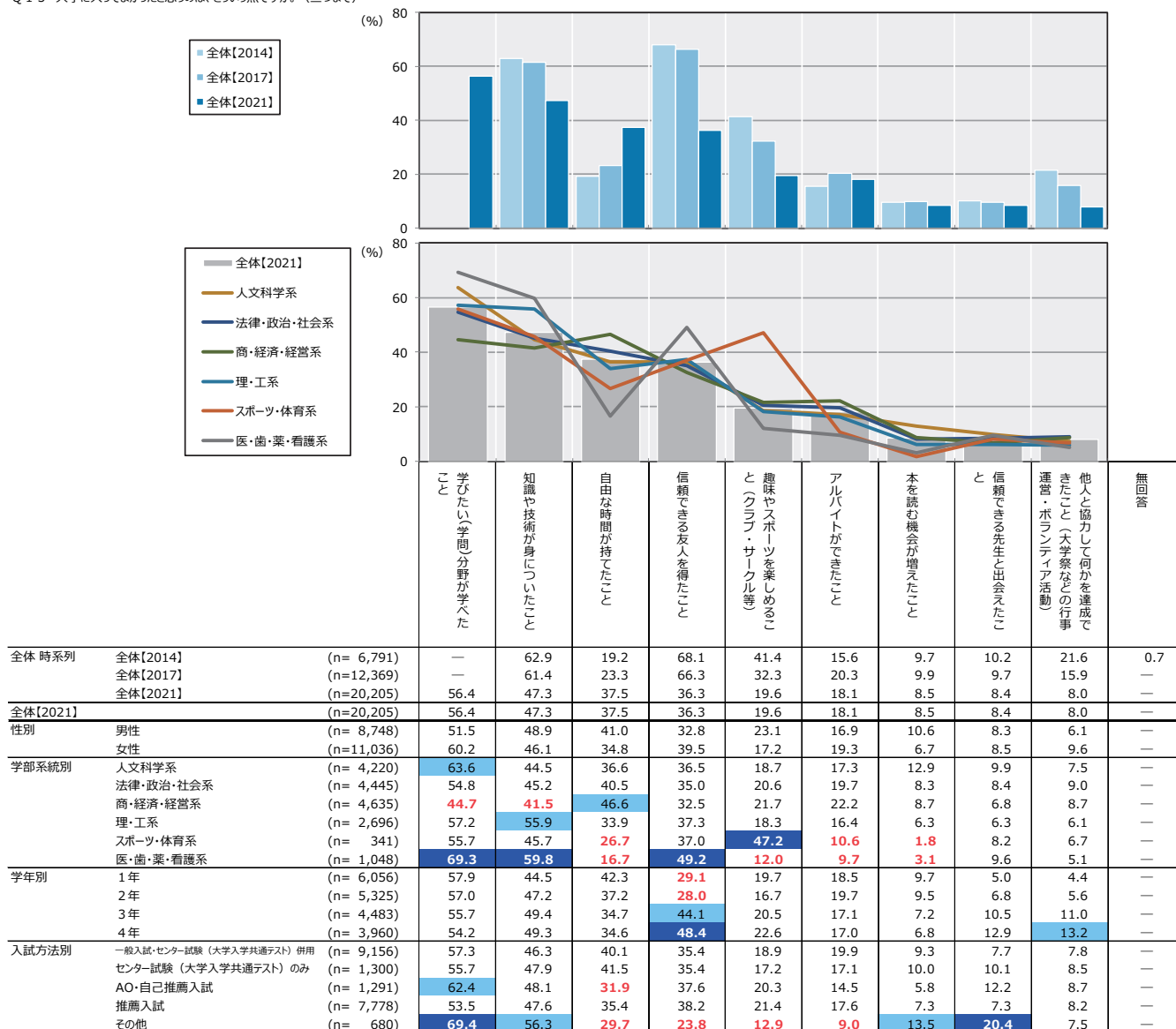
◆新たに設定した「学びたい（学問）分野が学べたこと」が1位。今回唯一5割を超えた項目。

◆前回まで1位の「信頼できる友人を得たこと」は大きくスコアが減少し、順位も後退。

- ・ 前回1・2位の「信頼できる友人を得たこと」「知識や技術が身についたこと」は大きくスコアが減少した。また「趣味やスポーツを楽しむこと（クラブ・サークル等）」「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」も減少傾向が続いている。反対に、今回増加したのは「自由な時間が持てたこと」。
- ・ 学部系統別にみると、「人文科学系」は「学びたい（学問）分野が学べたこと」、「商・経済・経営系」は「自由な時間が持てたこと」、「理・工学」は「知識や技術が身についたこと」、「スポーツ・体育系」は「趣味やスポーツを楽しむこと（クラブ・サークル等）」が、他学部系統に比べ高い。「医・歯・薬・看護系」は「学びたい（学問）分野が学べたこと」「知識や技術が身についたこと」「信頼できる友人を得たこと」の高さが目立つ。
- ・ 学年別にみると、「信頼できる友人を得たこと」「信頼できる先生と出会えたこと」「他人と協力して何かを達成できたこと（大学祭などの行事運営・ボランティア活動）」は、1・2年に比べ3・4年のほうが高く、特に差が目立つのは「信頼できる友人を得たこと」。反対に、1・2年の方が高めなのは「学びたい（学問）分野が学べたこと」「自由な時間が持てたこと」「本を読む機会が増えたこと」。
- ・ 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は「学びたい（学問）分野が学べたこと」が62.4%と、他の入試方法に比べて高い。

■大学に入ってよかった点（全体／複数回答）

Q13 大学に入ってよかったと思うのは、どういう点ですか。（三つまで）



※「全体【2021】」以降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「学びたい(学問)分野が学べたこと」は2021年追加

※「自由な時間が持てたこと」「信頼できる友人を得たこと」「信頼できる先生と出会えたこと」は2021年文言変更、2017年までは「遊べる時間が持てたこと」「友人を得たこと」「先生と親しくなったこと」

学生生活充実度

◆ 学生生活が「充実している」と回答した学生の割合は、2014年以降減少が続いている。

- 学生生活について、21.9%が「充実している」、36.9%が「まあ充実している」と回答。「充実している」の割合は前回からさらに減少（前々回35.3%→前回30.8%→今回21.9%）。
- 性別では、充実度（「充実」+「まあ充実」）は女性の方が男性よりもやや高い。
- 学部系統別に見ると、充実度が6割を下回るのは「商・経済・経営系」と「法律・政治・社会系」の2つ。
- 学年別に見ると、充実度は、「2年」が47.1%、「1年」が55.9%と、コロナ禍以前に入学の3・4年に比べて低くなっている。
※「2年」（2022年現在は3年生）の充実度が一番低いのは、大学入学と同時にコロナ禍となり、オンライン授業中心で課外活動にも思うように参加できなかったという、通常とは異なる学生生活を強いられたことが影響していると考えられる。こうしたことを踏まえ、今後の学修指導、学生支援等においては、学年別のケアを考慮すべきであろう。
- 入試方法別に見ると、充実度が最も高いのは「AO・自己推薦入試」だが、大きな差はない。

■ 学生生活充実度（全体／単一回答）

Q 1 4 あなたの学生生活は充実していますか。（一つだけ）

			充実している	まあ充実している	普通である	あまり充実していない	充実していない	無回答	「充実」+「まあ充実」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	35.3%		41.0		18.2	3.81	40.3
	全体【2017】	(n=12,369)	30.8		41.6		19.9	5.2	72.4
	全体【2021】	(n=20,205)	21.9		36.9		26.0	10.7	4.5
全体【2021】		(n=20,205)	21.9		36.9		26.0	10.7	4.5
性別	男性	(n= 8,748)	21.0		36.4		26.1	10.8	5.7
	女性	(n=11,036)	22.7		37.7		25.7	10.5	3.4
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	22.9		37.8		25.9	9.4	4.0
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	20.4		35.0		27.8	12.5	4.3
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	19.7		32.9		27.8	13.1	6.5
	理・工系	(n= 2,696)	20.3		41.0		25.1	9.0	4.6
	スポーツ・体育系	(n= 341)	26.7		41.6		20.2	9.1	2.3
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	29.0		39.7		22.4	5.9	3.0
学年別	1年	(n= 6,056)	19.9		36.0		28.9	11.3	4.0
	2年	(n= 5,325)	15.0		32.1		28.6	16.3	8.0
	3年	(n= 4,483)	23.2		41.0		24.4	8.4	3.1
	4年	(n= 3,960)	31.9		40.1		20.9	4.9	2.2
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	20.6		37.7		26.3	10.8	4.6
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	20.9		39.2		23.7	11.6	4.6
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	26.3		34.7		25.2	8.7	5.2
	推薦入試	(n= 7,778)	22.3		36.3		26.1	11.0	4.3
	その他	(n= 680)	27.5		32.8		27.5	8.7	3.5

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：**-5**

Q14.01

施設・サービスへの期待や要望

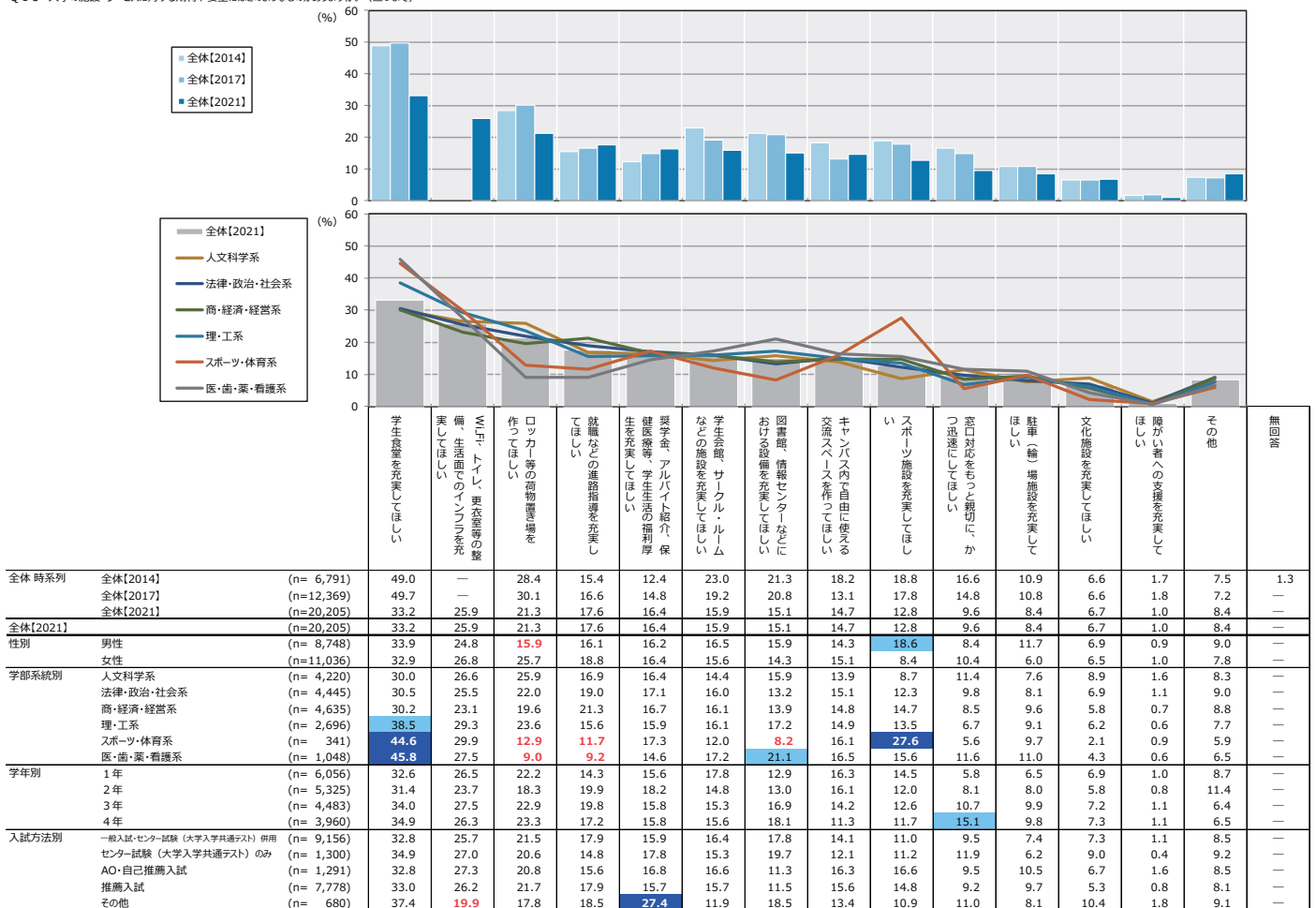
◆ 前回同様、「学生食堂を充実してほしい」が1位だが、スコアは大きく減少。

◆ 新たに設定した「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」が25.9%で2位。

- 「学生食堂を充実してほしい」は33.2%と（前回49.7%）と大幅ダウン。一般的にスコアは減少傾向にあるが、“食堂、ロッカー、学生会館・サークルルーム、図書館、スポーツ施設”等、従来のハード面に関する項目が軒並み減少。
- ※コロナ禍で、そもそもキャンパスに行く機会が減少したことが影響していると推測される。
- そのような中、微増傾向にあるのは「就職などの進路指導を充実してほしい」「奨学金、アルバイト紹介、保健医療等学生生活の福利厚生を充実してほしい」などソフト面への要望。
- 性別にみると、男性では「スポーツ施設を充実してほしい」が高いことが特徴である。
- 学部系統別では、「理・工系」「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」は共通して「学生食堂を充実してほしい」のスコアが高い。加えて「スポーツ・体育系」は「スポーツ施設を充実してほしい」、「医・歯・薬・看護系」は「図書館、情報センターなどにおける設備を充実してほしい」が高い点が特徴。
- 学年別にみると、「窓口対応をもっと親切に、かつ迅速にしてほしい」は学年が上がるに従いスコアが上昇する傾向にあり、「4年」では15.1%。

■施設・サービスへの期待や要望（全体／複数回答）

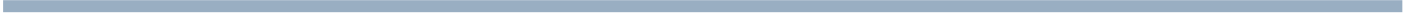
Q15 大学の施設・サービスに対する期待や要望にはどのようなものがありますか。（三つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「Wi-Fi、トイレ、更衣室等の整備、生活面でのインフラを充実してほしい」は2021年追加



2章：経済

● 1か月の収入／支出、奨学金受給率

1か月の総収入額は前回から1,600円減。

学生の38.0%が奨学金を受給。

その内訳は、「給付奨学金受給」12.1%、「貸与奨学金受給」20.9%、「両方受給」5.0%。

● 経済状況

経済的に「余裕がある」「やや余裕がある」と回答したのは全体の35.3%で、前回より微増。

反対に、「やや苦しい」「苦しい」と回答したのは全体の38.5%で、前回より減少。

● 学費

経済的には「余裕がある」学生の増加に伴い、学費について「負担になっている」と回答した学生の割合は前回から減少。

● 奨学金制度への要望／奨学金を受けていない理由

奨学金制度への要望トップは「返還の必要のない奨学金の充実」だが、前回より10ポイント近く減少。「家計基準の見直し」「手続きの簡素化」の割合が増加している。

奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」だが、「家計基準に合わなかった」が目に見えて増加している。また「返済義務がある」は減少。

● アルバイト・就労

アルバイト・就労している学生は前回から微減。平均就労時間は前々回以降減少傾向。

● アルバイトをする動機

アルバイトの動機は、「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」が突出。

一般的にスコアが減少する中、スコア・順位とも伸びたのは「社会勉強として」。

コメント

経済状況は「余裕がある」層が増加し、学費について「負担になっている」と回答した学生の割合は前回から減少。但し、1か月の総収入は前回から1,600円減。

奨学金受給率は2014年以降下がっているものの、学生の38.0%が受給。「貸与奨学金」(20.9%)の利用が最も多く、ついで「給付奨学金」(12.1%)。「両方受給」は5.0%。奨学金制度への要望のトップは、2014・2017同様「返還の必要のない奨学金の充実」(50.4%)だが、スコアは減少している。政府による修学支援新制度の創設などが反映された結果と推測される。

1か月の収入／支出、奨学金受給の有無

◆ 1か月の「総収入額」は前回から1,600円減。

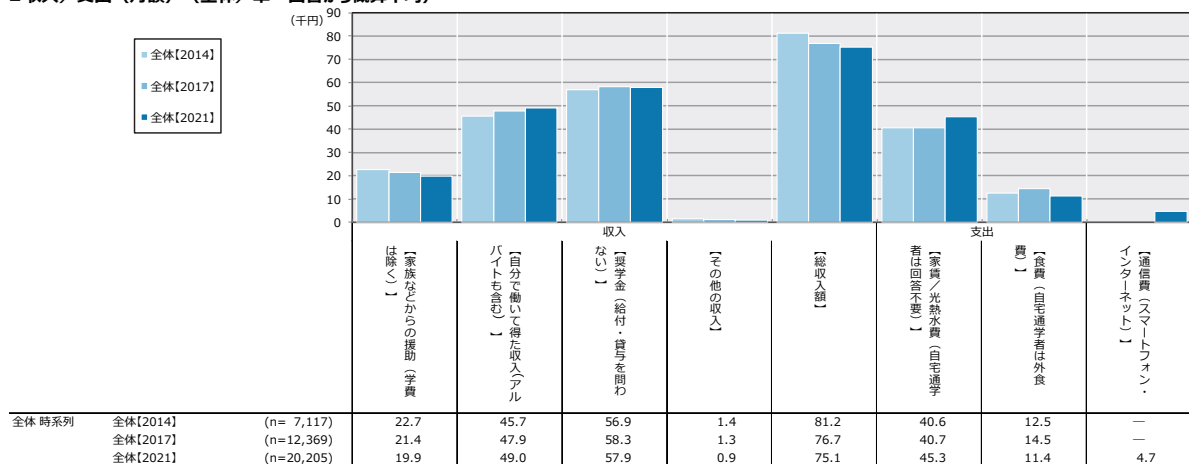
- 全体で1か月の「総収入額」は75,100円、前回と比べると1,600円減少した。

◆ 学生の38.0%が奨学金を受給。

◆ その内訳は、「給付奨学金受給」12.1%、「貸与奨学金受給」20.9%、「両方受給」5.0%。

- 全体でみると、奨学金を「受けている」と回答したのは38.0%。「経済状況は余裕がある」とする学生でも20.6%が奨学金を受給している。金額（月額）の平均は58,300円で、前回と比べると1,400円の増となった。
- 性別にみると、女性よりも男性の方が奨学金受給率が高い。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」のみ奨学金受給率が50%を超える。
- 経済状況別にみると、「経済状況は苦しい」層の奨学金受給率は57.9%。その内訳は「給付」18.6%、「貸与」29.6%、「両方」9.7%。

■ 収入／支出（月額）（全体／単一回答から概算平均）



※各項目は該当者のみ集計しており、総収入とは一致しない ※【通信費（スマートフォン・インターネット）】は2021年追加

Q16.01

■ 奨学金受給の有無（全体／単一回答）

Q 19 奨学金を受けていますか。（一つだけ）

			給付奨学金を受けている	貸与奨学金を受けている	両方受けている	受けていない	無回答
● 凡例							
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	42.6%	—	—	57.0	0.4
	全体[2017]	(n=12,369)	39.7	—	—	60.3	—
	全体[2021]	(n=20,205)	12.1	20.9	5.0	62.0	—
全体[2021]	全体[2021]	(n=20,205)	12.1	20.9	5.0	62.0	—
性別	男性	(n= 8,748)	12.3	23.0	5.4	59.3	—
	女性	(n=11,036)	11.8	19.3	4.6	64.3	—
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	12.3	21.2	4.8	61.7	—
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	11.4	20.4	5.0	63.1	—
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	13.7	22.1	4.9	59.3	—
	理・工系	(n= 2,696)	12.1	19.7	5.2	63.0	—
	スポーツ・体育系	(n= 341)	13.5	31.7	5.9	49.0	—
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	9.2	23.5	7.2	60.2	—
学年別	1年	(n= 6,056)	11.0	20.5	4.7	63.7	—
	2年	(n= 5,325)	13.3	20.1	5.7	60.9	—
	3年	(n= 4,483)	11.5	22.1	4.7	61.7	—
	4年	(n= 3,960)	12.7	21.6	4.7	60.9	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	10.4	19.7	4.6	65.2	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	12.3	17.8	4.2	65.6	—
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	14.7	22.5	6.9	55.9	—
	推薦入試	(n= 7,778)	12.7	23.3	5.4	58.5	—
	その他	(n= 680)	21.2	12.6	2.8	63.4	—
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	7.2	11.6	1.8	79.4	—
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	18.6	29.6	9.7	42.1	—

※2017年までの選択肢は、奨学金を「受けている」「受けていない」の二択だった。

Q19.01

経済状況の判断

◆ 経済的に「余裕がある」「やや余裕がある」と回答したのは全体の35.3%。

- 「余裕がある」「やや余裕がある」のみならず、「ふつう」の割合も増加しており、経済的に「苦しい」「やや苦しい」と回答する層は減少。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」は「余裕」+「やや余裕」が26.7%と他の学部系統に比べて低い。一方で「余裕」+「やや余裕」の割合が比較的高いのは「医・歯・薬・看護系」「人文科学系」。
- 学年別による大きな違いは見られないが、「余裕」+「やや余裕」がもっとも低いのは「2年」。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」は「余裕」+「やや余裕」が29.2%と、他の入試方法に比べ低い。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は未受給者に比べて「余裕」+「やや余裕」のスコアが低い。特に「奨学金受給あり（両方受給）」では、「余裕」+「やや余裕」が12.4%と他に比べて著しく低く、経済的に苦しい状況がうかがえる。
- “何らかの奨学金を受けている学生”（「給付のみ」「貸与のみ」「両方受給」の合計）のスコアを算出して、前回結果と比較したところ、「余裕」+「やや余裕」は19.1%と前回(18.3%)よりも0.8ポイント増加、「やや苦しい」+「苦しい」は38.5%と前回（45.2%）よりも6.7ポイント減少となった。

※前回調査から今回調査までの数年間は、国による給付奨学金制度の創設、修学支援新制度の発足など、経済支援に関する施策が充実してきており、そうしたことの効果が少しずつ表れてきていると見ることができる。

■ 経済状況の判断（全体／単一回答）

Q 1 7 あなたは自分の経済状況についてどのように感じていますか。（一つだけ）

			余裕がある	やや余裕がある	ふつう	やや苦しい	苦しい	無回答	「余裕」+「やや余裕」
●凡例									
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	7.7%	14.7	39.0	26.9	10.2	1.5	22.4
	全体[2017]	(n=12,369)	12.2	17.9	36.2	23.9	9.7	—	30.1
	全体[2021]	(n=20,205)	16.0	19.3	39.5	18.7	6.5	—	35.3
全体[2021]	(n=20,205)	16.0	19.3	39.5	18.7	6.5	—	35.3	
性別	男性	(n= 8,748)	15.1	18.8	38.9	19.1	8.0	—	33.9
	女性	(n=11,036)	16.7	19.6	40.2	18.3	5.1	—	36.3
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	16.8	19.4	38.7	18.6	6.5	—	36.2
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	15.8	20.1	39.7	18.1	6.2	—	35.9
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	15.3	18.4	40.3	19.1	7.0	—	33.7
	理・工系	(n= 2,696)	14.7	20.8	39.5	18.3	6.8	—	35.5
	スポーツ・体育系	(n= 341)	13.8	12.9	40.5	23.5	9.4	—	26.7
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	19.3	17.4	37.7	19.7	6.0	—	36.7
学年別	1年	(n= 6,056)	15.6	18.7	42.3	17.9	5.5	—	34.3
	2年	(n= 5,325)	15.2	18.5	40.2	19.4	6.8	—	33.7
	3年	(n= 4,483)	16.3	20.0	37.3	19.4	7.1	—	36.3
	4年	(n= 3,960)	16.9	20.5	37.6	18.2	6.7	—	37.4
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	16.8	20.7	38.9	17.7	5.9	—	37.5
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	16.8	21.4	38.0	18.0	5.8	—	38.2
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	13.4	15.8	38.3	22.9	9.6	—	29.2
	推薦入試	(n= 7,778)	15.6	18.3	40.6	18.9	6.5	—	33.9
	その他	(n= 680)	12.2	14.4	39.3	24.3	9.9	—	26.6
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	7.7	13.5	39.9	28.9	10.0	—	21.2
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	5.9	13.7	44.6	25.8	10.0	—	19.6
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	3.9	8.5	38.7	31.9	17.0	—	12.4
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	22.0	23.2	37.7	13.3	3.8	—	45.2

『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け：**-5**

学費の負担感

◆ 経済的には「余裕がある」学生の増加に伴い、学費について「負担になっている」と回答した学生の割合は前回から減少。

- ・ 今回「負担になっている」は38.5%と、前回（47.1%）から8.6ポイント減少。
- ・ 「負担」+「やや負担」のスコアも減少した。
- ・ 性別にみると、女性に比べて男性の方が「負担になっている」の割合が高い。
- ・ 学部系統別にみると、「負担になっている」の割合が比較的高いのは「理・工系」「医・歯・薬・看護系」や「スポーツ・体育系」。
- ・ 入試方法別にみると、「センター試験（大学共通テスト）のみ」の「負担」+「やや負担」割合が比較的高い。
- ・ 経済状況別にみると、「経済状況は苦しい」層では62.3%が「負担になっている」と回答。
- ・ 奨学金受給状況別にみると、「負担になっている」の割合が最も高いのは「奨学金受給あり（両方受給）」（54.0%）。ついで「奨学金受給あり（貸与）」（51.4%）、「奨学金受給あり（給付）」（49.1%）。一方の未受給層では30.8%と、奨学金受給者との差が大きいことがわかる。

■ 学費の負担感（全体／単一回答）

Q 1 8 あなたの家の家計にとって、あなたの学費は負担になっていると思いますか。（一つだけ）

			負担になっている	やや負担になっている	それほど負担になっていない	まったく負担になっていない	わからない	無回答		「負担」+「やや負担」
●凡例										
全体 時系列	全体 [2014]	(n= 6,791)	45.6%		27.0	10.8	2.9	13.2	0.5	72.6
	全体 [2017]	(n=12,369)	47.1		32.5	12.5	2.7	5.2	—	79.6
	全体 [2021]	(n=20,205)	38.5		35.9	15.3	3.3	7.0	—	74.4
全体 [2021]		(n=20,205)	38.5		35.9	15.3	3.3	7.0	—	74.4
性別	男性	(n= 8,748)	41.5		34.9	13.3	3.2	7.2	—	76.4
	女性	(n=11,036)	35.7		37.0	17.1	3.3	6.9	—	72.7
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	37.0		36.9	15.9	3.3	6.9	—	73.9
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	37.8		36.1	15.7	3.3	7.0	—	73.9
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	36.5		36.2	15.5	3.6	8.3	—	72.7
	理・工系	(n= 2,696)	44.1		35.1	13.1	2.7	5.0	—	79.2
	スポーツ・体育系	(n= 341)	44.6		34.6	10.0	3.2	7.6	—	79.2
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	46.7		30.6	13.2	3.7	5.8	—	77.3
学年別	1年	(n= 6,056)	38.5		36.3	14.1	2.8	8.3	—	74.8
	2年	(n= 5,325)	40.0		34.9	14.2	3.1	7.9	—	74.9
	3年	(n= 4,483)	37.5		36.0	16.9	3.7	5.8	—	73.5
	4年	(n= 3,960)	36.8		36.9	17.0	3.7	5.6	—	73.7
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	39.4		36.2	14.9	3.1	6.4	—	75.6
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	38.8		40.1	13.0	3.1	5.1	—	78.9
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	38.8		34.1	15.5	3.6	8.0	—	72.9
	推薦入試	(n= 7,778)	37.5		35.3	15.7	3.3	8.2	—	72.8
	その他	(n= 680)	35.6		34.6	20.9	5.0	4.0	—	70.2
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	25.2		39.0	23.6	5.3	6.8	—	64.2
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	62.3		24.2	7.0	2.9	3.6	—	86.5
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	49.1		30.3	12.1	3.6	4.8	—	79.4
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	51.4		33.8	7.8	2.3	4.7	—	85.2
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	54.0		26.3	9.6	6.0	4.1	—	80.3
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	30.8		38.5	18.9	3.3	8.5	—	69.3

『全体 [2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け： **+10**
『全体 [2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： **+5**
『全体 [2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け： **-5**

奨学金制度への要望／奨学金未受給の理由

◆奨学金制度への要望トップは「返還の必要のない奨学金の充実」だが、割合は減少。

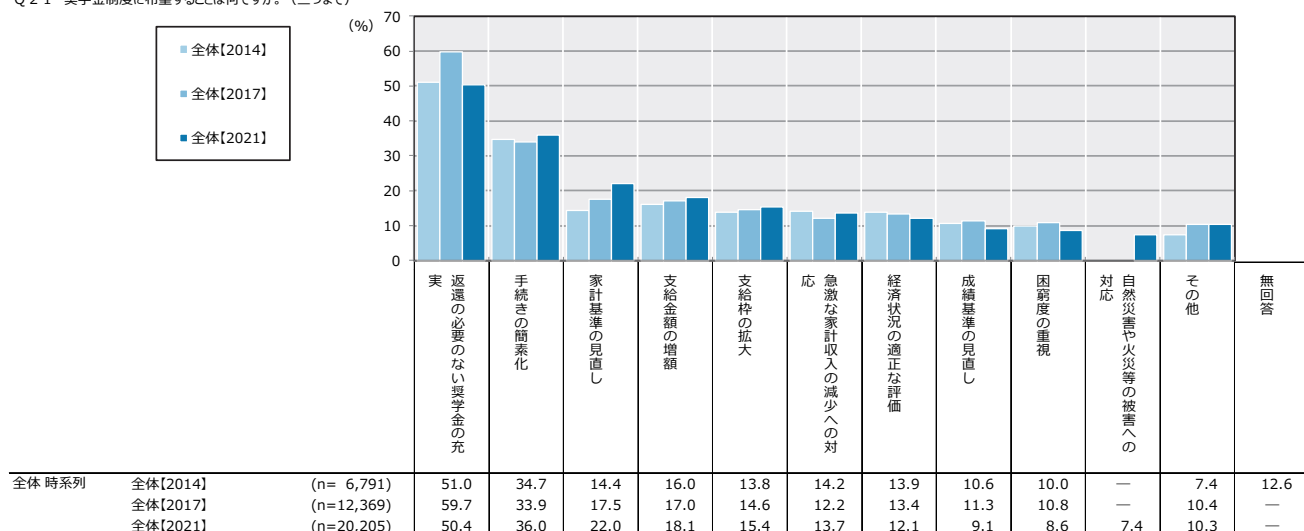
- ・「返還の必要のない奨学金の充実」が50.4%で依然 1 位ではあるものの、前回（59.7%）から10ポイント近くスコアは減少。国の給付奨学金制度の創設、修学支援新制度の発足など、経済支援の施策が充実されたことが大きく影響していると考えられる。
- ・第2位「手続きの簡素化」は36.0%で微増。国、日本学生支援機構による奨学金制度、支援等は充実されたものの、提出書類、手続き等がますます煩瑣なものになっていることへの声だと受け取れる。
- ・第3位「家計基準の見直し」（22.0%）が着実に増加傾向にあることがわかる。下記掲載の「■奨学金未受給の理由」において、「家計基準に合わなかった」が大幅増加していることも考え合わせると、国、日本学生支援機構による奨学金制度、支援等は充実されたものの、家計基準で対象外となった中間所得層の学生が増えてきているためだと考えられる。

◆奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」。

- ・奨学金を受けていない理由のトップは「受ける必要がなかった」で52.4%。2014年以降増加傾向にある。次いで「家計基準に合わなかった」（18.3%）で、前回より大幅増で前回2位の「返済義務がある」を逆転。

■奨学金制度への要望（全体／複数回答）

Q 2 1 奨学金制度に希望することは何か。（三つまで）



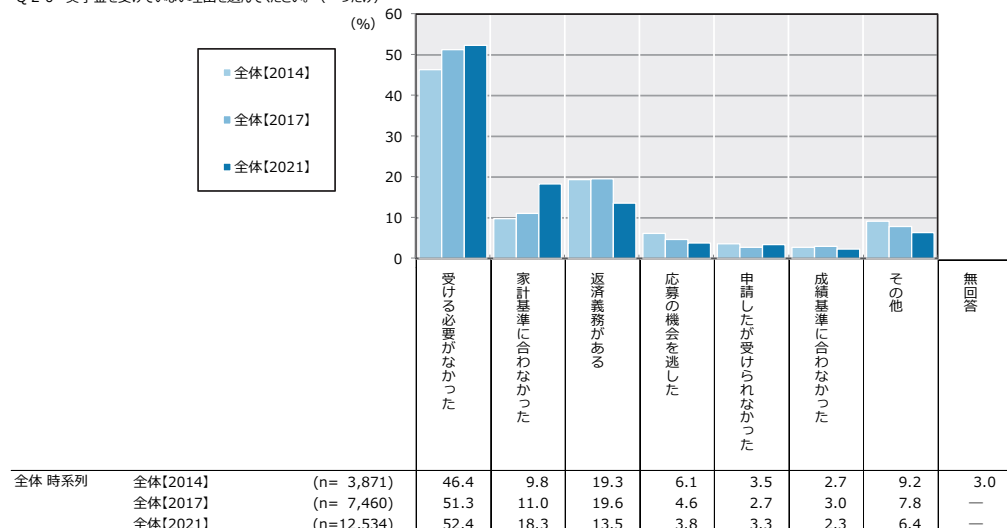
※「全体[2021]」で降順ソート

※「自然災害や火災等の被害への対応」は2021年追加

Q21.01

■奨学金未受給の理由（奨学金未受給者／単一回答）

Q 2 0 奨学金を受けていない理由を選んでください。（一つだけ）



※「全体[2021]」で降順ソート

Q20.01

就労（アルバイト）の有無

◆アルバイト・就労している学生は前回から微減。平均就労時間は前々回以降減少傾向。

- 全体のうちアルバイト・就労している学生は76.9%で、その内訳は「常時している」46.0%、「時々している」28.3%、「定職を持っている」2.6%となっている。
- 性別にみるとアルバイト・就労している学生の割合は女性の方が6ポイント高い。1か月の平均就労時間は、性別差はほとんどない。
- 学部系統別にみると、アルバイト・就労している割合は「医・歯・薬・看護系」が67.4%と他に比べ低い。「常時している」に注目すると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）に比べ、実習等での拘束のある「理・工系」「医・歯・薬・看護系」や「スポーツ・体育系」が低い。
- 学年別にみると、「1年」の「常時している」の割合が他の学年に比べて低く、「これからしようと思っている」が28.9%と高い。
- 入試方法別による違いはあまりみられない。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」学生も「経済状況は苦しい」と回答した学生もほぼ同程度がアルバイト・就労している。
- 奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は未受給者に比べてアルバイト・就労している割合が高い。「常時している」に注目すると「奨学金受給あり（両方受給）」（50.1%）、「奨学金受給あり（貸与）」（49.8%）、「奨学金受給あり（給付）」（47.4%）と、学費の負担感に関する回答と同様の傾向となっている。

■就労（アルバイト）の有無（全体／単一回答）

Q 2 2 - ① 就労（アルバイトを含む）について選んでください。（一つだけ）

			常時している	時々している	定職に就いている	これから始めよう と思っている	未経験であり、 これからはじめよう と思わない	無回答	「常時」+ 「時々」+「定 職を持っている」	1ヶ月の平均就 労時間 (時間)		
●凡例												
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	41.4%			28.9	3.0	16.8	6.1	3.8	73.3	48.5
	全体【2017】	(n=12,369)	45.5			29.2	3.6	15.1	6.7	—	78.3	43.8
	全体【2021】	(n=20,205)	46.0			28.3	2.6	17.0	6.1	—	76.9	40.8
全体【2021】		(n=20,205)	46.0			28.3	2.6	17.0	6.1	—	76.9	40.8
性別	男性	(n= 8,748)	41.7			29.4	2.7	19.0	7.2	—	73.8	40.7
	女性	(n=11,036)	49.9			27.3	2.6	15.2	5.0	—	79.8	41.0
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	48.2			25.8	2.5	18.7	4.8	—	76.5	40.8
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	48.8			27.2	2.6	16.3	5.0	—	78.6	41.5
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	45.9			28.6	2.8	17.1	5.5	—	77.3	44.5
	理・工系	(n= 2,696)	43.7			29.6	2.7	17.8	6.2	—	76.0	38.2
	スポーツ・体育系	(n= 341)	39.9			29.3	1.2	20.5	9.1	—	70.4	38.9
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	30.2			35.0	2.2	13.1	19.6	—	67.4	31.3
学年別	1年	(n= 6,056)	37.3			25.1	2.9	28.9	5.7	—	65.3	38.1
	2年	(n= 5,325)	48.4			27.4	2.4	16.9	4.8	—	78.2	41.1
	3年	(n= 4,483)	51.3			29.7	3.1	9.5	6.4	—	84.1	41.3
	4年	(n= 3,960)	51.3			31.9	2.1	8.2	6.5	—	85.3	43.1
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	47.3			27.8	2.6	16.9	5.4	—	77.7	40.2
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	44.1			28.8	2.2	19.4	5.5	—	75.1	39.2
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	45.5			29.6	2.5	16.3	6.2	—	77.6	40.9
	推薦入試	(n= 7,778)	46.1			28.6	2.6	16.4	6.4	—	77.3	41.5
	その他	(n= 680)	32.6			27.4	5.1	22.2	12.6	—	65.1	43.0
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	47.8			27.6	2.5	14.7	7.3	—	77.9	40.4
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	48.6			27.6	2.8	16.5	4.4	—	79.0	42.4
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	47.4			27.2	2.7	16.7	6.1	—	77.3	41.5
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	49.8			28.1	2.5	15.0	4.7	—	80.4	43.2
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	50.1			27.5	1.8	15.1	5.6	—	79.4	42.8
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	44.2			28.6	2.8	17.9	6.5	—	75.6	39.6

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：**-5**

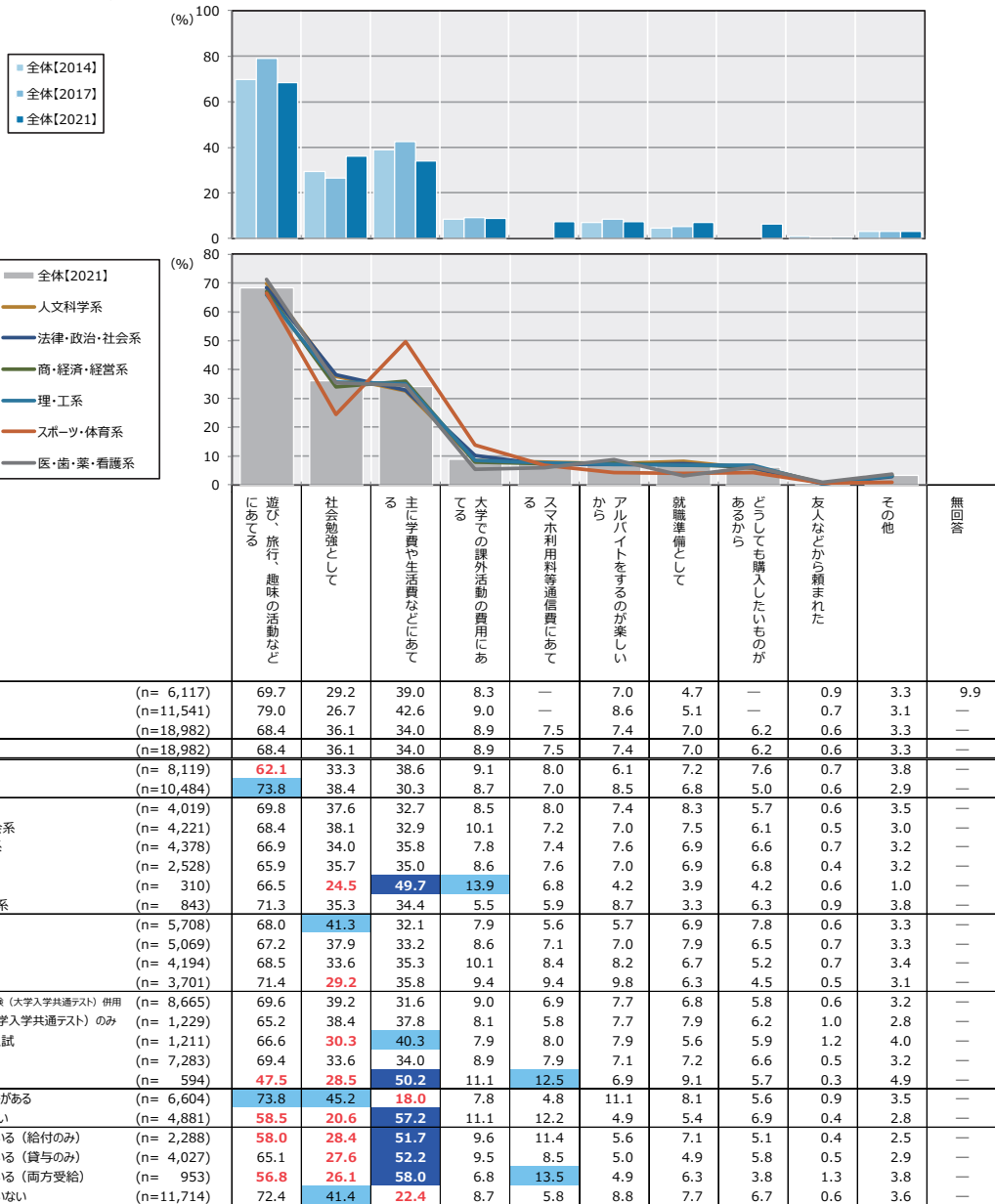
アルバイトの動機

- ◆アルバイトの動機は、「遊び、旅行、趣味などにあてる」が突出。
- ◆全般的にスコアが減少する中、スコア・順位とも伸びたのは「社会勉強として」。

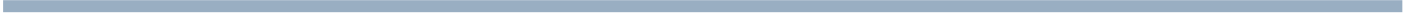
- ・アルバイトをする動機としては「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」が68.4%と突出して高いが、前回から10ポイントほど下げている。次いで「社会勉強として」（36.1%）、「主に学費や生活費などにあてる」（34.0%）。
- ・前回大きく伸びた「ほしい物を買ったり、遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」や「主に学費や生活費などにあてる」が減少しているが、これは今回新たに設けた「スマホ利用料等通信費にあてる」「どうしても購入したいものがあるから」に流れたためではないかと考えられる。
※2つまで選択の個数限定回答の中、選択肢数を増やしたこともスコア低下の要因の1つと考えられる。
- ・ただし、中でも増加「社会勉強」は10ポイント近く増加。
- ・性別にみると、女性は「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」が73.8%と男性よりも高い。
- ・学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」は「主に学費や生活費などにあてる」「大学での課外活動の費用にあてる」の割合が高い。
- ・学年別にみると、「社会勉強として」「どうしても購入したいものがあるから」は学年が下がるほど、「スマホ利用料等通信費にあてる」「アルバイトをするのが楽しいから」は学年が上がるほど、スコアが高くなる傾向。
- ・奨学金受給状況別にみると、奨学金受給者は3層とも「主に学費や生活費などにあてる」が5割を超え、「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」「社会勉強」の割合は全体傾向に比べ低い。

■アルバイトの動機（就労者・就労意向者／複数回答）

Q23 アルバイトをする動機・理由は何ですか。（二つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート
 ※「スマホ利用料等通信費にあてる」「どうしても購入したいものがあるから」は2021年追加
 ※「主に学費や生活費などにあてる」「大学での課外活動の費用にあてる」「遊び、旅行、趣味の活動などにあてる」「社会勉強として」「就職準備として」「アルバイトをするのが楽しいから」は2021年文言変更。2017年までは「主に生活費、学費などにあてる」「サークル活動にあてる」「ほしい物を買ったり、遊び、旅行、趣味などにあてる」「社会勉強」「就職準備」「アルバイトをするのが楽しい」だった。



3章：ライフ（大学生活）

● 平均的な1日の生活時間／メール・SNS・ゲームの使用時間

「キャンパス滞在時間」の平均は3.01時間と前回（5.96時間）から大幅な減少。コロナ禍での大学生活の実態が反映された結果と言えよう。一方、「自宅での自習時間」「メール・SNS・ゲームの使用時間」「睡眠時間」は増加した。

「メール・SNS・ゲームの使用時間」の平均は1日あたり3.52時間。

● 興味・関心事

「大学の勉強」への興味は大きく増加したが、「就職活動」への興味、「クラブ・サークルの活動」「旅行」「スポーツの観戦やその応援」「留学」といった外での活動への興味は減少傾向が続く。

● 大学生活で大切なこと

「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が大幅に増加。

一方で、「よい友人・先輩を得ること」「人脈をつくること」は減少傾向。

● 現在の心身の状況

約半数が自分の心身の状態を「良い」と感じており、「悪い」（19.9%）を大きく上回る。

● 読書冊数（1か月）

本を「ほぼ読まない」が48.9%。

● SNSトラブルの有無

SNSトラブルに巻き込まれた経験が「ある」のは、全体の7.4%。

● 薬物使用への考え方

薬物について、87.0%は「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と考えている。

コメント

【興味・関心事】では「大学の勉強」、【大学生活で大切なこと】でも「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が大幅に増加。一方、学外活動や人間関係に関する項目は減少しており、コロナ禍の影響が表れていると考えられる。

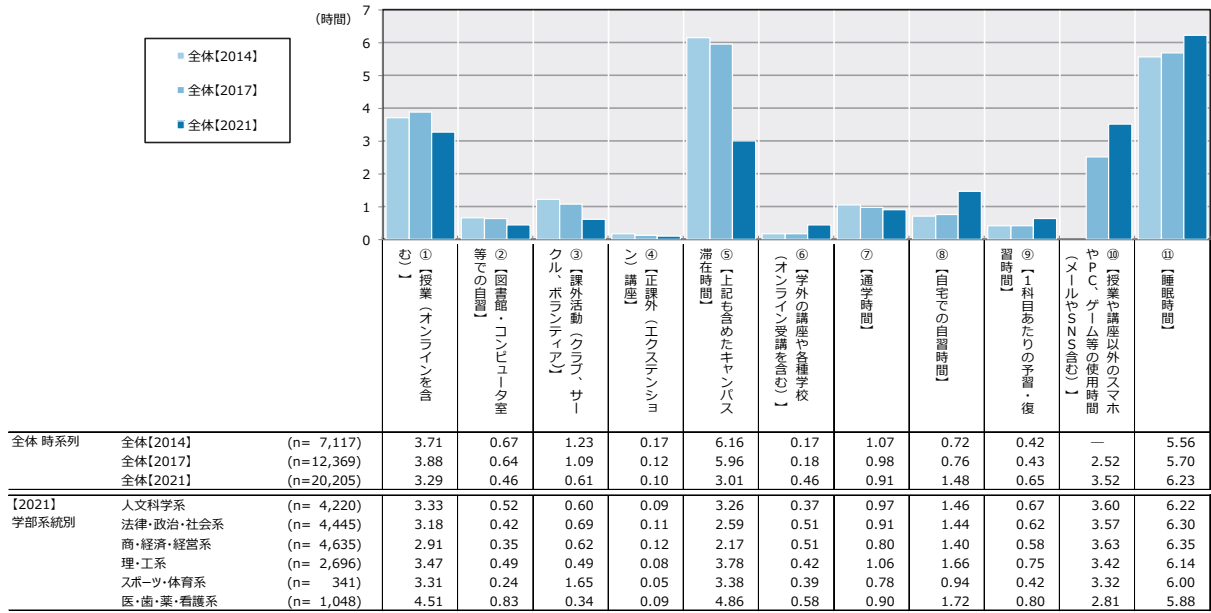
【心身の状況】は「良い」「変わらない」が多数を占めるが、「悪い」も2割いることに留意が必要。

平均的な1日の生活時間／メール・SNS・ゲームの使用時間

◆「キャンパス滞在時間」の平均は3.01時間と前回（5.96時間）から大きく減少。一方、「自宅での自習時間」「メール・SNS・ゲームの使用時間」「睡眠時間」は増加し、コロナ禍の影響がうかがえる。

- 「メール・SNS・ゲームの使用時間」は全体の平均が3.52時間で前回から1時間増加。回答の分布をみると、最も割合が高いのは「～3時間」の23.7%、次いで「～2時間」の17.5%。
- これを性別にみると、平均時間は男性（3.49時間）よりも女性（3.56時間）の方がやや長い。
- 学部系統別にみると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）は理系（「理・工学」「医・歯・薬・看護系」）に比べて使用時間が長い傾向にある。
- 学年別にみると、「4年」（3.82時間）が他の学年に比べて使用時間が長い。
- 入試方法別にみると、大きな差はみられない。

■生活時間概算平均（時間）（全体／単一回答から概算平均）

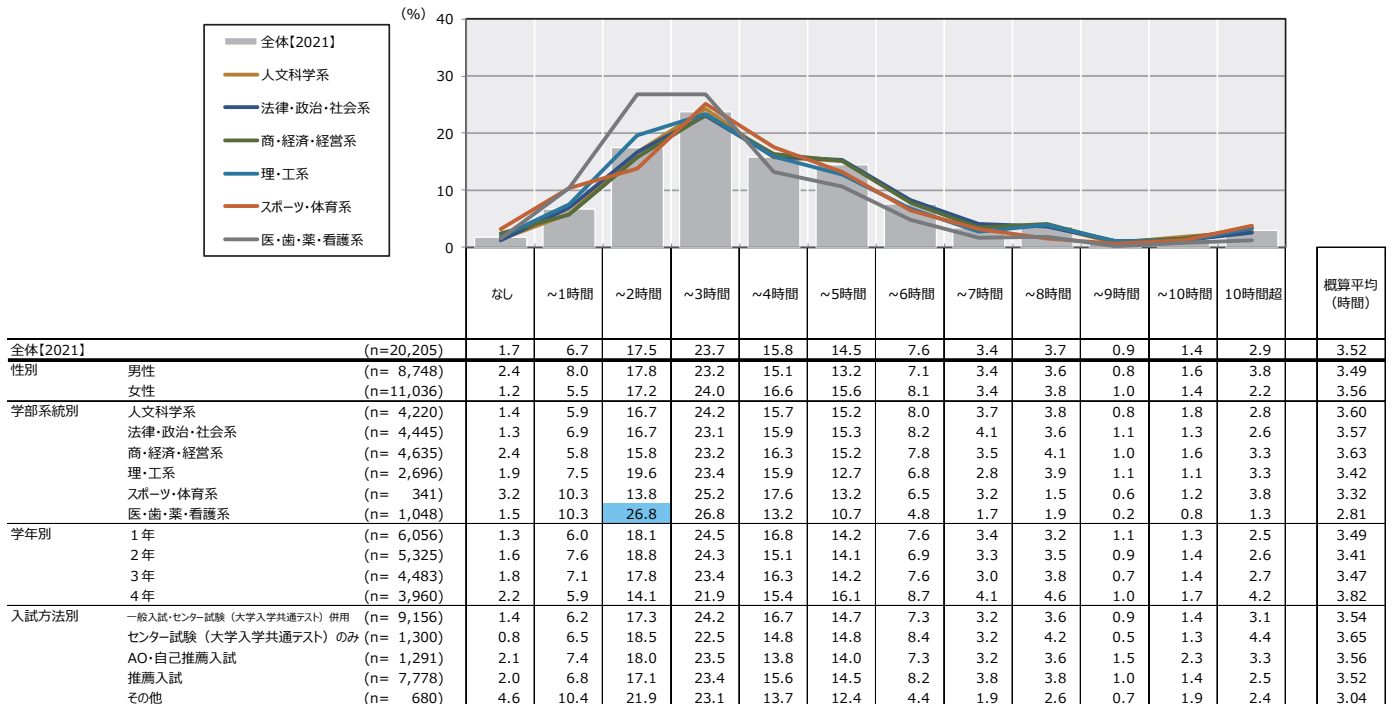


※「授業や講座以外のスマホやPC、ゲーム等の使用時間（メールやSNS含む）」は2017年追加

Q24.01.1

■ Q 2 4 - ⑩ 【メール・SNS・ゲームの使用時間】（全体／単一回答）

Q 2 4 - ⑩ あなたの平均的な1日あたりの【授業や講座以外のスマホやPC、ゲーム等の使用時間（メールやSNS含む）】



+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

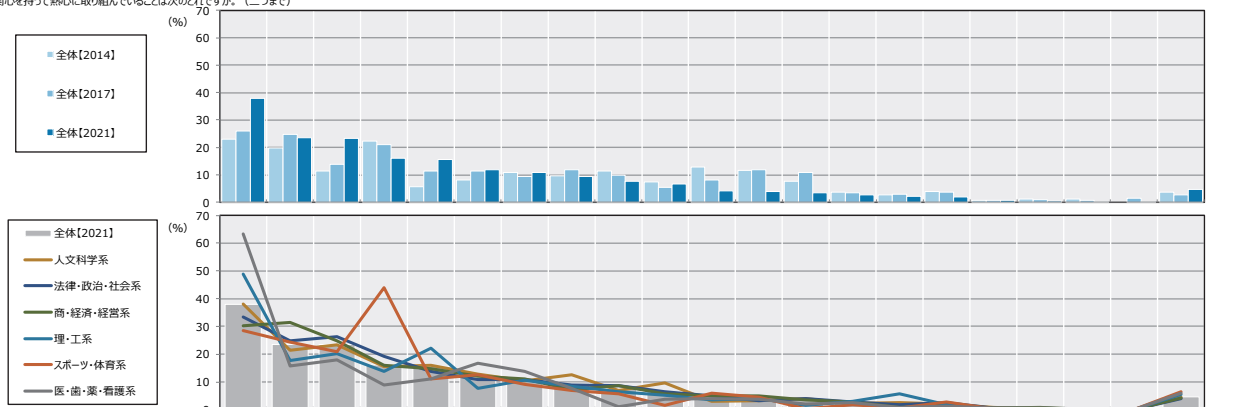
Q24.10.1

現在の関心事

- ◆「大学の勉強」「アルバイト」への興味は前回に引き続きさらに増加しているが、「就職活動」への興味は減少傾向が続く。
- ◆「クラブ・サークルの活動」「旅行」「スポーツの観戦やその応援」「留学」など、外での活動は減少しており、コロナ禍の影響がみられる。
- ◆「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」の増加傾向は続いている。
 - ・全体では「大学の勉強」（38.0%）が最も高く、前回からスコアも10ポイント以上増加。次いで「資格の取得」（23.6%）、「アルバイト」（23.4%）が高い。「アルバイト」は前回から約10ポイント増加し、3位に浮上した。
 - ・「クラブ・サークルの活動」「旅行」「スポーツの観戦やその応援」「留学」など、外での活動は減少。
 - ・「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」は2014年から10ポイント増加。
- ・性別にみると、女性は「アルバイト」「音楽・美術・演劇」「美容・健康・ファッション」が男性よりも高い。
- ・学部系統別に見ると、理系（「理・工学」「医・歯・薬・看護系」）の「大学の勉強」が高く、スポーツ・体育系の「クラブ・サークルの活動」が高い。
- ・学年別に見ると、「3年」で「就職活動」が顕著に高い。

■現在の関心事（全体／複数回答）

Q 2 5 現在、あなたが興味や関心を持って熱心に取り組んでいることは次のどれですか。（二つまで）



		大学の勉強	資格の取得	アルバイト	クラブ・サークルの活動	SNS・ゲーム	パソコン・インターネット・SNS・ゲーム	美容・健康・ファッション	友人との交際	音楽・美術・演劇	就職活動	読書	スポーツの観戦やその応援	旅行	留学	車・オートバイ	大学院進学	ボランティア活動	自治会・学生会等学生団体の活動	起業	宗教活動	政治活動	その他	無回答
全体 時系列	全体【2014】 (n= 6,791)	23.1	19.8	11.5	22.2	5.6	8.1	10.8	9.7	11.3	7.5	12.8	11.6	7.6	3.6	2.8	3.9	0.8	1.3	1.2	—	3.8	6.7	
	全体【2017】 (n=12,369)	26.0	24.8	13.8	21.0	11.5	9.5	11.9	10.0	5.3	8.1	11.8	10.8	3.5	3.0	3.7	0.6	1.0	0.6	1.4	2.7	—	—	
	全体【2021】 (n=20,205)	38.0	23.6	23.4	16.2	15.6	11.8	10.9	9.5	7.6	6.6	4.1	4.0	3.4	2.7	2.2	2.0	0.6	0.5	0.3	0.2	4.7	—	
性別	男性 (n= 8,748)	39.6	23.9	20.0	17.5	19.3	4.4	9.8	6.0	7.5	7.2	7.2	4.5	2.5	4.7	2.9	1.6	0.5	0.8	0.4	0.3	5.2	—	
	女性 (n=11,036)	36.7	23.3	26.5	15.4	12.7	17.9	11.9	12.2	7.7	6.0	1.6	3.5	4.1	1.2	1.5	2.4	0.6	0.3	0.1	0.1	4.1	—	
学部系統別	人文科学系 (n= 4,220)	38.1	21.3	23.4	15.6	15.9	12.8	10.4	12.5	6.9	9.6	3.1	3.3	4.0	2.4	2.6	2.0	0.8	0.3	0.4	0.1	4.5	—	
	法律・政治・社会系 (n= 4,445)	33.3	24.9	26.2	19.1	13.9	10.8	10.9	8.9	8.6	6.5	4.9	3.3	4.1	2.8	1.9	2.5	0.5	0.5	0.2	0.2	4.1	—	
	商・経済・経営系 (n= 4,635)	30.2	31.5	24.9	16.1	14.8	12.0	11.1	7.2	8.7	5.7	4.9	5.0	3.5	2.7	0.7	1.5	0.5	0.9	0.1	0.2	4.3	—	
	理・工学 (n= 2,696)	48.9	17.8	20.1	13.8	22.1	7.6	10.5	8.4	6.4	5.3	3.4	4.0	1.5	3.1	5.6	1.7	0.3	0.3	0.4	0.1	5.5	—	
	スポーツ・体育系 (n= 341)	28.4	24.3	20.8	44.0	11.1	12.6	9.1	7.0	5.6	1.5	5.9	4.4	0.3	1.8	0.6	2.9	0.3	—	—	—	6.5	—	
	医・歯・薬・看護系 (n= 1,048)	63.2	15.8	17.9	8.8	11.2	16.7	13.9	7.8	1.1	3.7	3.9	3.7	2.1	2.6	0.7	1.2	0.5	0.5	0.3	—	5.9	—	
学年別	1年 (n= 6,056)	42.6	22.6	23.5	19.0	16.3	12.3	10.9	9.2	1.2	7.2	3.9	2.7	5.1	2.7	0.8	2.1	0.5	0.5	0.2	0.2	4.5	—	
	2年 (n= 5,325)	40.1	24.5	23.7	16.6	16.1	12.0	11.1	9.6	2.6	6.2	4.6	3.8	3.5	2.9	1.4	2.1	0.5	0.6	0.2	0.1	5.1	—	
	3年 (n= 4,483)	34.8	22.3	22.1	17.6	13.8	10.4	8.5	9.5	21.2	5.5	3.5	3.8	2.3	2.2	3.4	2.3	0.8	0.5	0.3	0.1	4.4	—	
	4年 (n= 3,960)	30.8	25.2	25.4	11.0	16.1	12.5	13.3	10.0	8.6	7.3	4.1	6.1	1.6	2.9	4.2	1.7	0.5	0.5	0.2	0.2	4.8	—	
入試方法別	一般入試・センター試験 (大学入学共通テスト) 併用 (n= 9,156)	39.3	24.4	24.1	14.6	16.4	10.1	10.8	9.6	7.7	8.0	4.3	3.7	2.9	2.5	2.5	1.7	0.6	0.4	0.2	0.2	4.7	—	
	センター試験 (大学入学共通テスト) のみ (n= 1,300)	39.3	25.2	18.7	14.0	16.5	9.9	10.8	11.0	8.6	8.4	2.7	4.2	3.2	2.0	3.8	2.0	0.8	0.6	0.3	0.2	6.1	—	
	AO・自己推薦入試 (n= 1,291)	35.6	21.8	23.2	18.0	15.2	13.7	10.8	12.3	7.8	4.5	4.7	3.9	3.2	4.0	1.3	2.2	0.7	0.9	0.2	0.2	4.7	—	
	推薦入試 (n= 7,778)	36.1	22.5	24.3	18.8	15.0	14.0	11.0	8.9	6.8	5.1	4.0	3.9	3.7	2.9	1.0	2.3	0.5	0.6	0.3	0.1	4.6	—	
	その他 (n= 680)	46.2	24.7	14.1	9.1	11.6	9.0	10.9	8.2	12.2	5.3	2.6	7.5	5.7	1.5	11.0	2.4	0.6	1.0	0.9	0.3	4.4	—	
経済状況別	経済状況は余裕がある (n= 7,125)	39.1	23.4	23.5	16.8	14.8	11.4	10.7	9.4	7.9	7.0	4.1	4.5	3.7	2.5	2.2	2.2	0.6	0.4	0.2	0.2	4.4	—	
	経済状況は苦しい (n= 5,105)	35.9	24.2	24.4	16.7	15.8	11.5	11.8	9.1	7.7	5.7	3.9	4.0	3.1	3.0	2.4	2.0	0.5	0.9	0.4	0.2	5.0	—	

※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 「全体【2021】」より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 「全体【2021】」より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 「全体【2021】」より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「クラブ・サークルの活動」は2021年文言変更、2017年まで「クラブ・サークル活動」
 「パソコン・インターネット・SNS・ゲーム」は2017年文言変更、2014年まで「パソコン・インターネット」
 「自治会・学生会等学生団体の活動」は2021年文言変更、2014年まで「自治会活動」
 「スポーツの観戦やその応援」は2021年文言変更、2017年までは「スポーツ」/「政治活動」は2021年文言変更、2017年に追加した際は「政治」

Q25.01

大学生活の中で大切なこと

◆今回選択肢文言を変更した「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」が51.8%でトップ。「よい友人・先輩を得ること」、「人脈をつくること」は減少傾向。

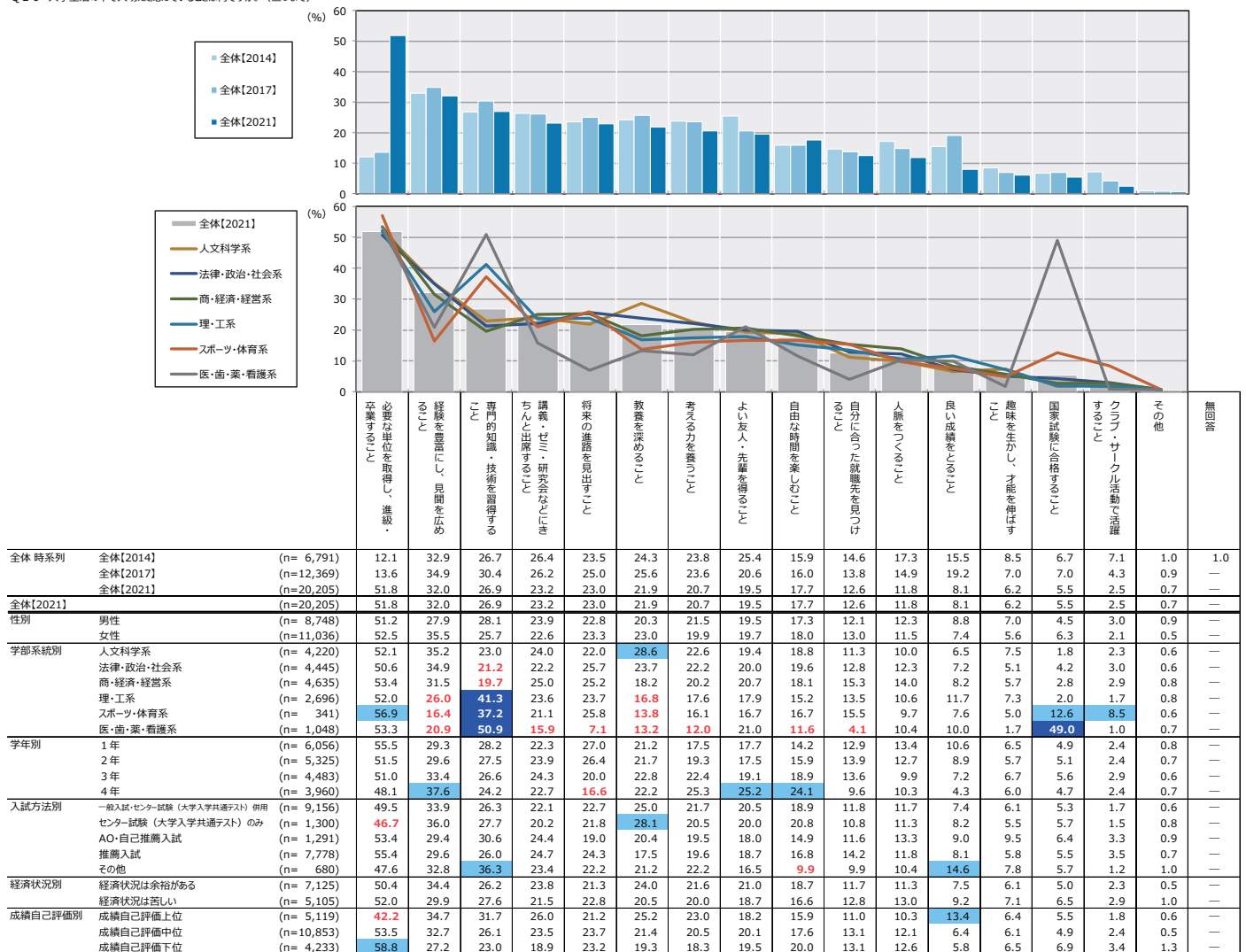
- ・前回までは「進級・卒業すること」という選択肢であり、「必要な単位を取得し」という文言の追加がスコア増に影響したと考えられる。
- ・但し、文言変更以外でもコロナ禍で学生のおかれた状況に響いたであろう側面も加わり、前回までの選択肢と比べスコアが大きく増加したと思われる。

◆以降、「経験を豊富にし、見聞を広めること」(32.0%)、「専門的知識・技術を習得すること」(26.9%)がつつが、前回よりも全般的にスコアは減少傾向。

- ・性別にみると、女性は「経験を豊富にし、見聞を広めること」が男性よりも高い。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」では「教養を深めること」が高い。理系（「理・工系」「医・歯・薬・看護系」）、スポーツ・体育系では「専門的知識・技術を習得すること」が突出して高い。「医・歯・薬・看護系」では「国家試験に合格すること」も同様に突出している。
- ・学年別にみると、「4年」で「経験を豊富にし、見聞を広めること」「よい友人・先輩を得ること」「自由な時間を楽しむこと」が高い。

■大学生活の中で大切なこと（全体／複数回答）

Q26 大学生活の中で大切に思っていることは何ですか。（三つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け

+5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け

-5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「必要な単位を取得し、進級・卒業すること」は2021年文言変更、2017年までは「進級・卒業すること」

※「自分に合った就職先を見つけること」は2021年文言変更、2017年までは「よい就職先を見つけること」

※「良い成績をとること」は2021年文言変更、2017年までは「よい成績をとること」

現在の心身の状況

◆ 約半数が自分の心身の状態を「良い」と感じている。

- 全体では、48.6%が自分の心身の状態を「良い」と感じている。「変わらない」が31.6%で、「悪い」は19.9%。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」は「悪い」の割合が低い。
- 学年別にみると、「2年」は「良い」が38.9%で最も低い。次いで、「1年」43.7%、「3年」53.0%、「4年」は63.7%に及ぶ。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」では58.1%が「良い」と感じているが、「経済状況は苦しい」では「良い」は40.4%と相対的に低く、「悪い」が29.9%見られる。

■ 現在の心身の状況（全体／単一回答）

*2021年 新規設問

Q 2 7 あなたは、大学生になってからの自分の心身の状態をどう感じていますか。（一つだけ）

			良い	悪い	変わらない
●凡例					
全体[2021]	(n=20,205)		48.6%	19.9	31.6
性別	男性	(n= 8,748)	49.7	18.7	31.6
	女性	(n=11,036)	48.4	20.3	31.3
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	49.9	20.3	29.8
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	46.5	20.6	32.8
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	47.6	19.7	32.7
	理・工学	(n= 2,696)	48.8	19.7	31.6
	スポーツ・体育系	(n= 341)	53.1	14.4	32.6
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	51.3	19.3	29.4
学年別	1年	(n= 6,056)	43.7	19.8	36.5
	2年	(n= 5,325)	38.9	25.9	35.2
	3年	(n= 4,483)	53.0	18.2	28.8
	4年	(n= 3,960)	63.7	13.1	23.2
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	48.6	19.4	31.9
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	50.5	22.6	26.9
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	50.3	18.7	31.0
	推薦入試	(n= 7,778)	47.4	20.2	32.4
	その他	(n= 680)	53.8	19.3	26.9
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	58.1	15.4	26.6
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	40.4	29.9	29.7

読書冊数（1か月）

◆ 1か月に本を「ほぼ読まない」が48.9%。

- 全体では、1か月に本を「ほぼ読まない」が48.9%。「1～2冊」が35.8%。「3冊以上」は15.4%にとどまる。
- 学部系統別にみると、「ほぼ読まない」が他の層に比べて低いのは「人文科学系」で唯一4割未満。反対に高いのは「スポーツ・体育系」と「医・歯・薬・看護系」で6割を超える。
- 学年別にみると、わずかに「1年」と「4年」の読んでいる冊数が多いが、大きな差は見られない。
- 入試方法別にみると、「一般入試・センター試験」（「一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用」「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」）の方が「推薦入試」（「AO・自己推薦入試」「推薦入試」）よりも読んでいる冊数が多い。
- 大学生生活充実度別にみると、充実度が低くなるほど「ほぼ読まない」割合が高くなる傾向。
- 経済状況別にみると、「ほぼ読まない」割合は「経済状況は苦しい」の方がやや高い。

■ 読書冊数（1か月）（全体／単一回答）

*2021年 新規設問

Q28 あなたは、1か月に何冊くらいの本（電子書籍を含む。雑誌、漫画は除く）を読みますか。（一つだけ）

			ほぼ読まない	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7冊以上
●凡例							
全体【2021】	(n=20,205)		48.9%	35.8	9.7	2.9	2.8
性別							
男性	(n= 8,748)		47.2	36.1	10.2	3.3	3.2
女性	(n=11,036)		50.6	35.5	9.2	2.5	2.2
学部系統別							
人文科学系	(n= 4,220)		38.3	39.0	13.7	4.5	4.5
法律・政治・社会系	(n= 4,445)		46.4	38.0	10.3	2.9	2.4
商・経済・経営系	(n= 4,635)		53.0	34.3	7.6	2.5	2.5
理・工系	(n= 2,696)		54.0	32.6	8.8	2.6	2.0
スポーツ・体育系	(n= 341)		67.2	27.0	5.0	0.3	3.6
医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)		63.3	29.6	4.9	0.9	1.4
学年別							
1年	(n= 6,056)		48.6	36.0	10.0	2.7	2.7
2年	(n= 5,325)		50.2	34.6	10.1	2.7	2.4
3年	(n= 4,483)		49.0	36.8	8.9	2.7	2.5
4年	(n= 3,960)		47.3	36.1	9.6	3.5	3.5
入試方法別							
一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)		44.9	36.9	11.4	3.4	3.4
センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)		40.2	38.6	12.5	4.0	4.7
AO・自己推薦入試	(n= 1,291)		53.8	33.5	8.4	2.2	2.2
推薦入試	(n= 7,778)		55.1	33.7	7.2	2.2	1.9
その他	(n= 680)		39.1	44.1	11.2	3.5	2.1
大学生生活充実度別							
大学生生活は充実している	(n=11,874)		46.4	37.3	10.3	3.1	2.9
大学生生活は普通である	(n= 5,260)		51.3	34.6	9.0	2.6	2.5
大学生生活は充実していない	(n= 3,071)		54.2	32.0	8.4	2.6	2.8
経済状況別							
経済状況は余裕がある	(n= 7,125)		46.0	37.0	10.6	3.4	3.0
経済状況は苦しい	(n= 5,105)		50.1	34.5	9.1	3.2	3.1

SNSトラブルの有無

◆ SNSトラブルに巻き込まれた経験が「ある」は7.4%。

- 全体では、SNSトラブルに巻き込まれた経験が「ある」が7.4%、「ない」が92.6%。
- 属性による大きな差はみられないが、性別で「ある」をみると、「女性」が「男性」をわずかに上回る。

■ SNSトラブルの有無（全体／単一回答）

Q29 SNSでトラブルに巻き込まれたことはありますか。（一つだけ）

* 2021年 新規設問

			ある	ない
			● 凡例	
全体【2021】		(n=20,205)	7.4%	92.6
性別	男性	(n= 8,748)	6.3	93.7
	女性	(n=11,036)	8.0	92.0
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	8.9	91.1
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	7.4	92.6
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	7.0	93.0
	理・工学	(n= 2,696)	6.2	93.8
	スポーツ・体育系	(n= 341)	5.0	95.0
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	6.2	93.8
学年別	1年	(n= 6,056)	7.3	92.7
	2年	(n= 5,325)	7.7	92.3
	3年	(n= 4,483)	7.3	92.7
	4年	(n= 3,960)	7.0	93.0
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	6.8	93.2
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	6.8	93.2
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	10.0	90.0
	推薦入試	(n= 7,778)	7.5	92.5
	その他	(n= 680)	10.4	89.6

薬物使用への考え方

◆薬物について、87.0%は「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」と考えている。

- 全体では、薬物使用について「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」が87.0%を占める。前回の88.2%からはほぼ横ばい。しかし、「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」という自己責任での使用容認派は、多数派ではないものの、増加傾向が続いている（前々回7.9%→前回8.1%→今回8.7%）。
- 性別にみると、男性の方が女性よりも「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」の割合が高い（男性12.5%、女性5.5%）。
- 学部系統別にみると、「医・歯・薬・看護系」の「どのような理由であれ、絶対に使うべきではない」が他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、わずかではあるが、「1年」よりも「3年」「4年」の方が「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」の割合が高い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」に比べ「経済状況は苦しい」では「使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う」の割合がわずかに高い。

■薬物使用への考え方（全体／単一回答）

Q30 あなたは薬物（大麻など）の使用について、どのように考えていますか。（一つだけ）

			どのような理由であれ、絶対に使うべきではない	一度くらいなら使っても構わないと思う	使うかどうかは個人の自由であり、使っても構わないと思う	その他	無回答
●凡例							
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	84.2%	0.6	7.9	3.1	4.2
	全体【2017】	(n=12,369)	88.2	0.7	8.1	3.0	—
	全体【2021】	(n=20,205)	87.0	0.4	8.7	3.9	—
全体【2021】		(n=20,205)	87.0	0.4	8.7	3.9	—
性別	男性	(n= 8,748)	81.8	0.6	12.5	5.1	—
	女性	(n=11,036)	91.6	0.2	5.2	5.7	—
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	86.9	0.5	8.6	4.1	—
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	87.2	0.3	8.5	3.9	—
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	87.3	0.4	8.8	3.5	—
	理・工系	(n= 2,696)	85.2	0.7	10.1	4.0	—
	スポーツ・体育系	(n= 341)	87.7	0.3	10.3	1.8	—
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	90.6	0.4	5.6	3.4	—
学年別	1年	(n= 6,056)	88.8	0.3	7.3	3.5	—
	2年	(n= 5,325)	87.2	0.3	8.8	3.7	—
	3年	(n= 4,483)	85.4	0.6	9.8	4.2	—
	4年	(n= 3,960)	86.0	0.4	9.5	4.2	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	86.1	0.4	9.1	4.4	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	85.2	0.2	9.7	4.9	—
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	86.0	0.5	10.2	3.3	—
	推薦入試	(n= 7,778)	88.7	0.4	7.8	3.2	—
	その他	(n= 680)	84.3	1.0	10.0	4.7	—
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	88.1	0.4	8.0	3.5	—
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	83.7	0.6	11.3	4.3	—

Q30_01

4章：正課教育

● 正課教育の満足度

正課教育関連のすべての項目について、満足度は大幅に上昇。

● 科目履修の時に重視する要素

「楽しく面白い授業」「教養が身につく」「卒業要件を満たすため」「知的刺激がある」は増加。一方で、「講義の時間帯」「教師の人間性」などは減少傾向にあり、オンライン授業の影響が垣間みえる。

● 講義内容理解の難しさ

講義内容の理解に73.1%が「困難を感じたことがある」。
講義内容が難しい理由は「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」が55.4%でトップ。

● 成績の自己評価

自分の成績について、「中位だと思う」が53.7%、「上位だと思う」は22.2%。

コメント

〔正課教育の満足度〕は前回は低下傾向だったが、今回は大幅増。〔科目履修の時に重視する要素〕において「楽しく面白い授業」「教養が身につく」「卒業要件を満たすため」「知的刺激がある」は増加し、3章と同様、授業を重視する様子がうかがえる。

〔講義内容理解の難しさ〕では73.1%が講義内容の理解に「困難を感じたことがある」と回答。難しい理由のトップは「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」で、高校とのギャップへの戸惑いがみられる。

【教授陣】満足度

◆【教授陣】の満足度は大きく上昇し、7割を超える。

- ・「満足」+「やや満足」の割合でみたとき、【教授陣】は76.9%で前回より大きく上昇。特に「満足」は13ポイント増。
- ・性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（73.3%）よりも女性（80.2%）の方が高い。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高い。一方、「商・経済・経営系」は「満足」+「やや満足」のスコアが69.9%で他の学部系統を下回る。
- ・学年別にみると、「2年」の「満足」のスコアが低い。
- ・奨学金受給状況別にみると、「奨学金を受けている（両方受給）」学生の「満足」+「やや満足」のスコアが71.8%で他の層を下回る。
- ・何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを7ポイント上回る。

■【教授陣】満足度（全体／単一回答）

Q3 1-① 【教授陣】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	11.0%	47.9	6.9	1.6	32.0	0.6	58.9
	全体【2017】	(n=12,369)	10.5	44.6	7.3	2.4	35.2	—	55.1
	全体【2021】	(n=20,205)	23.7	53.2	12.4	3.1	7.7	—	76.9
全体【2021】	(n=20,205)	23.7	53.2	12.4	3.1	7.7	—	76.9	
性別	男性	(n= 8,748)	23.4	49.9	13.9	4.5	8.3	—	73.3
	女性	(n=11,036)	24.1	56.1	11.0	1.9	6.9	—	80.2
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	28.7	52.3	10.4	1.9	6.6	—	81.0
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	22.3	55.7	11.7	2.7	7.6	—	78.0
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	18.4	51.5	15.2	4.5	10.4	—	69.9
	理・工系	(n= 2,696)	22.7	52.3	13.8	4.2	7.1	—	75.0
	スポーツ・体育系	(n= 341)	22.0	55.1	11.4	2.1	9.4	—	77.1
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	23.7	52.0	13.4	3.1	7.9	—	75.7
学年別	1年	(n= 6,056)	23.4	53.8	11.9	2.5	8.5	—	77.2
	2年	(n= 5,325)	19.3	52.4	14.7	4.2	9.4	—	71.7
	3年	(n= 4,483)	23.8	55.6	11.8	2.9	6.0	—	79.4
	4年	(n= 3,960)	29.6	51.3	10.5	2.7	5.9	—	80.9
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	23.5	53.6	12.4	2.9	7.6	—	77.1
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	23.7	53.3	12.7	2.8	7.5	—	77.0
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	28.4	50.2	10.8	3.5	7.0	—	78.6
	推薦入試	(n= 7,778)	22.2	53.4	12.9	3.3	8.2	—	75.6
	その他	(n= 680)	35.0	48.8	9.1	2.8	4.3	—	83.8
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	25.3	51.7	12.3	3.2	7.5	—	77.0
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	22.4	53.7	12.3	3.0	8.6	—	76.1
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	22.4	49.4	14.2	3.8	10.3	—	71.8
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	23.9	53.6	12.3	3.1	7.2	—	77.5
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	24.7	53.6	12.0	2.8	7.0	—	78.3
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	19.7	51.5	14.1	4.4	10.4	—	71.2

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：

Q31_1.01

【カリキュラムの構成】満足度

◆【カリキュラムの構成】の満足度は大きく上昇し、7割を超える。

- 「満足」+「やや満足」の割合でみたとき、【カリキュラムの構成】は75.8%で前回より大きく上昇。特に「満足」は約17ポイント増。
- 性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（72.5%）よりも女性（78.8%）の方が高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高い。一方、「医・歯・薬・看護系」は「満足」+「やや満足」のスコアが70.7%で他の学部系統を下回る。
- 学年別にみると、「2年」の「満足」のスコアが低い。
- 何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを8ポイント上回る。

■【カリキュラムの構成】満足度（全体／単一回答）

Q31-2 【カリキュラムの構成】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」	
●凡例										
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	7.0%	42.4		11.5	2.2	36.4	0.7	49.4
	全体【2017】	(n=12,369)	7.0	40.9		10.9	3.3	37.9	—	47.9
	全体【2021】	(n=20,205)	23.5			52.3		14.2	3.7 6.3	75.8
全体【2021】		(n=20,205)	23.5			52.3		14.2	3.7 6.3	75.8
性別	男性	(n= 8,748)	21.7			50.8		15.0	5.1 7.4	72.5
	女性	(n=11,036)	25.1			53.7		13.2	2.6 5.3	78.8
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	25.7			52.3		13.4	3.2 5.4	78.0
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	23.8			52.1		14.3	3.1 6.8	75.9
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	20.4			52.8		14.6	4.5 7.8	73.2
	理・工系	(n= 2,696)	21.1			52.9		15.4	5.0 5.6	74.0
	スポーツ・体育系	(n= 341)	22.3			53.4		12.9	2.1 9.4	75.7
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	23.9			46.8		17.7	5.2 6.5	70.7
学年別	1年	(n= 6,056)	25.2			52.5		12.9	2.9 6.4	77.7
	2年	(n= 5,325)	19.6			52.6		15.5	4.3 7.9	72.2
	3年	(n= 4,483)	23.3			53.8		14.1	3.5 5.2	77.1
	4年	(n= 3,960)	26.3			50.7		13.8	4.0 5.3	77.0
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	22.4			52.8		15.0	3.5 6.3	75.2
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	20.2			51.8		16.5	6.0 5.5	72.0
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	27.3			51.1		11.9	4.3 5.5	78.4
	推薦入試	(n= 7,778)	23.8			52.4		13.3	3.5 7.0	76.2
	その他	(n= 680)	32.9			48.5		12.4	3.5 2.6	81.4
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	24.5			51.3		14.0	4.2 5.9	75.8
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	22.8			52.3		14.3	3.7 6.8	75.1
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	23.3			49.2		15.4	4.0 8.2	72.5
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	23.5			52.8		14.0	3.6 6.1	76.3
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	24.7			52.7		13.4	3.4 5.8	77.4
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	18.6			50.7		17.0	5.3 8.4	69.3

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：

+10

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：

+5

『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：

-5

【授業の内容】満足度

◆【授業の内容】の満足度は大きく上昇し、8割弱。

- 「満足」+「やや満足」の割合でみたととき、【授業の内容】は78.6%で前回より大きく上昇。特に「満足」は約16ポイント増。
- 性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（74.3%）よりも女性（82.3%）の方が高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高く、8割を超える。一方、「商・経済・経営系」は「満足」+「やや満足」のスコアが73.8%で他の学部系統を下回る。
- 学年別にみると、コロナ禍の影響を一番受けた「2年」の「満足」のスコアが低い。
- 奨学金受給状況別にみると、「奨学金を受けている（両方受給）」で「満足」+「やや満足」の割合が他の層に比べて低め。
- 何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを約8ポイント上回る。

■【授業の内容】満足度（全体／単一回答）

Q31-③ 【授業の内容】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	7.8%	44.2	9.9	1.4	36.0	0.7	52.0
	全体【2017】	(n=12,369)	7.0	43.9	9.2	2.3	37.6	—	50.9
	全体【2021】	(n=20,205)	22.7	55.9	14.6	3.2	3.5	—	78.6
全体【2021】	(n=20,205)	22.7	55.9	14.6	3.2	3.5	—	78.6	
性別	男性	(n= 8,748)	21.5	52.8	16.7	4.6	4.4	—	74.3
	女性	(n=11,036)	23.7	58.6	12.9	2.1	2.7	—	82.3
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	27.0	55.5	12.1	2.6	2.8	—	82.5
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	22.0	56.9	14.6	3.0	3.5	—	78.9
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	18.9	54.9	17.5	4.1	4.7	—	73.8
	理・工系	(n= 2,696)	20.2	56.4	16.2	3.8	3.4	—	76.6
	スポーツ・体育系	(n= 341)	18.2	60.7	12.9	3.2	5.0	—	78.9
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	24.0	54.6	13.9	3.7	3.8	—	78.6
学年別	1年	(n= 6,056)	24.5	55.9	13.5	2.5	3.6	—	80.4
	2年	(n= 5,325)	18.7	55.8	17.2	4.1	4.2	—	74.5
	3年	(n= 4,483)	22.7	56.7	14.5	3.1	2.9	—	79.4
	4年	(n= 3,960)	25.6	55.5	12.7	3.2	3.0	—	81.1
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	22.0	56.5	14.6	3.4	3.5	—	78.5
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	19.8	55.3	18.2	3.8	3.0	—	75.1
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	26.3	53.8	13.3	3.3	3.2	—	80.1
	推薦入試	(n= 7,778)	22.4	55.9	14.7	3.1	3.9	—	78.3
	その他	(n= 680)	34.3	51.6	10.9	2.1	1.2	—	85.9
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	22.7	55.5	15.2	3.3	3.3	—	78.2
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	22.0	56.0	15.7	3.0	3.3	—	78.0
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	20.6	53.9	16.5	4.3	4.8	—	74.5
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	23.2	56.1	14.0	3.2	3.6	—	79.3
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	23.7	56.4	13.9	2.9	3.2	—	80.1
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	18.6	53.9	17.7	4.8	5.0	—	72.5

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満低い数値に網掛け：

+10

+5

-5

Q31_3_01

【ゼミなどの少人数教育】満足度

◆【ゼミなどの少人数教育】の満足度は66.0%と、前回より約10ポイント上昇。

- ・「満足」+「やや満足」の割合でみたとき、【ゼミなどの少人数教育】は66.0%で前回から約9ポイント増。
- ・性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（61.7%）よりも女性（69.9%）の方が高い。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高く、「満足」+「やや満足」が71.7%。一方、「理・工系」「医・歯・薬・看護系」は「満足」+「やや満足」のスコアが5割台で他の学部系統を下回る。
- ・学年別にみると、「1年」「2年」は「満足」+「やや満足」のスコアが5割台なのに対し、「3年」「4年」は8割前後と学年により大きな差がある。
- ・何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを11ポイント上回る。

■【ゼミなどの少人数教育】満足度（全体／単一回答）

Q3 1-④ 【ゼミなどの少人数教育】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	19.9%	40.3	4.5	1.5	33.0	0.9	60.2
	全体【2017】	(n=12,369)	18.7	38.5	4.0	2.2	36.6	—	57.2
	全体【2021】	(n=20,205)	36.3	29.7	6.2	2.5	25.3	—	66.0
全体【2021】	(n=20,205)	36.3	29.7	6.2	2.5	25.3	—	66.0	
性別	男性	(n= 8,748)	32.7	29.0	6.9	3.1	28.3	—	61.7
	女性	(n=11,036)	39.5	30.4	5.5	1.9	22.8	—	69.9
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	41.7	30.0	5.5	2.0	20.9	—	71.7
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	37.4	30.6	6.2	2.5	23.2	—	68.0
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	35.1	31.2	7.3	3.3	23.1	—	66.3
	理・工系	(n= 2,696)	25.6	27.6	5.9	2.5	38.5	—	53.2
	スポーツ・体育系	(n= 341)	37.8	30.8	4.7	1.5	25.2	—	68.6
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	25.3	24.7	6.8	3.1	40.2	—	50.0
学年別	1年	(n= 6,056)	27.2	26.1	4.7	1.6	40.4	—	53.3
	2年	(n= 5,325)	28.6	29.8	6.2	2.6	32.7	—	58.4
	3年	(n= 4,483)	44.9	32.9	7.0	2.9	12.4	—	77.8
	4年	(n= 3,960)	51.2	31.4	7.1	3.0	7.3	—	82.6
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	34.1	30.2	6.0	2.5	27.2	—	64.3
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	36.4	30.4	7.0	3.5	22.8	—	66.8
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	43.1	27.5	5.6	2.4	21.5	—	70.6
	推薦入試	(n= 7,778)	36.9	29.4	6.4	2.4	25.0	—	66.3
	その他	(n= 680)	46.8	29.3	5.3	2.4	16.3	—	76.1
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	37.5	30.1	7.4	2.8	22.2	—	67.6
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	36.4	29.8	6.2	2.3	25.1	—	66.2
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	35.1	28.1	6.5	2.3	27.9	—	63.2
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	36.2	29.7	5.9	2.5	25.8	—	65.9
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	38.5	29.7	5.8	2.2	23.7	—	68.2
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	27.5	29.6	7.5	3.8	31.7	—	57.1

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け： +10

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： +5

『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け： -5

Q31_5_01

【大学の施設・設備】満足度

◆【大学の施設・設備】の満足度は73.3%で前回よりも大きく上昇。

- ・「満足」+「やや満足」の割合でみたとき、【大学の設備・施設】は73.3%で前回より約19ポイント増。
- ・性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（69.5%）よりも女性（76.5%）の方が高い。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高く、「満足」+「やや満足」が77.8%。一方、「医・歯・薬・看護系」は「満足」+「やや満足」のスコアが62.4%で他の学部系統を下回る。
- ・学年別にみると、「2年」は「満足」+「やや満足」のスコアが68.1%で他の学年を下回る。
- ・何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを約7ポイント上回る。

■【大学の施設・設備】満足度（全体／単一回答）

Q3 1 - ⑤ 【大学の施設・設備】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

●凡例			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	14.8%	41.9	13.7	4.0	24.8	0.8	56.7
	全体【2017】	(n=12,369)	13.3	41.5	15.9	5.2	24.0	—	54.8
	全体【2021】	(n=20,205)	31.0	42.3	15.0	5.5	6.2	—	73.3
全体【2021】		(n=20,205)	31.0	42.3	15.0	5.5	6.2	—	73.3
性別	男性	(n= 8,748)	29.2	40.3	15.8	7.3	7.3	—	69.5
	女性	(n=11,036)	32.7	43.8	14.4	3.9	5.2	—	76.5
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	35.2	42.6	13.4	4.5	4.3	—	77.8
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	33.5	41.1	14.1	4.6	6.8	—	74.6
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	30.9	40.4	13.3	6.2	9.1	—	71.3
	理・工系	(n= 2,696)	25.5	44.5	18.0	6.6	5.4	—	70.0
	スポーツ・体育系	(n= 341)	27.6	44.0	18.8	6.2	3.5	—	71.6
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	22.2	40.2	23.5	10.1	4.0	—	62.4
学年別	1年	(n= 6,056)	35.3	41.9	12.1	3.8	6.9	—	77.2
	2年	(n= 5,325)	27.2	40.9	14.9	5.8	11.1	—	68.1
	3年	(n= 4,483)	29.7	43.7	17.0	6.4	3.1	—	73.4
	4年	(n= 3,960)	31.3	43.5	16.9	6.0	2.2	—	74.8
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	30.9	42.6	15.3	5.3	6.0	—	73.5
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	28.8	42.4	16.5	6.9	5.3	—	71.2
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	29.7	40.0	17.3	7.0	6.0	—	69.7
	推薦入試	(n= 7,778)	31.3	42.4	14.3	5.2	6.6	—	73.7
	その他	(n= 680)	35.9	39.3	12.5	5.7	6.6	—	75.2
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	31.8	41.9	15.1	5.3	5.9	—	73.7
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	30.3	42.0	15.8	6.4	5.4	—	72.3
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	29.7	41.4	16.5	6.1	6.2	—	71.1
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	31.2	42.5	14.6	5.2	6.5	—	73.7
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	32.0	42.6	14.9	5.2	5.4	—	74.6
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	27.1	41.0	15.7	6.7	9.6	—	68.1

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：

『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：

+10

+5

-5

Q31_5_01

【授業等、正課教育全体】満足度

◆【授業等、正課教育全体】の満足度は77.1%で前回よりも大きく上昇。

- 「満足」+「やや満足」の割合でみたとき、【授業等、正課教育全体】は77.1%で前回より約26ポイント増加。
- 性別にみると、「満足」+「やや満足」の割合は男性（73.0%）よりも女性（80.7%）の方が高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」が最も満足度が高く、「満足」+「やや満足」が80.7%。一方、「商・経済・経営系」は「満足」+「やや満足」のスコアが71.9%で他の学部系統を下回る。
- 学年別にみると、「2年」は「満足」+「やや満足」のスコアが71.9%で他の学年を下回る。
- 何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」学生の「満足」+「やや満足」のスコアは「自分の事を何でも話せる友人がいない」学生のスコアを約8ポイント上回る。

■【授業等、正課教育全体】満足度（全体／単一回答）

Q 3 1 - ⑥ 【授業等、正課教育全体】について、満足度を教えてください。（一つだけ）

			満足	やや満足	やや不満	不満	関心がない・わからない	無回答	「満足」+「やや満足」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	7.9%	44.4	6.0	1.4	38.8	1.5	52.3
	全体【2017】	(n=12,369)	7.0	44.6	7.2	2.4	38.8	—	51.6
	全体【2021】	(n=20,205)	23.6	53.5	12.1	3.4	7.4	—	77.1
全体【2021】	(n=20,205)	23.6	53.5	12.1	3.4	7.4	—	77.1	
性別	男性	(n= 8,748)	21.6	51.4	14.0	4.5	8.4	—	73.0
	女性	(n=11,036)	25.4	55.3	10.5	2.3	6.5	—	80.7
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	28.0	52.7	10.1	2.7	6.5	—	80.7
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	23.5	54.9	11.4	2.9	7.3	—	78.4
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	20.6	51.3	14.0	4.7	9.3	—	71.9
	理・工系	(n= 2,696)	19.7	55.1	14.2	3.6	7.5	—	74.8
	スポーツ・体育系	(n= 341)	20.5	58.7	10.0	2.6	8.2	—	79.2
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	23.2	51.5	14.8	3.1	7.3	—	74.7
学年別	1年	(n= 6,056)	26.2	53.1	9.9	2.3	8.5	—	79.3
	2年	(n= 5,325)	18.8	53.1	14.5	4.5	9.1	—	71.9
	3年	(n= 4,483)	23.4	55.0	12.4	3.4	5.9	—	78.4
	4年	(n= 3,960)	26.9	53.0	11.6	3.2	5.3	—	79.9
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	22.5	54.5	12.3	3.2	7.4	—	77.0
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	21.5	54.7	12.9	4.5	6.3	—	76.2
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	27.5	50.8	10.9	4.0	6.8	—	78.3
	推薦入試	(n= 7,778)	23.6	53.0	12.1	3.3	8.1	—	76.6
	その他	(n= 680)	35.7	47.2	9.6	3.5	4.0	—	82.9
奨学金受給状況別	奨学金を受けている（給付のみ）	(n= 2,437)	25.1	52.9	11.5	3.6	7.0	—	78.0
	奨学金を受けている（貸与のみ）	(n= 4,225)	22.1	54.0	12.9	3.2	7.7	—	76.1
	奨学金を受けている（両方受給）	(n= 1,009)	24.2	51.6	13.1	3.5	7.6	—	75.8
	奨学金を受けていない	(n=12,534)	23.8	53.5	11.9	3.4	7.4	—	77.3
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	24.9	53.8	11.4	3.1	6.8	—	78.7
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	18.4	51.9	15.0	4.5	10.2	—	70.3

※2017年までの選択肢は「大変満足」「満足」「不満」「大変不満」「どちらともいえない」であった。

経年比較に際しては、今回調査の「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「関心がない・わからない」の順に対応させている。

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け： +10

『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： +5

『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け： -5

履修登録時の重視項目

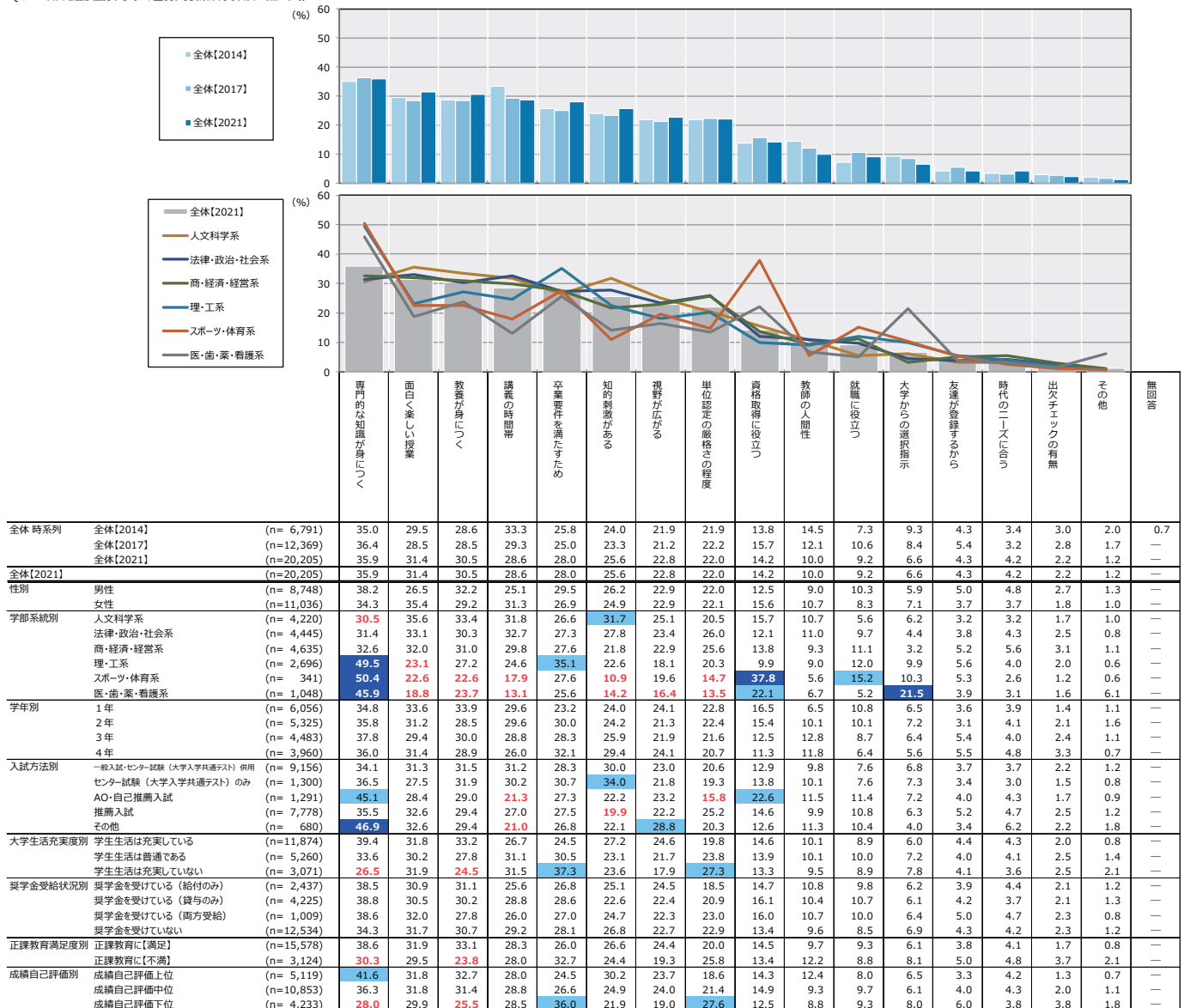
◆「面白く楽しい授業」「教養が身につく」「卒業要件を満たすため」「知的刺激がある」は増加。

◆一方で、「講義の時間帯」「教師の人間性」などは減少傾向にある。

- 全体では「専門的な知識が身につく」(35.9%)が最も高く、次いで「面白く楽しい授業」(31.4%)、「教養が身につく」(30.5%)が3割台で続く。
- 「面白く楽しい授業」(前回28.5%→今回31.4%)、「教養が身につく」(前回28.5%→今回30.5%)、「卒業要件を満たすため」(前回25.0%→今回28.0%)はそれぞれ前回からわずかではあるが増加。一方、「講義の時間帯」は前回より減少傾向が続き、今回は4位になった(前回33.3%→今回28.6%)。
- 性別にみると、「男性」は「専門的な知識が身につく」「教養が身につく」、女性は「面白く楽しい授業」「講義の時間帯」がそれぞれ高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」では「知的刺激がある」が相対的に高く、「理・工系」「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」では「専門的な知識が身につく」が高いという特徴がある。また、「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」は「資格取得に役立つ」も高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」では「専門的な知識が身につく」「資格取得に役立つ」が高くなっている。
- 大学生活充実度別にみると、充実度が高いほどスコアが高くなるのは「専門的な知識が身につく」「教養が身につく」「視野が広がる」など。反対に充実度が低いほどスコアが高くなるのは「卒業要件を満たすため」「単位認定の厳格さの程度」など。
- 正課教育満足度別みると、「正課教育【不満】」では「専門的な知識が身につく」や「教養が身につく」を重視する割合が相対的に低い。
- 成績自己評価別にみると、自己評価が高いほどスコアが高くなるのは「専門的な知識が身につく」「教養が身につく」「知的刺激がある」など。反対に自己評価が低いほどスコアが高くなるのは「卒業要件を満たすため」「単位認定の厳格さの程度」など。

履修登録時の重視項目(全体/複数回答)

Q3.2 科目を履修登録する時に、重視する要素は何ですか。(三つまで)



※「全体[2021]」で階層ソート
 +10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け
 ※「卒業要件を満たすため」は2021年文言変更、2017年までは「卒業単位数を満たすため」
 「単位認定の厳格さの程度」は2021年文言変更、2017年までは「単位認定が緩やか」
 「出欠チェックの有無」は2021年文言変更、2017年までは「出欠チェックがない」

講義内容理解の難しさ

◆ 講義内容の理解に73.1%が「困難を感じたことがある」。

- 学部系統別にみると、「理・工学」「医・歯・薬・看護系」では「困難を感じたことがある」が8割前後で他の学部系統よりも高い。
- 学年別にみると、「2年」で「困難を感じたことがある」が76.8%。以降、学年が上がるにつれてスコアが低下する。
- 入試方法別にみると、「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」では「困難を感じたことがある」が63.9%で他の層より低い。
- 大学生生活充実度別にみると、充実度が低いほど「困難を感じたことがある」割合が高くなり、「充実していない」では8割を超える。
- 正課教育満足度別みると、「正課教育【満足】」よりも「正課教育【不満】」の方が、「困難を感じたことがある」割合が高い。
- 成績自己評価別にみると、成績自己評価が低いほど「困難を感じたことがある」割合が高くなり、「成績自己評価下位」では85.2%に及ぶ。

■ 講義内容理解の難しさ（全体／単一回答）

* 2021年 新規設問

Q 3 3 大学入学後、受講した講義の内容で理解に困難を感じたことはありますか。（一つだけ）

			困難を感じたことがある	困難を感じたことはない
●凡例				
全体【2021】		(n=20,205)	73.1%	26.9
性別	男性	(n= 8,748)	73.2	26.8
	女性	(n=11,036)	72.9	27.1
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	69.8	30.2
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	73.1	26.9
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	72.7	27.3
	理・工学	(n= 2,696)	80.9	19.1
	スポーツ・体育系	(n= 341)	69.5	30.5
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	77.6	22.4
学年別	1年	(n= 6,056)	72.5	27.5
	2年	(n= 5,325)	76.8	23.2
	3年	(n= 4,483)	73.0	27.0
	4年	(n= 3,960)	68.4	31.6
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	72.0	28.0
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	63.9	36.1
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	73.5	26.5
	推薦入試	(n= 7,778)	76.1	23.9
	その他	(n= 680)	69.6	30.4
大学生生活充実度別	大学生生活は充実している	(n=11,874)	69.8	30.2
	大学生生活は普通である	(n= 5,260)	75.4	24.6
	大学生生活は充実していない	(n= 3,071)	81.6	18.4
正課教育満足度別	正課教育に【満足】	(n=15,578)	71.3	28.7
	正課教育に【不満】	(n= 3,124)	79.6	20.4
成績自己評価別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	63.5	36.5
	成績自己評価中位	(n=10,853)	72.9	27.1
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	85.2	14.8

講義内容が難しい理由

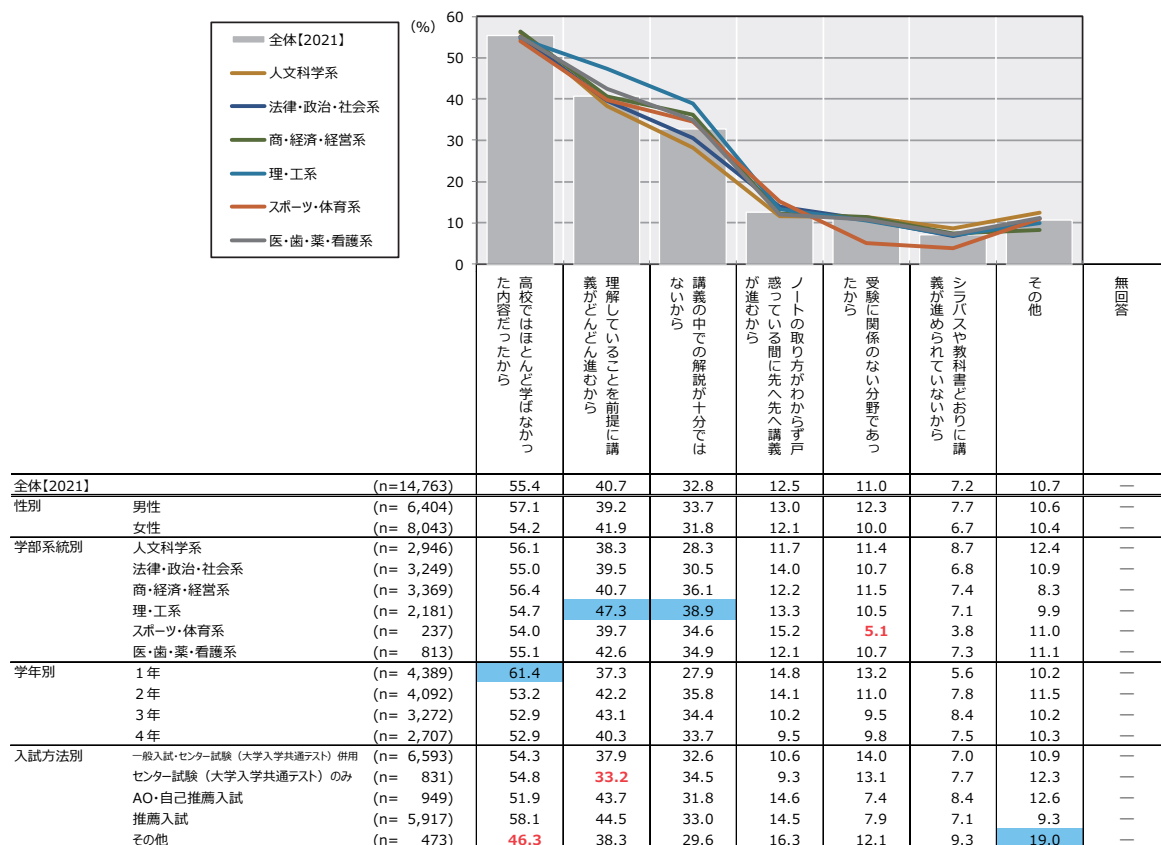
◆ 講義内容が難しい理由は「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」が55.4%でトップ。

- ・ 学部系統別にみると、「理・工学」では「理解していることを前提に講義がどんどん進むから」「講義の中での解説が十分ではないから」が他の学部系統に比べて高い。
- ・ 学年別にみると、「1年」で「高校ではほとんど学ばなかった内容だったから」が61.4%で高い。
- ・ 入試方法別にみると、「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」では「理解していることを前提に講義がどんどん進むから」（33.2%）、「その他」では「高校ではほとんど学ばなかった内容だから」（46.3%）が、他層より低い。

■ 講義内容が難しい理由（講義内容理解困難者／複数回答）

* 2021年 新規設問

Q34 困難だと感じた理由に近いものを選んでください。（複数可）



※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q34.01

成績自己評価

◆自分の成績について、「中位だと思う」が53.7%、「上位だと思う」は22.2%。

- 学部系統別にみると、「理・工系」では「中位だと思う」が他の学部系統に比べて低い一方、「医・歯・薬・看護系」では「下位だと思う」がやや高い。
- 学年別にみると、学年が上がるほど、「最上位レベルだと思う」「上位だと思う」のスコアが高くなっている。
- 入試方法別にみると、「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」の「上位だと思う」が突出して高い。

■成績自己評価（全体／単一回答）

Q35 あなたは大学での自分の成績をどう思いますか。（一つだけ）

*2021年 新規設問

			最上位レベルだと思う	上位だと思う	中位だと思う	下位だと思う	最下位レベルだと思う
●凡例							
全体【2021】		(n=20,205)	3.2%	22.2	53.7	16.7	4.3
性別	男性	(n= 8,748)	3.6	20.3	52.4	18.4	5.3
	女性	(n=11,036)	2.7	23.7	55.0	15.4	3.2
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	2.8	23.2	54.3	15.5	4.2
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	2.9	21.1	56.0	16.0	4.1
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	3.3	20.0	56.0	17.2	3.6
	理・工系	(n= 2,696)	4.2	24.9	47.1	17.9	6.0
	スポーツ・体育系	(n= 341)	3.8	20.5	54.8	17.0	3.8
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	2.3	21.3	49.2	21.5	5.7
	学年別	1年	(n= 6,056)	1.8	17.8	58.2	18.2
2年		(n= 5,325)	2.9	21.3	54.2	17.1	4.5
3年		(n= 4,483)	3.7	24.8	52.8	14.9	3.8
4年		(n= 3,960)	4.9	27.6	49.0	14.9	3.6
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	3.3	24.2	53.0	15.3	4.1
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	6.9	33.9	46.5	9.7	3.0
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	1.9	17.0	55.2	20.7	5.2
	推薦入試	(n= 7,778)	2.5	18.3	55.5	19.1	4.6
	その他	(n= 680)	3.2	27.2	53.1	13.8	2.6



5章：正課外活動

● 学内の正課外講座、学外の講座や各種学校への参加・受講

「学内の正課外講座」および「学外の講座や各種学校」への参加・受講者は前回から増加。また、「各種資格試験」や「珠算・簿記・速記」の講座の受講が上昇傾向にある。

● インターンシップ

インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しており、「4年」では、47.4%がすでに参加したと回答している。

● 課外活動参加

課外活動への参加率は53.7%、減少傾向が続く。

● 課外活動と授業の両立

「両立できている」「まあ両立できている」の合計は77.2%と、前々回と同水準。

● 課外活動に参加する目的

課外活動参加の目的1位の「友人を得る」は、前回より増加傾向が続く。

● 課外活動の非参加・中止理由

課外活動に参加しないのは、「入りたいクラブがない」「勉強と両立できない」「アルバイトと両立できない」であるが、コロナ禍で参加の機会を逸してしまった学生も少なくないと考えられる。

● ボランティア

ボランティア参加経験率は15.4%であり、前々回（28.8%）から減少傾向が続く。特に、「1年」「2年」における減少が目立つことから、コロナ禍における行動制限の影響が大きいと考えられる。

コメント

課外活動への参加率は53.7%で、前々回（70.2%）からの減少傾向が続く。課外活動に参加しないのは「入りたいクラブがない」「アルバイトと両立できない」「勉強と両立できない」が主な理由。一方、参加している学生の目的は「友人を得る」（51.0%）が1位で、そのスコアは前々回（37.0%）から大幅に増加。満足点についても「友人、居場所を得た」（65.6%）が突出して高い。

インターンシップへの参加率は増加し続けており、「すでに参加した」が21.4%。「4年」に限ってみると「すでに参加した」は47.4%にのぼる。

資格取得に向けた学内外講座の参加・受講状況

◆ 学内の正課外講座・学外の講座や、各種学校への参加・通学者は前回から増加。

- ・ 学内の正課外講座、学外の講座や各種学校のいずれかに参加している学生（「学内」+「学外」+「両方」）の割合は、前回からやや増加（前回17.4%→今回20.4%）。ただし、「学内の正課外講座を受講している」は微減。
- ・ 学部系統別みると、文系（「人文科学系」「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」）が全般に参加率が高い。
- ・ 学年別みると、「3年」の参加率が他の学年に比べて高い。

■ 資格取得に向けた学内外講座の参加・受講状況（全体／単一回答）

Q36 現在、資格、技術取得、受験等のために、学内の正課外講座を受講したり、学外の各種学校などを受講していますか。（一つだけ）

			学内の正課外講座を受講している	学外の講座や各種学校などを受講している	両方している	両方していない	無回答	「学内」+「学外」+「両方」
●凡例								
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	13.1%	5.2	1.5	79.5	0.7	19.8
	全体【2017】	(n=12,369)	10.8	5.5	1.1	82.6	—	17.4
	全体【2021】	(n=20,205)	10.5	8.8	1.1	79.6	—	20.4
全体【2021】		(n=20,205)	10.5	8.8	1.1	79.6	—	20.4
性別	男性	(n= 8,748)	9.7	8.5	1.2	80.6	—	19.4
	女性	(n=11,036)	11.0	9.1	1.0	78.9	—	21.1
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	12.1	7.8	1.0	79.1	—	20.9
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	12.3	9.9	1.2	76.5	—	23.4
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	10.6	10.5	1.0	77.9	—	22.1
	理・工学	(n= 2,696)	6.2	6.2	0.8	86.8	—	13.2
	スポーツ・体育系	(n= 341)	10.9	5.3	2.3	81.5	—	18.5
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	7.8	7.3	1.1	83.8	—	16.2
学年別	1年	(n= 6,056)	9.9	4.8	0.7	84.6	—	15.4
	2年	(n= 5,325)	11.0	7.8	0.9	80.3	—	19.7
	3年	(n= 4,483)	12.9	12.6	1.5	73.0	—	27.0
	4年	(n= 3,960)	8.3	11.7	1.2	78.8	—	21.2
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	10.3	9.2	0.9	79.7	—	20.4
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	11.2	11.8	0.9	76.1	—	23.9
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	12.0	7.6	1.4	79.0	—	21.0
	推薦入試	(n= 7,778)	10.1	8.0	1.2	80.7	—	19.3
	その他	(n= 680)	12.6	10.4	2.8	74.1	—	25.8
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	10.7	10.1	1.0	78.2	—	21.8
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	10.3	8.7	1.1	79.8	—	20.1

『全体【2021年】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2021年】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2021年】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：**-5**

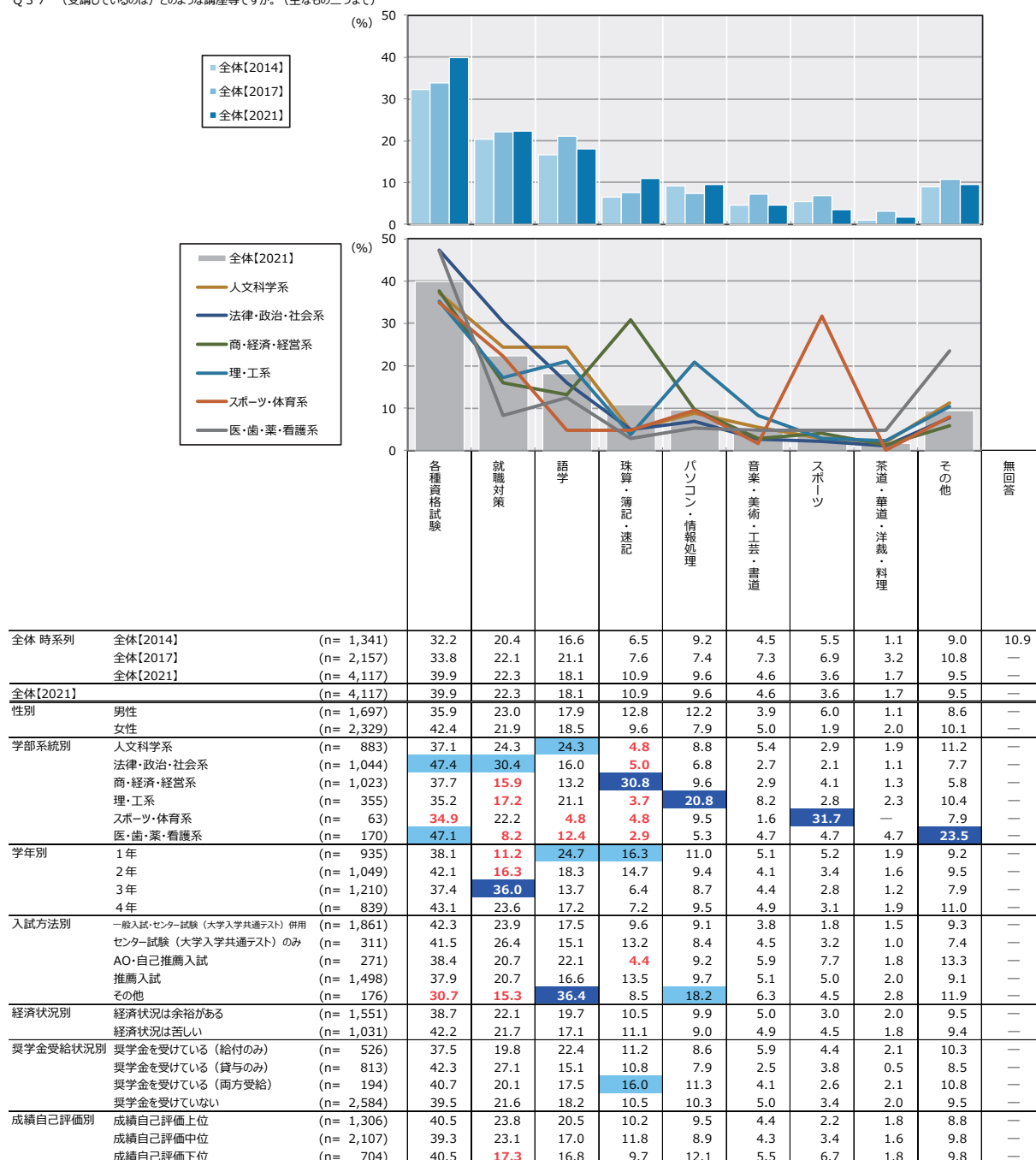
利用している講座等の内容

◆利用している講座等の内容では、「各種資格試験」が前回から増加。

- ・利用している講座は「各種資格試験」がトップで前回からスコアも増加（前回33.8%→今回39.9%）。以下、「就職対策」「語学」が続く。
- ・性別にみると、「各種資格試験」で男性（35.9%）よりも女性（42.4%）のスコアが高い。
- ・学部系統別にみると、「人文科学系」は「語学」、「法律・政治・社会系」は「各種資格試験」「就職対策」、「商・経済・経営系」は「珠算・簿記・速記」、「理・工系」は「パソコン・情報処理」、「スポーツ・体育系」は「スポーツ」、「医・歯・薬・看護系」は「各種資格試験」が高い。
- ・学年別にみると、「3年」の「就職対策」が高い。

■利用している講座等の内容（受講者／複数回答）

Q 3 7 （受講しているのは）どのような講座等ですか。（主なものを二つまで）



※『全体【2021】』で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

インターンシップ参加意向

◆ インターンシップの参加率・参加意向は年々増加しており、「4年」の47.4%がすでに参加している。

- 「すでに参加した」+「ぜひ参加したい」の割合は前々回の26.8%から今回は46.7%まで大きく増加した。特に「4年」では「すでに参加した」が47.4%と前回同様の高さ。
- 性別にみると、男性よりも女性の方が参加率（＝「すでに参加した」）が高い。
- 学部系統別にみると、参加率が低いのは「スポーツ・体育系」（13.8%）と「医・歯・薬・看護系」（9.4%）。
- 学年別にみると、学年が上がるほど参加率が高く、「3年」で42.0%、「4年」で47.4%が参加経験がある。
- 成績自己評価別にみると、自己評価が高いほど参加率が高い。

■ インターンシップ参加意向（全体／単一回答）

Q38 インターンシップに参加したいと思いますか。（一つだけ）

			すでに参加した	ぜひ参加したい	興味はある	興味はない	わからない	無回答	「すでに参加」 +「ぜひ参加し たい」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	13.7%	13.1	42.9	15.9	13.7	0.7	26.8
	全体【2017】	(n=12,369)	19.5	22.6	36.5	11.4	10.0	—	42.1
	全体【2021】	(n=20,205)	21.4	25.3	36.2	9.2	8.0	—	46.7
学年別 時系列	4年【2014】	(n= 1,365)	21.3	4.2	32.8	31.4	9.9	0.4	25.5
	4年【2017】	(n= 2,186)	—	45.2	4.8	19.2	21.1	9.7	50.0
	4年【2021】	(n= 3,960)	—	47.4	5.6	18.6	18.7	9.7	53.0
全体【2021】		(n=20,205)	21.4	25.3	36.2	9.2	8.0	—	46.7
性別	男性	(n= 8,748)	19.4	23.4	37.6	11.1	8.6	—	42.8
	女性	(n=11,036)	23.2	26.7	35.2	7.4	7.4	—	49.9
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	20.3	22.0	37.7	11.9	8.1	—	42.3
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	22.7	27.1	36.4	7.3	6.4	—	49.8
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	22.5	29.3	35.1	7.6	5.6	—	51.8
	理・工系	(n= 2,696)	22.0	25.7	37.3	8.2	6.9	—	47.7
	スポーツ・体育系	(n= 341)	13.8	20.8	38.7	11.4	15.2	—	34.6
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	9.4	12.8	35.0	15.6	27.1	—	22.2
学年別	1年	(n= 6,056)	2.1	34.4	48.2	5.5	9.9	—	36.5
	2年	(n= 5,325)	5.9	36.7	44.6	6.0	6.9	—	42.6
	3年	(n= 4,483)	—	42.0	18.5	26.6	8.5	4.4	60.5
	4年	(n= 3,960)	—	47.4	5.6	18.6	18.7	9.7	53.0
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	22.4	24.8	36.0	9.2	7.6	—	47.2
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	26.5	22.5	34.6	10.4	6.1	—	49.0
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	19.5	25.5	35.5	8.8	10.7	—	45.0
	推薦入試	(n= 7,778)	19.9	26.3	37.2	8.5	8.2	—	46.2
	その他	(n= 680)	20.0	24.7	31.3	14.4	9.6	—	44.7
成績自己評価別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	30.0	24.8	29.4	9.5	6.2	—	54.8
	成績自己評価中位	(n=10,853)	20.3	26.5	37.8	7.8	7.7	—	46.8
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	13.9	22.6	40.3	12.4	10.8	—	36.5

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け： **+10**
『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： **+5**
『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け： **-5**

課外活動参加状況

◆ 課外活動への参加率は53.7%、減少傾向が続く。

- 課外活動（クラブ、サークル活動、ボランティア）への参加率（「積極参加」+「熱心ではない」+「参加しているが活動なし」）は、前回調査の63.0%からさらに減少し、53.7%となった。また、「参加しているが活動していない」が前回に比べ大幅に増加（4.9%→12.5%）しているのが、今回、特徴的である。
- 性別にみると、男性（51.3%）よりも女性（55.8%）の参加率が高い。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」の参加率、特に「積極的参加している」が56.3%他の学部系統を大きく上回る。また、「医・歯・薬・看護系」では「参加しているが活動していない」が他系統の約2倍となっており、コロナ禍での厳しい行動制限、自粛意識が、この分野の学生においては強く働いた結果と推測する。
- 学年別にみると、コロナ禍の影響を受けた「1年」と「2年」は、「最初から参加していない」学生の割合が「3年」や「4年」に比べると2倍近い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」方が、やや参加率が高い。

■ 課外活動参加状況（全体／単一回答）

Q 3 9 課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか。(一つだけ)

			積極的に参加している	参加しているが熱心ではない	参加しているが活動していない	参加していたがやめた	最初から参加していない	無回答	「積極参加」+「熱心ではない」+「参加しているが活動なし」		
●凡例											
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	51.4%			14.2	4.6	12.7	16.7	0.5	70.2
	全体【2017】	(n=12,369)	42.8		15.3	4.9	14.8	22.2	—	63.0	
	全体【2021】	(n=20,205)	28.7	12.5	12.5	13.6		32.7	—	53.7	
全体【2021】	(n=20,205)	28.7	12.5	12.5	13.6		32.7	—	53.7		
性別	男性	(n= 8,748)	28.0	11.9	11.4	13.0		35.8	—	51.3	
	女性	(n=11,036)	29.5	13.1	13.2	14.0		30.2	—	55.8	
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	29.2	13.6	11.3	14.2		31.7	—	54.1	
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	31.3	13.2	11.5	12.8		31.1	—	56.0	
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	26.1	12.0	13.1	13.2		35.6	—	51.2	
	理・工系	(n= 2,696)	25.1	12.8	12.0	15.0		35.1	—	49.9	
	スポーツ・体育系	(n= 341)	56.3			6.5	6.5	8.2	22.6	—	69.3
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	22.8	10.0	23.5	13.1		30.6	—	56.3	
学年別	1年	(n= 6,056)	29.0	14.8	14.7	3.2		38.3	—	58.5	
	2年	(n= 5,325)	26.1	13.3	11.9	6.3		42.3	—	51.3	
	3年	(n= 4,483)	33.6	11.7	10.7		19.9	24.1	—	56.0	
	4年	(n= 3,960)	27.3	9.4	11.5		29.5	22.3	—	48.2	
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	27.8	13.2	13.2	15.0		30.9	—	54.2	
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	28.5	13.5	13.1	15.1		29.9	—	55.1	
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	32.1	10.5	10.3	10.5		36.6	—	52.9	
	推薦入試	(n= 7,778)	30.1	12.0	12.2	12.3		33.4	—	54.3	
	その他	(n= 680)	19.6	10.6	8.5	12.1		49.3	—	38.7	
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 7,125)	30.8	13.9	12.4	14.0		28.9	—	57.1	
	経済状況は苦しい	(n= 5,105)	28.1	11.7	12.2	13.6		34.4	—	52.0	

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け：**+10**
『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け：**+5**
『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け：**-5**

課外活動と授業の両立度

◆ 課外活動と授業との両立については、前回からやや減少し、前々回と同水準。

- 参加者の課外活動と授業との両立については「両立できている」+「まあ両立できている」が77.2%と、前回（80.7%）から少し減少し、前々回と同水準。
- 性別にみると、男性よりも女性の方が「両立できている」+「まあ両立できている」の割合がやや高い。
- 学部系統別にみると、他の学部系統に比べて「スポーツ・体育系」の「両立できている」+「まあ両立できている」の割合が8割を超えて高い。
- 学年別にみると、他の学年に比べて「4年」の「両立できている」+「まあ両立できている」の割合が高い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は余裕がある」方が「両立できている」+「まあ両立できている」の割合が高い。
- 成績自己評価別にみると、自己評価が高いほど「両立できている」+「まあ両立できている」の割合が高くなる。

■ 課外活動と授業の両立度（課外活動参加者／単一回答）

Q40 課外活動と授業は両立していますか。（一つだけ）

			両立できている	まあ両立できている	どちらともいえない	あまり両立できていない	両立できていない	無回答	「両立している」+「まあ両立」
●凡例									
全体 時系列	全体【2014】	(n= 4,761)	47.1%			30.1	11.6	5.7 3.8 1.7	77.2
	全体【2017】	(n= 7,792)	41.3			39.4	11.7	5.0 2.6	80.7
	全体【2021】	(n=10,847)	41.5			35.7	16.2	3.9 2.6	77.2
全体【2021】		(n=10,847)	41.5			35.7	16.2	3.9 2.6	77.2
性別	男性	(n= 4,479)	40.4			35.5	16.5	4.3 3.3	75.9
	女性	(n= 6,160)	42.7			35.7	15.9	3.6 2.2	78.4
学部系統別	人文科学系	(n= 2,283)	43.5			33.5	16.1	4.2 2.7	77.0
	法律・政治・社会系	(n= 2,493)	42.4			36.3	15.0	3.9 2.4	78.7
	商・経済・経営系	(n= 2,373)	41.6			35.1	17.3	3.4 2.6	76.7
	理・工系	(n= 1,345)	35.3			39.9	16.6	5.4 2.9	75.2
	スポーツ・体育系	(n= 236)	42.8			41.5	11.9	3.0 0.8	84.3
	医・歯・薬・看護系	(n= 590)	35.4			33.4	23.6	3.7 3.9	68.8
学年別	1年	(n= 3,541)	38.9			35.2	19.5	3.8 2.5	74.1
	2年	(n= 2,734)	36.6			37.7	17.8	4.4 3.5	74.3
	3年	(n= 2,510)	42.9			37.6	13.0	4.4 2.0	80.5
	4年	(n= 1,908)	52.1			30.8	11.8	2.9 2.3	82.9
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 4,961)	41.1			35.5	16.5	3.9 3.0	76.6
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 715)	44.5			35.0	13.3	5.3 2.0	79.5
	AO・自己推薦入試	(n= 684)	44.9			34.8	13.6	4.2 2.5	79.7
	推薦入試	(n= 4,224)	41.3			36.0	16.8	3.8 2.1	77.3
	その他	(n= 263)	35.7			37.3	17.1	4.2 5.7	73.0
経済状況別	経済状況は余裕がある	(n= 4,068)	47.8			33.3	14.0	3.1 1.8	81.1
	経済状況は苦しい	(n= 2,651)	34.7			36.6	18.7	6.2 3.8	71.3
成績自己評価別	成績自己評価上位	(n= 2,784)	54.2			29.6	11.2	2.9 2.2	83.8
	成績自己評価中位	(n= 5,940)	41.4			37.8	15.4	3.2 2.2	79.2
	成績自己評価下位	(n= 2,123)	25.3			37.9	25.1	7.3 4.4	63.2

※「両立できている」「まあ両立できている」「あまり両立できていない」「両立できていない」は2021年文言変更、2017年までは「両立している」「まあ両立している」「あまり両立していない」「両立していない」

『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け： **+10**
 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け： **+5**
 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け： **-5**

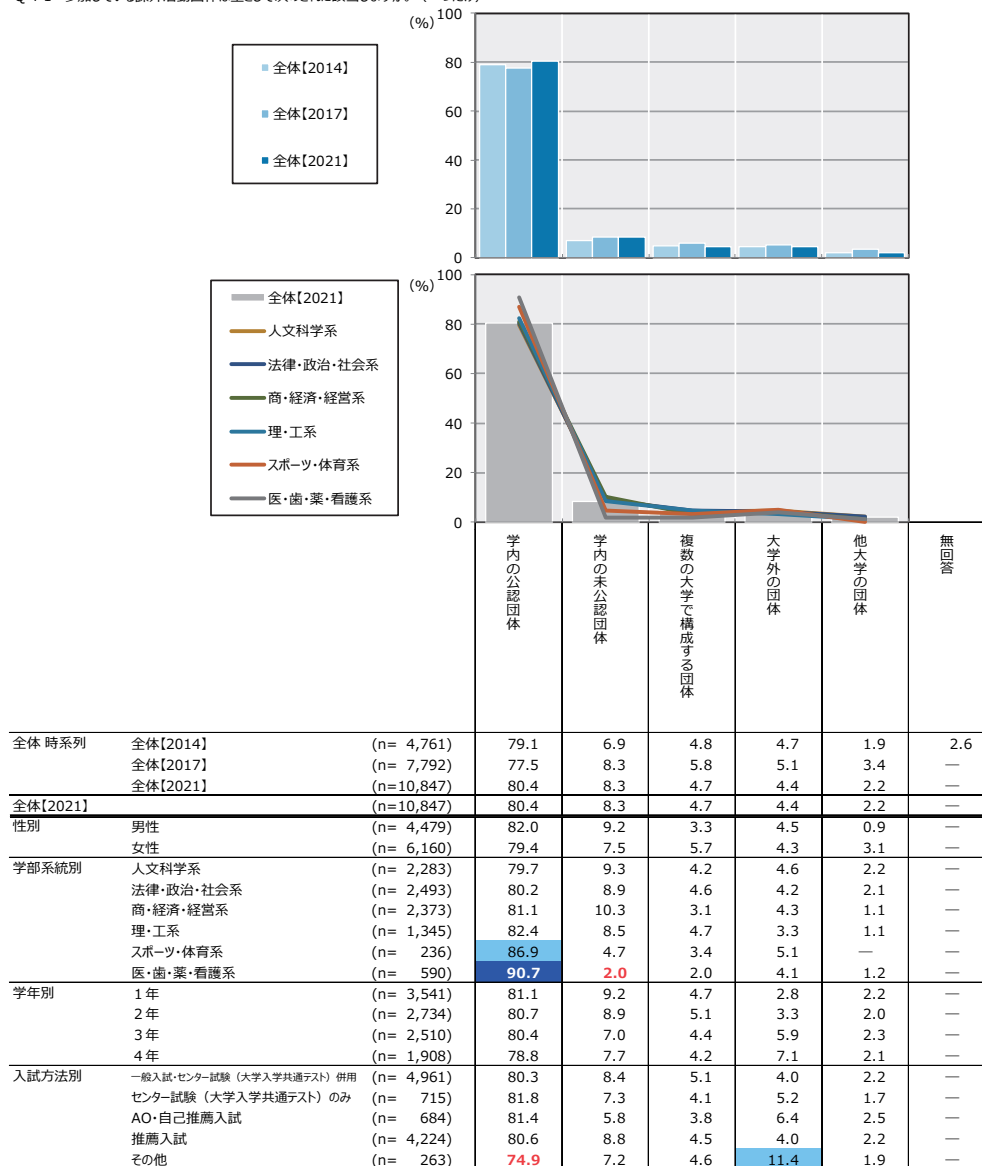
参加課外活動団体

◆ 課外活動をしている学生に限れば、ほとんどの学生が「学内の公認団体」に参加。

- ・ 課外活動参加者の主な参加団体は1位「学内の公認団体」（80.4%）が突出。
- ・ 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」は「学内の公認団体」が他の学部系統に比べて高め。

■ 参加課外活動団体（課外活動参加者／単一回答）

Q 4 1 参加している課外活動団体は主として次のどれに該当しますか。（一つだけ）



※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q41.01

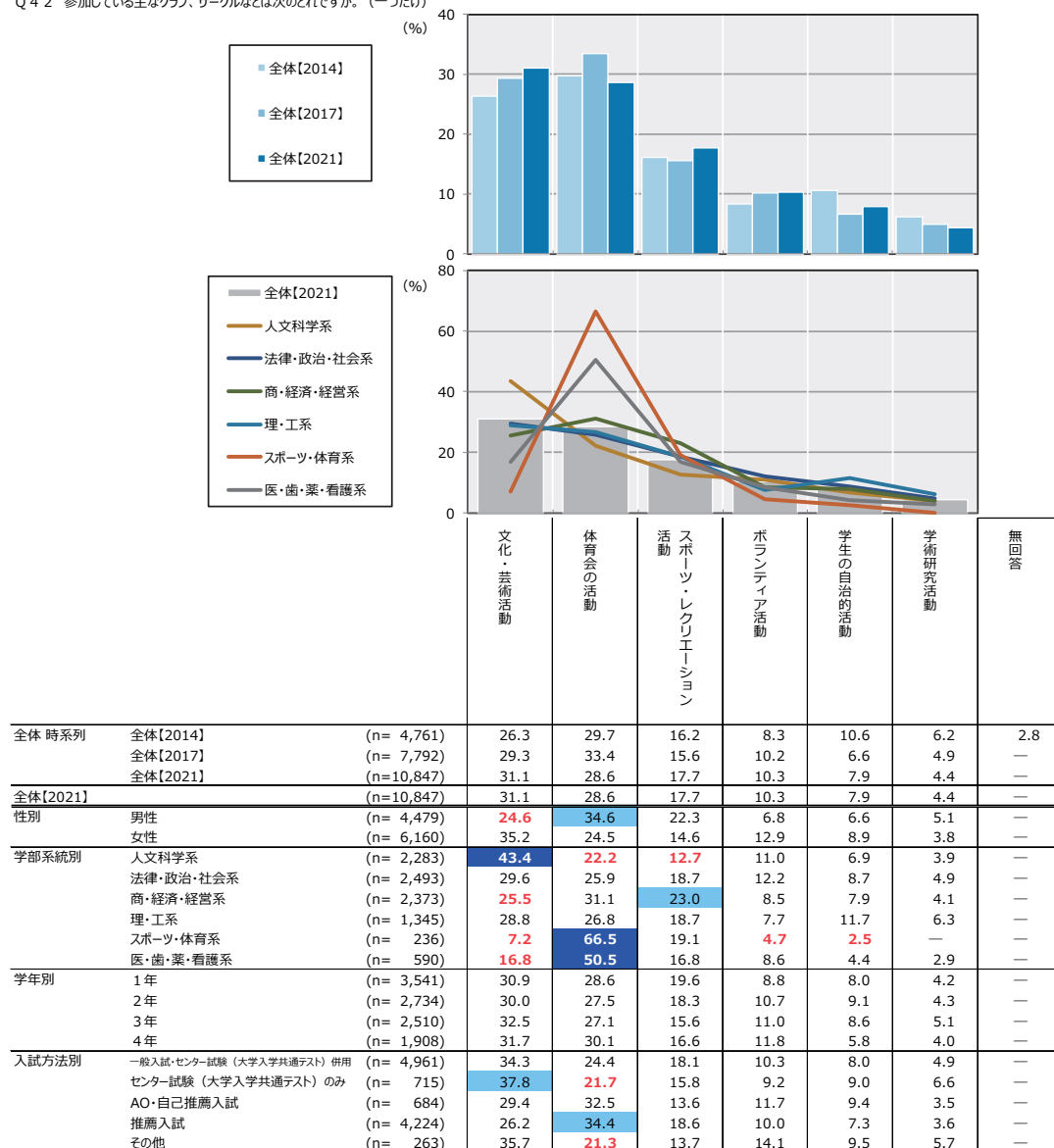
参加クラブ・サークル種類

◆ 課外活動をしている学生に限れば、活動内容1位の「文化・芸術活動」は増加傾向が続く。

- ・ 課外活動参加者の主な活動内容は1位「文化・芸術活動」(31.1%)、2位「体育会の活動」(28.6%)ととも30%前後と高い。
- ・ 「文化・芸術活動」は前々回以降増加傾向が続く(前々回26.3%→今回31.1%)。一方、「体育会の活動」は前回から減少(前回33.4%→今回28.6%)にある。
- ・ 性別にみると、男性は「体育会の活動」「スポーツ・レクリエーション活動」、女性は「文化・芸術活動」「ボランティア」が比較的高い。
- ・ 学部系統別にみると、「人文科学系」では「文化・芸術活動」、「商・経済・経営系」では「スポーツ・レクリエーション活動」、「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」では「体育会の活動」がそれぞれ高いのが特徴である。

■ 参加クラブ・サークル種類 (課外活動参加者/単一回答)

Q42 参加している主なクラブ、サークルなどは次のどれですか。(一つだけ)



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q42.01

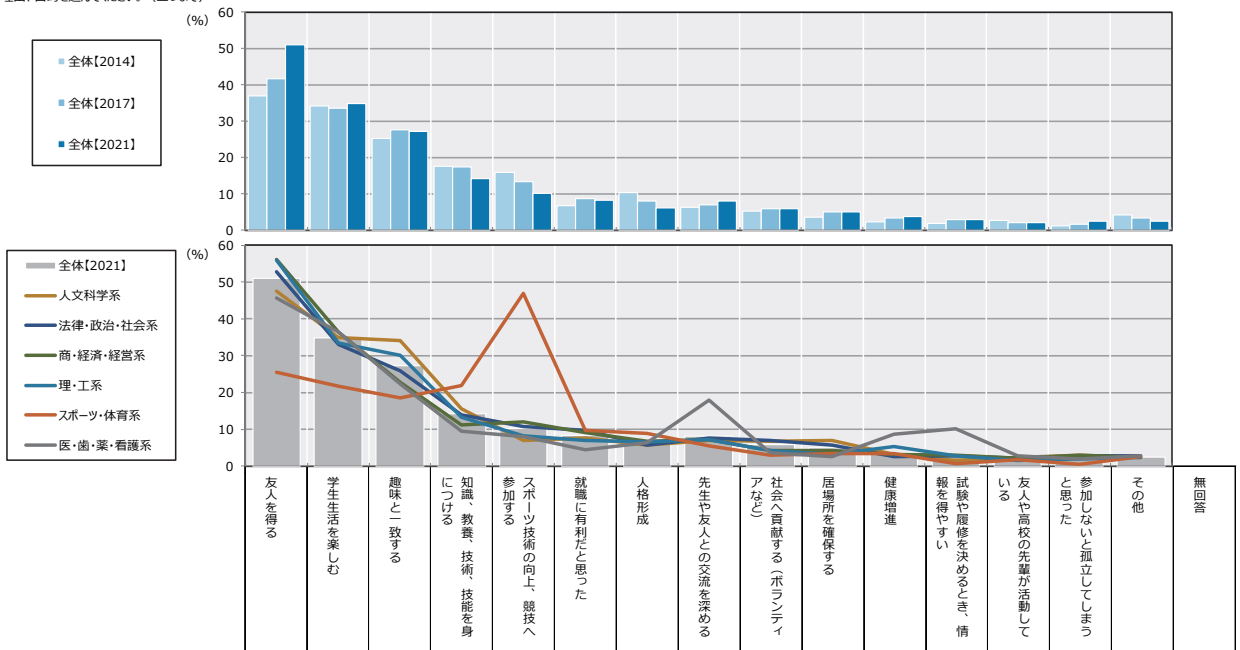
課外活動参加の目的

◆ 課外活動参加の目的1位の「友人を得る」の増加傾向が続く。

- 全体では「友人を得る」(51.0%) が1位、次いで「学生生活を楽しむ」(34.9%)、「趣味と一致する」(27.3%)が高い。
- 「友人を得る」(前々回37.0%→今回51.0%)の増加傾向が続く。一方、「知識、教養、技術、技能を身につける」「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」といった“向上”に関する項目は減少傾向。
- 性別にみると、男性は「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」、女性は「学生生活を楽しむ」が高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」は「趣味と一致する」、「スポーツ・体育系」は「知識、教養、技術、技能を身につける」「スポーツ技術の向上、競技へ参加する」、「医・歯・薬・看護系」は「先生や友人との交流を深める」「試験や履修を決めるとき情報を得やすい」がそれぞれ高いという特徴がある。
- 学年別にみると、「1年」「2年」は「友人を得る」が他の学年に比べて高い。

■ 課外活動参加の目的 (課外活動参加者/複数回答)

Q 4 3 課外活動に参加している理由、目的を選んでください。(二つまで)



		友人を得る	学生生活を楽しむ	趣味と一致する	知識、教養、技術、技能を身につける	スポーツ技術の向上、競技へ参加する	就職に有利だと思った	人格形成	先生や友人との交流を深める	社会へ貢献する(ボランティアなど)	居場所を確保する	健康増進	報を得やすい	試験や履修を決めるとき、情報を得やすい	友人や高校の先輩が活動している	参加しないと孤立してしまうと思った	その他	無回答
全体 時系列	全体【2014】 (n= 4,761)	37.0	34.2	25.2	17.7	16.0	6.8	10.4	6.4	5.2	3.5	2.2	1.8	2.8	1.2	4.3	5.7	
	全体【2017】 (n= 7,792)	41.6	33.6	27.7	17.5	13.3	8.6	8.1	6.9	5.9	5.1	3.4	3.0	2.0	1.6	3.3	—	
	全体【2021】 (n=10,847)	51.0	34.9	27.3	14.2	10.2	8.3	6.1	8.1	5.9	5.0	3.7	2.9	2.0	2.5	2.5	—	
全体【2021】 (n=10,847)	51.0	34.9	27.3	14.2	10.2	8.3	6.1	8.1	5.9	5.0	3.7	2.9	2.0	2.5	2.5	—	—	
性別	男性 (n= 4,479)	50.9	31.1	27.9	13.7	15.3	6.4	7.9	6.7	3.7	4.8	5.3	2.0	2.0	2.6	2.5	—	
	女性 (n= 6,160)	51.3	38.1	26.6	14.3	6.7	9.7	4.7	9.2	7.4	5.0	2.6	3.5	2.0	2.5	2.4	—	
学部系統別	人文科学系 (n= 2,283)	47.6	34.9	34.0	15.7	6.9	7.6	5.7	7.1	6.7	7.1	3.2	1.6	2.3	3.1	2.3	—	
	法律・政治・社会系 (n= 2,493)	52.7	33.0	25.9	14.0	10.8	9.7	5.7	7.7	7.1	5.7	2.6	2.9	2.2	2.8	2.8	—	
	商・経済・経営系 (n= 2,373)	56.1	36.5	22.8	11.2	12.1	9.2	6.8	7.2	4.3	4.2	3.2	3.1	2.2	3.0	2.4	—	
	理・工学系 (n= 1,345)	55.9	33.5	30.2	13.2	8.3	7.1	6.5	7.3	4.3	3.3	5.4	2.9	1.5	1.9	2.3	—	
	スポーツ・体育系 (n= 236)	25.4	21.6	18.6	22.0	47.0	9.7	8.9	5.5	3.0	3.4	3.4	0.8	1.7	0.4	2.5	—	
医・歯・薬・看護系 (n= 590)	45.6	36.4	22.4	9.5	8.0	4.4	6.4	18.0	3.6	2.5	8.6	10.2	2.7	1.9	2.7	—		
学年別	1年 (n= 3,541)	55.9	33.6	28.0	12.7	10.2	7.1	5.0	8.1	5.0	4.2	3.9	4.1	2.0	2.7	2.4	—	
	2年 (n= 2,734)	54.8	32.3	26.7	13.4	9.5	8.9	5.6	7.1	5.3	4.9	4.0	2.8	2.0	3.9	2.4	—	
	3年 (n= 2,510)	44.5	35.8	26.1	16.6	10.2	9.7	7.5	8.3	6.9	5.1	3.8	2.5	2.4	1.9	3.1	—	
	4年 (n= 1,908)	45.7	39.8	29.0	14.8	11.1	8.1	6.2	8.6	7.1	6.2	2.9	1.3	1.7	1.3	2.2	—	
入試方法別	一般入試・センター試験(大学入学共通テスト)併用 (n= 4,961)	54.7	37.2	28.8	13.7	6.5	7.3	5.7	8.2	5.6	5.5	3.6	2.9	1.1	2.9	2.0	—	
	センター試験(大学入学共通テスト)のみ (n= 715)	49.4	33.8	32.6	14.8	7.6	8.3	5.7	6.9	5.7	7.0	4.2	3.6	1.3	3.2	2.2	—	
	AO・自己推薦入試 (n= 684)	41.1	30.4	26.5	18.9	17.4	9.2	6.9	7.9	7.9	4.7	4.2	1.9	2.3	2.0	3.7	—	
	推薦入試 (n= 4,224)	49.2	33.4	24.9	13.3	14.0	9.1	6.5	8.1	5.6	4.2	3.6	2.9	3.2	2.2	2.9	—	
	その他 (n= 263)	39.5	30.0	26.2	22.8	7.6	11.8	5.3	9.5	11.8	3.8	5.7	3.8	1.9	0.8	4.9	—	

※「全体【2021】」で降順ソート
+10 : 「全体【2021】」より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 「全体【2021】」より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 「全体【2021】」より5ポイント以上低い数値に網掛け

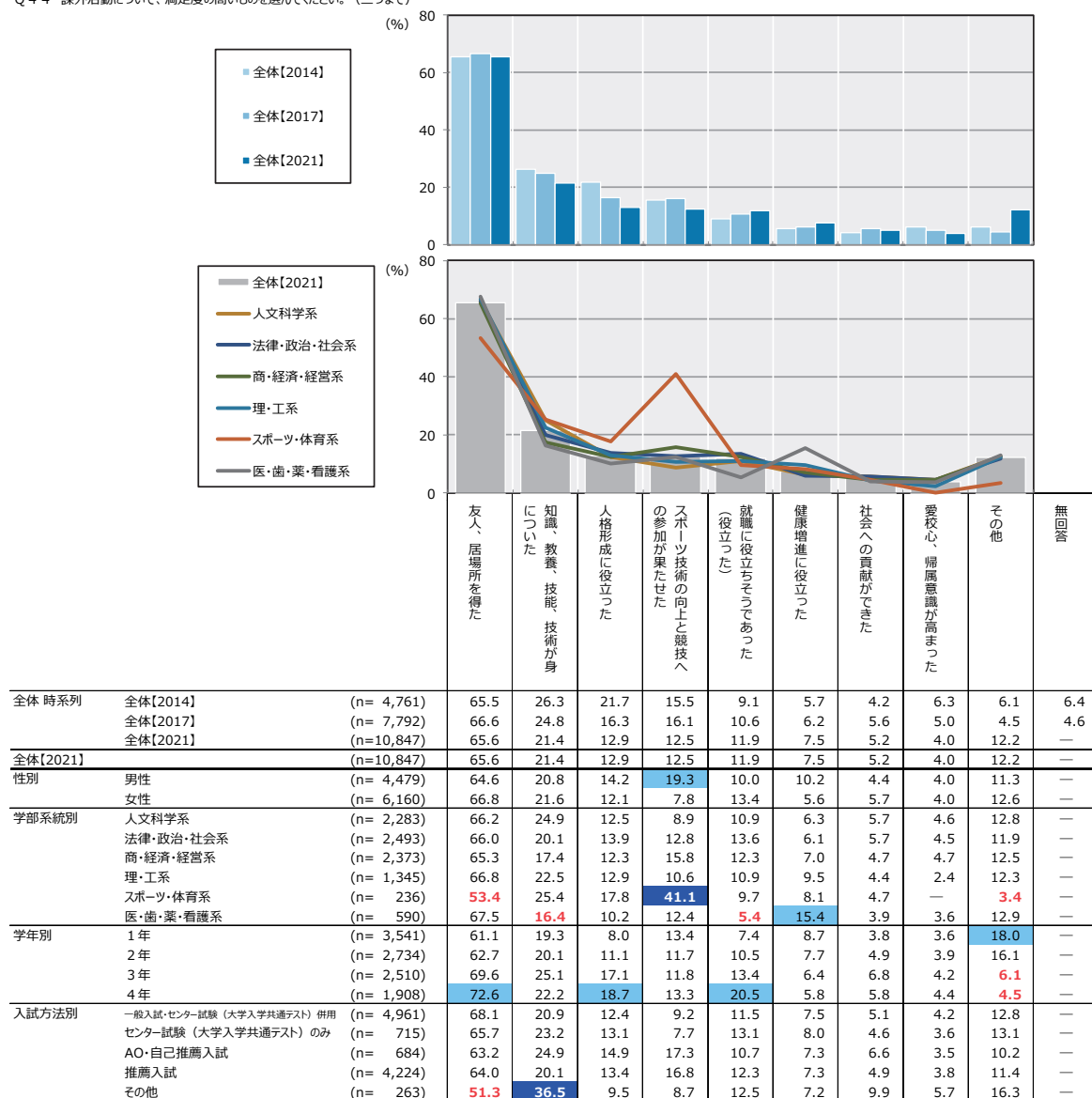
課外活動の満足点

◆「友人、居場所を得た」が1位で、目的とも合致している。

- ・「友人、居場所を得た」(65.6%) が突出して高い。
- ・2位の「知識、教養、技能、技術が身についた」、3位の「人格形成に役立った」は前々回以降減少傾向にある。
- ・性別にみると、男性は「スポーツ技術の向上と競技への参加が果たせた」が女性に比べて高い。
- ・学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」は「スポーツ技術の向上と競技への参加が果たせた」、「医・歯・薬・看護系」は「健康増進に役立った」がそれぞれ高いという特徴がある。
- ・学年別にみると、「4年」は「友人、居場所を得た」「人格形成に役立った」「就職に役立ちそうであった(役立った)」が他の学年に比べて高い。

■ 課外活動の満足点 (課外活動参加者/複数回答)

Q 4 4 課外活動について、満足度の高いものを選んでください。(二つまで)



※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q44.01

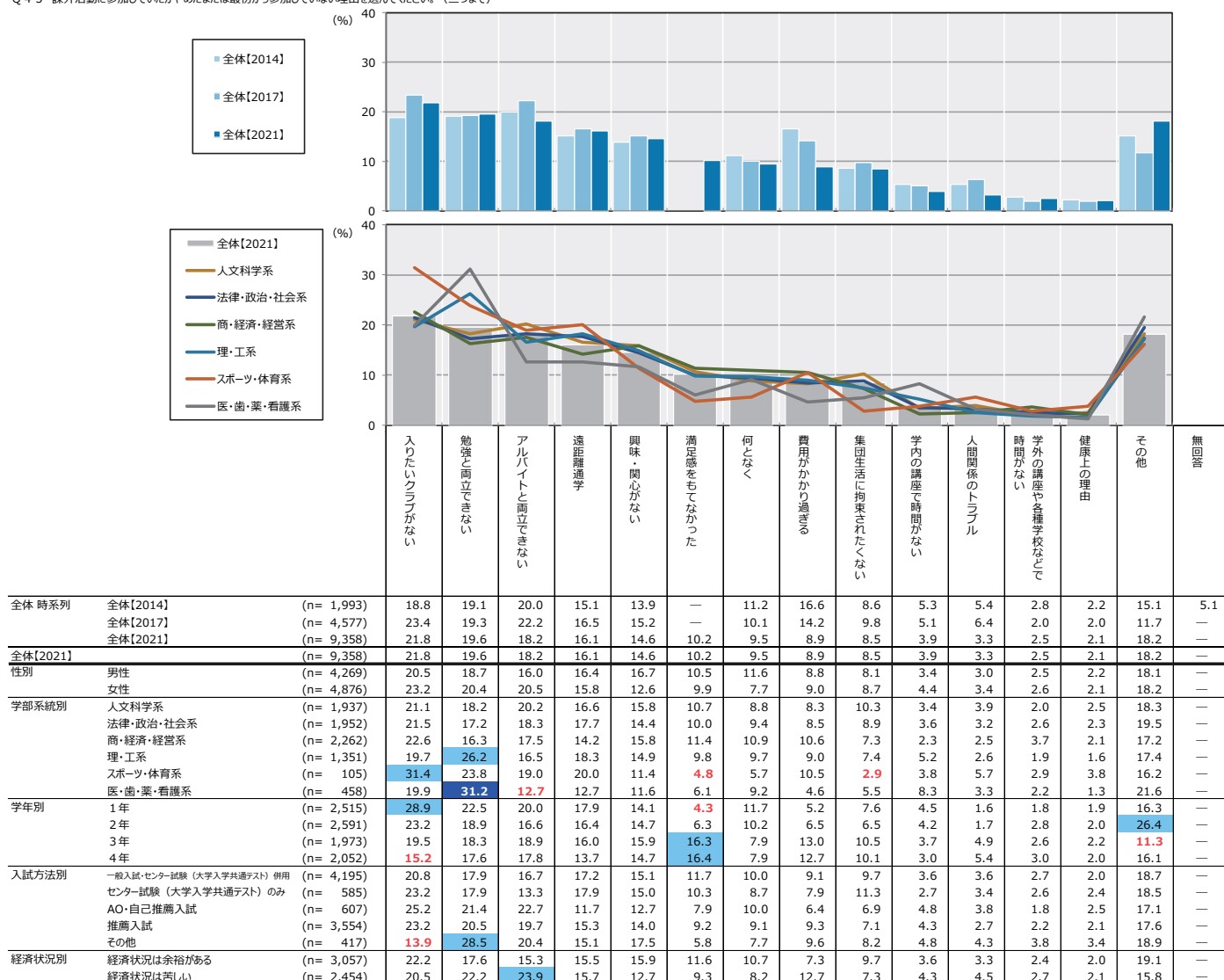
課外活動非参加・中止理由

◆ 課外活動に参加しないのは、「入りたいクラブがない」「勉強と両立できない」「アルバイトと両立できない」。

- 全体では「入りたいクラブがない」(21.8%)が1位で、前回(23.4%)から微減。次いで「勉強と両立できない」(19.6%)、「アルバイトと両立できない」(18.2%)が同程度で続く。
- また、「その他」が増加しており(前回11.7%→今回18.2%)、特に「2年」で26.4%と突出。コロナ禍で課外活動への参加(入部)の機会そのものがなかった学生が一定割合いるのではないかと推測できる。
- 「アルバイトと両立できない」は前回から(前回22.2%→今回19.6%)、「費用がかかりすぎる」は前々回以降減少傾向(前々回16.6%→今回8.9%)。
- 性別にみると、男性は「興味・関心がない」、女性は「アルバイトと両立できない」がそれぞれ高い。
- 学部系統別にみると、「勉強と両立できない」は理系(「理・工系」「医・歯・薬・看護系」)で比較的高い。一方、「入りたいクラブがない」は「スポーツ・体育系」で他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、「1年」は「入りたいクラブがない」が他の学年に比べて高い。一方、「3年」「4年」は「満足感を持ってなかった」が高い。
- 経済状況別にみると、「経済状況は苦しい」では「アルバイトと両立できない」が23.9%で理由のトップ。

■ 課外活動非参加・中止理由(課外活動中止・不参加者/複数回答)

Q 4 5 課外活動に参加していたがやめたまたは最初から参加していない理由を選んでください。(二つまで)



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け

+5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け

-5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「満足感をもってなかった」は2021年追加

ボランティア活動参加経験

◆ ボランティア活動参加経験率は15.4%であり、前々回（28.8%）から減少傾向が続く。

- 大学入学後のボランティア活動参加経験が「ある」学生は15.4%。前々回（28.8%）から減少が続く。
- 性別にみると、男性（11.7%）よりも女性（18.3%）の方がボランティア活動参加経験率が高い。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」の活動参加経験率が最も高く、30.5%が参加している。
- 学年別にみると、学年が上がるに従いスコアが高くなる傾向は前回同様だが、前回に比べ「1年」「2年」の活動参加経験率の減少が目立つ。これはコロナ禍における行動制限が影響しているものと考えられる。
 - 「1年」：前回15.2% → 今回6.4%
 - 「2年」：前回23.1% → 今回9.8%
 - 「3年」：前回30.8% → 今回23.0%
 - 「4年」：前回34.0% → 今回27.8%
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」が他の入試方法に比べて活動参加経験率が高い。
- 成績自己評価別にみると、自己評価が高いほど「ある」の割合は高くなる。

■ ボランティア活動参加経験（全体／単一回答）

Q 4 6 大学入学後、ボランティア活動に参加したことがありますか。（一つだけ）

			ある	ない	無回答
			●凡例		
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	28.8%	70.4	0.7
	全体[2017]	(n=12,369)	24.5	75.5	
	全体[2021]	(n=20,205)	15.4	84.6	
全体[2021]		(n=20,205)	15.4	84.6	
性別	男性	(n= 8,748)	11.7	88.3	
	女性	(n=11,036)	18.3	81.7	
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	17.5	82.5	
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	16.9	83.1	
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	11.0	89.0	
	理・工系	(n= 2,696)	10.7	89.3	
	スポーツ・体育系	(n= 341)	30.5	69.5	
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	12.6	87.4	
学年別	1年	(n= 6,056)	6.4	93.6	
	2年	(n= 5,325)	9.8	90.2	
	3年	(n= 4,483)	23.0	77.0	
	4年	(n= 3,960)	27.8	72.2	
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	14.8	85.2	
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	17.5	82.5	
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	21.9	78.1	
	推薦入試	(n= 7,778)	14.5	85.5	
	その他	(n= 680)	16.8	83.2	
成績自己評価別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	21.6	78.4	
	成績自己評価中位	(n=10,853)	14.1	85.9	
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	11.2	88.8	

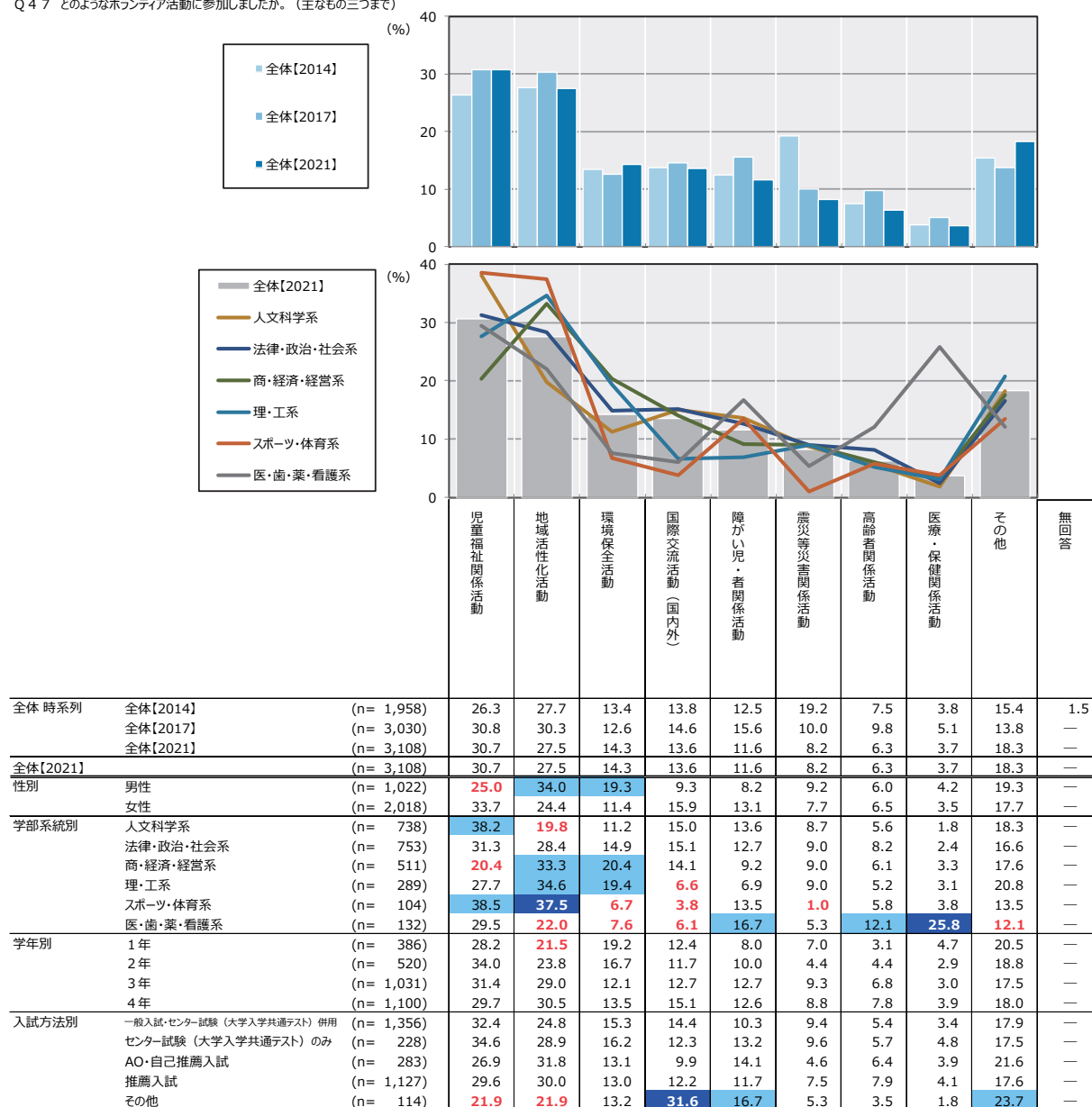
Q46_01

参加したボランティア活動の種類

- ・ ボランティア活動の具体的な内容として多く挙げられたのは「児童福祉関係活動」（30.7%）と「地域活性化活動」（27.5%）。「地域活性化活動」は前回からやや減少した（前回30.3%→今回27.5%）。
- ・ 「震災等災害関連活動」は前々回以降減少傾向が続く。
- ・ 性別にみると、男性は「地域活性化活動」「環境保全活動」、女性は「児童福祉関係活動」「国際交流活動(国内外)」「障がい児・者関係活動」が高い。
- ・ 学部系統別にみると、「人文科学系」では「児童福祉関係活動」、「商・経済・経営系」「理・工系」では「地域活性化活動」「環境保全活動」、「スポーツ・体育系」では「児童福祉関係活動」「地域活性化活動」、「医・歯・薬・看護系」では「障がい児・者関係活動」「高齢者関係活動」「医療・保健関係活動」がそれぞれ高いという特徴がある。

参加したボランティア活動の種類（ボランティア経験者／複数回答）

Q 4 7 どのようなボランティア活動に参加しましたか。（主なもの三つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

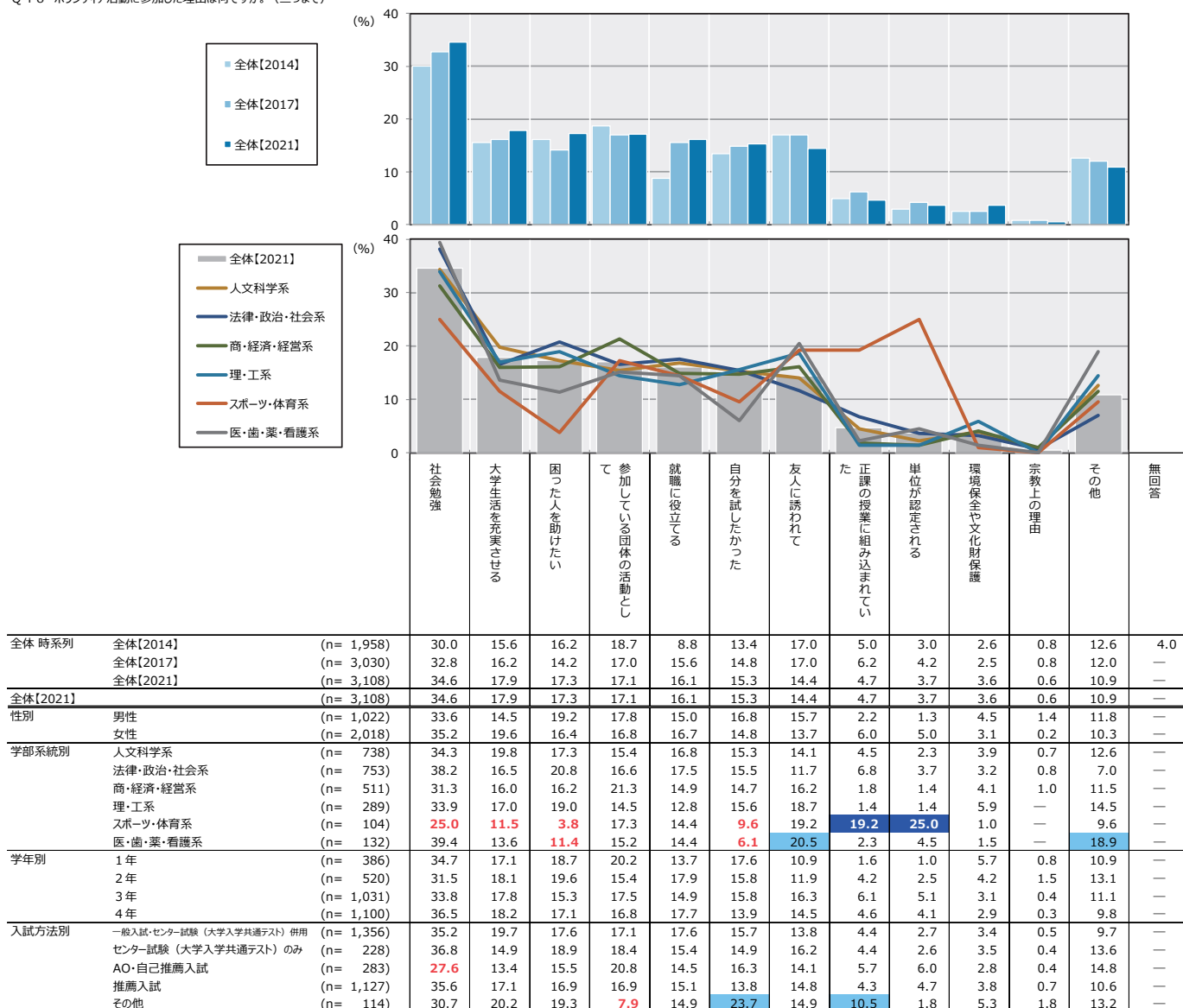
Q47.01

ボランティア活動参加の理由

- 参加の理由で最も多く挙げられたのは「社会勉強」（34.6%）で、前々回以降増加傾向。「大学生活を充実させる」「就職に役立つ」も同様に増加傾向が続いている。
- また、前回と比べ最もスコアが伸びたのは、「困った人を助けたい」（前回14.2%→今回17.3%、3.1ポイント増）。
- 性別にみると、男性（14.5%）より女性（19.6%）は「大学生活を充実させる」が高い。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」は「正課の授業に組み込まれていた」「単位が認定される」、「医・歯・薬・看護系」では「友人に誘われて」が特徴的に高い。
- 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」で「社会勉強」が他の入試方法に比べて低い。

■ ボランティア活動参加の理由（ボランティア経験者／複数回答）

Q 4 8 ボランティア活動に参加した理由は何ですか。（二つまで）



※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

6章：不安・悩み

- **自分のことを何でも話せる友人の有無**

自分のことを何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は80.1%。前回（80.3%）と同水準。

- **現在の不安・悩み**

悩みの内容の1位は「就職や将来の進路」だが、前回までの減少傾向から反転し、10ポイント上昇。「授業など学業」も、前回から5ポイント程度増加。

- **不安・悩みの相談相手**

「友人」や「先輩」への相談は減少し、「家族」もしくは「誰とも相談しない」が増加している。

- **ハラスメント・犯罪被害経験の有無**

ハラスメントを「受けたことがある」は3.1%で、前回（5.6%）から減少。今回新たに追加した項目の「犯罪等の被害を受けたことがある」は1.1%。

- **受けたハラスメントの内容**

ハラスメントの内容で回答が多かったのは、「セクシュアル・ハラスメント」（44.6%）であり、前回（19.7%）から大幅に増加している。

- **受けた犯罪の内容**

「受けた犯罪の内容」のトップは「性被害」（43.7%）。「ストーカー行為」（25.1%）が続く。

- **ハラスメント・犯罪被害時に支援してくれた人**

ハラスメントや犯罪被害にあった人のうち、「誰にも言わなかった（言えなかった）」は2割強（21.1%）。支援してくれた人では、「友人・先輩など」が約半数（51.2%）、「家族」が30%。

コメント

【不安・悩みの内容】は、今回調査で拡充した設問群である。ポイントは以下の2点である。

「現在の不安・悩み」では「就職や将来の進路」と「授業など学業」が大幅に増加しているが、コロナ禍の影響も多分にあるだろう。

「ハラスメント・犯罪被害経験」自体は減少傾向にあるが、「減ったからよい」という類の課題ではない。その観点からみると、ハラスメントでは「セクシュアル・ハラスメント」、犯罪では「性被害」がトップ。いずれも女性の比率が高いが、このうち「セクシュアル・ハラスメント」は前回調査から大幅に上昇している。

何でも話せる友人の有無

◆ 自分のことを何でも話せる友人が「いる」と回答した学生は80.1%。前回（80.3%）と同水準。

- 性別にみると、男性よりも女性の方が「いる」の割合が高い。
- 学部系統別にみると、「いる」の割合が高いのは「スポーツ・体育系」（87.1%）、「医・歯・薬・看護系」（85.3%）。最も低いのは「理・工系」（78.6%）。
- 学年別にみると、「いる」の割合は「2年」（76.8%）が低いが、「3年」（82.0%）、「4年」（83.2）となるにつれ比率が上昇する。
- 入試方法別にみると、「いる」の割合が高いのは「AO・自己推薦入試」、「推薦入試」。「いる」の割合が低いのは「一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用」、「センター試験（大学入学共通テスト）のみ」。
- 大学生活充実度別にみると、充実度が高いほど「いる」の割合が高くなる。

■ 何でも話せる友人の有無（全体／単一回答）

Q 4 9 現在、自分のことを何でも話せる友人がいますか。（一つだけ）

			いる	いない	無回答
			●凡例		
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	83.5%	15.9	0.6
	全体【2017】	(n=12,369)	80.3	19.7	—
	全体【2021】	(n=20,205)	80.1	19.9	—
全体【2021】		(n=20,205)	80.1	19.9	—
性別	男性	(n= 8,748)	79.3	20.7	—
	女性	(n=11,036)	81.4	18.6	—
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	78.7	21.3	—
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	79.5	20.5	—
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	81.3	18.7	—
	理・工系	(n= 2,696)	78.6	21.4	—
	スポーツ・体育系	(n= 341)	87.1	12.9	—
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	85.3	14.7	—
学年別	1年	(n= 6,056)	79.7	20.3	—
	2年	(n= 5,325)	76.8	23.2	—
	3年	(n= 4,483)	82.0	18.0	—
	4年	(n= 3,960)	83.2	16.8	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	77.7	22.3	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	77.6	22.4	—
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	82.9	17.1	—
	推薦入試	(n= 7,778)	82.9	17.1	—
	その他	(n= 680)	80.0	20.0	—
大学生活充実度別	学生生活は充実している	(n=11,874)	86.1	13.9	—
	学生生活は普通である	(n= 5,260)	76.2	23.8	—
	学生生活は充実していない	(n= 3,071)	63.8	36.2	—

Q49_01

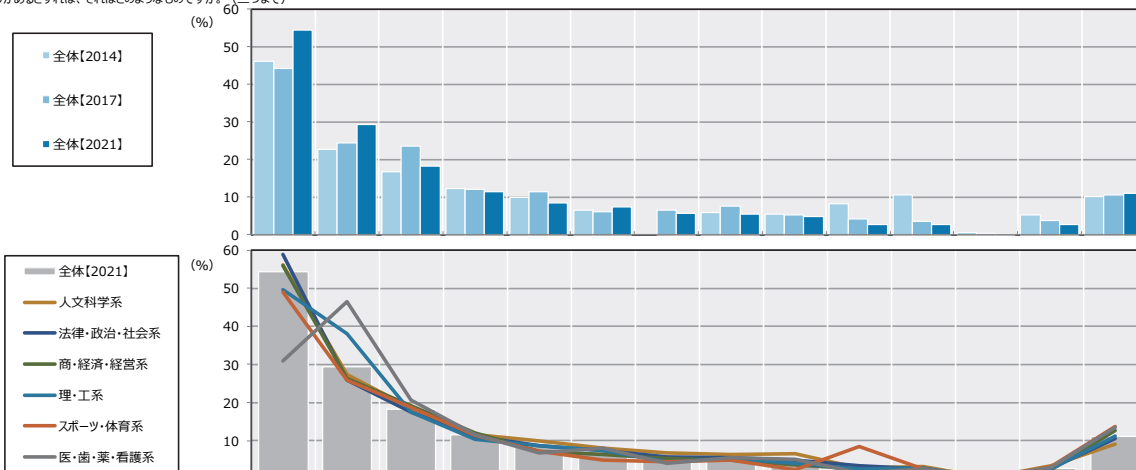
現在の不安や悩み

- ◆ 悩みの内容の1位は「就職や将来の進路」だが、前回までの減少傾向から反転し、10ポイント上昇。
- ◆ 「授業など学業」も、前回から5ポイント程度増加。いずれも、コロナ禍の影響が多分にあると考えられる。

- ・ 「就職や将来の進路」が54.4%で1位。前回（44.2%）から10ポイント以上増加した。同様に、「授業など学業」も前回比5ポイント程度上昇しており、上位項目の比率が上昇していることがわかる。一方で、「健康」以外の項目は減少傾向にある。
- ・ 学部系統別では、前項の「何でも話せる友人の有無」で「いる」の比率が高かった、「スポーツ・体育系」、「医・歯・薬・看護系」の「就職や将来の進路」が低いことがわかる。ただし、「授業など学業」は「理・工系」および「医・歯・薬・看護系」の比率が高い。
- ・ 学年別にみると、「3年」は「就職や将来の進路」が73.6%と高く、就職活動を前に不安を抱えていることが分かる。
- ・ 入試方法別にみると、「AO・自己推薦入試」では「就職や将来の進路」の比率が相対的に低い。また、「その他」（帰国子女入試、社会人入試、留学生入試など）では、「経済的な問題（家計・学費・ローン等）」が21.6%と突出しているのが特徴である。
※詳細データは未掲載となるが、「その他」の約4割を占める「留学生入試での入学者」では「経済問題」を挙げる割合が3割を超える。
- ・ 自分の事を何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」と回答した人の「特に不安や悩みはない」の比率が高いことがわかる。「就職や将来の進路」や「授業など学業」の上位2項目については差はほとんどみられないが、その他の項目、特に「友人等との対人関係」などをはじめとして、「自分の事を何でも話せる友人がいない」層の比率が高くなっている。

■現在の不安や悩み（全体／複数回答）

Q50 いま、あなたに不安や悩みがあるとすれば、それはどのようなものですか。（二つまで）



		就職や将来の進路	授業など学業	友人等との対人関係	経済的な問題（家計・学費・ローン等）	性格	健康	アルバイト	価値観	家族や家庭内のこと	課外活動	性についての問題	ネット上のトラブル	その他	特に不安や悩みはない	無回答
全体 時系列	全体【2014】 (n= 6,791)	46.1	22.8	16.8	12.3	10.0	6.5	—	5.9	5.4	8.3	10.6	0.6	5.2	10.1	2.1
	全体【2017】 (n=12,369)	44.2	24.5	23.6	12.0	11.5	6.1	6.5	7.6	5.2	4.3	3.5	0.3	3.8	10.5	—
	全体【2021】 (n=20,205)	54.4	29.3	18.3	11.5	8.5	7.4	5.7	5.6	4.8	2.8	2.7	0.2	2.8	11.0	—
全体【2021】	全体【2021】 (n=20,205)	54.4	29.3	18.3	11.5	8.5	7.4	5.7	5.6	4.8	2.8	2.7	0.2	2.8	11.0	—
	性別															
	男性 (n= 8,748)	50.8	30.5	17.6	12.6	7.3	6.7	4.9	5.7	3.2	3.0	3.3	0.2	2.8	13.4	—
	女性 (n=11,036)	57.4	28.5	18.9	10.6	9.5	7.7	6.4	5.4	6.0	2.7	2.0	0.2	2.6	9.2	—
学部系統別	人文科学系 (n= 4,220)	56.1	27.3	18.5	11.6	9.9	8.0	6.8	6.3	6.5	2.7	3.2	0.2	3.4	9.0	—
	法律・政治・社会系 (n= 4,445)	58.9	25.8	17.6	11.1	8.6	7.4	5.8	5.5	4.9	3.4	2.5	0.3	2.9	10.6	—
	商・経済・経営系 (n= 4,635)	55.9	26.4	19.1	12.0	7.2	6.4	5.3	5.0	3.6	2.5	2.8	0.1	2.3	12.6	—
	理・工系 (n= 2,696)	49.7	38.1	17.4	10.4	8.6	7.5	4.5	5.3	4.0	2.6	2.8	0.3	2.6	11.3	—
	スポーツ・体育系 (n= 341)	49.0	25.8	18.8	11.4	7.3	5.0	4.4	5.0	2.3	8.5	2.6	—	3.2	13.8	—
	医・歯・薬・看護系 (n= 1,048)	30.9	46.4	20.6	11.6	6.8	8.1	4.0	5.6	5.1	1.6	2.5	0.2	3.0	13.6	—
学年別	1年 (n= 6,056)	40.2	37.6	23.6	11.3	9.1	7.1	8.4	5.5	3.8	3.0	2.4	0.2	3.2	12.5	—
	2年 (n= 5,325)	56.3	33.6	20.7	11.3	8.1	6.8	6.4	5.3	4.5	2.8	2.9	0.2	2.7	9.0	—
	3年 (n= 4,483)	73.6	22.2	13.8	10.8	8.0	6.9	3.5	5.5	4.9	3.7	2.9	0.2	2.1	6.1	—
	4年 (n= 3,960)	52.2	18.8	12.4	13.1	9.2	8.7	3.3	6.2	6.2	1.7	2.9	0.2	2.9	16.9	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用 (n= 9,156)	55.2	26.4	19.1	11.2	9.0	7.8	6.1	6.0	5.1	2.6	3.0	0.2	3.0	10.6	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ (n= 1,300)	58.5	23.5	16.9	12.8	8.3	9.7	5.2	5.8	5.7	2.0	3.5	0.3	2.8	10.2	—
	AO・自己推薦入試 (n= 1,291)	49.0	31.6	16.8	13.1	9.1	8.0	6.0	6.1	5.3	4.0	2.7	0.3	3.0	11.9	—
	推薦入試 (n= 7,778)	53.6	33.0	17.9	10.6	8.0	6.2	5.2	5.1	4.1	3.1	2.4	0.2	2.5	11.8	—
	その他 (n= 680)	54.7	32.8	17.1	21.6	7.4	8.7	4.3	5.0	6.6	2.2	1.5	0.4	3.2	8.1	—
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる (n=16,188)	54.2	29.8	16.8	11.2	7.3	6.9	6.0	5.3	4.3	2.9	2.5	0.2	2.6	12.2	—
	自分の事を何でも話せる友人がいない (n= 4,017)	55.0	27.3	24.4	12.8	13.4	9.4	4.1	7.0	6.7	2.5	3.6	0.3	3.5	6.3	—

※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「アルバイト」は2017年追加

／「性についての問題」は2017年文言変更、2014年までは「異性問題」

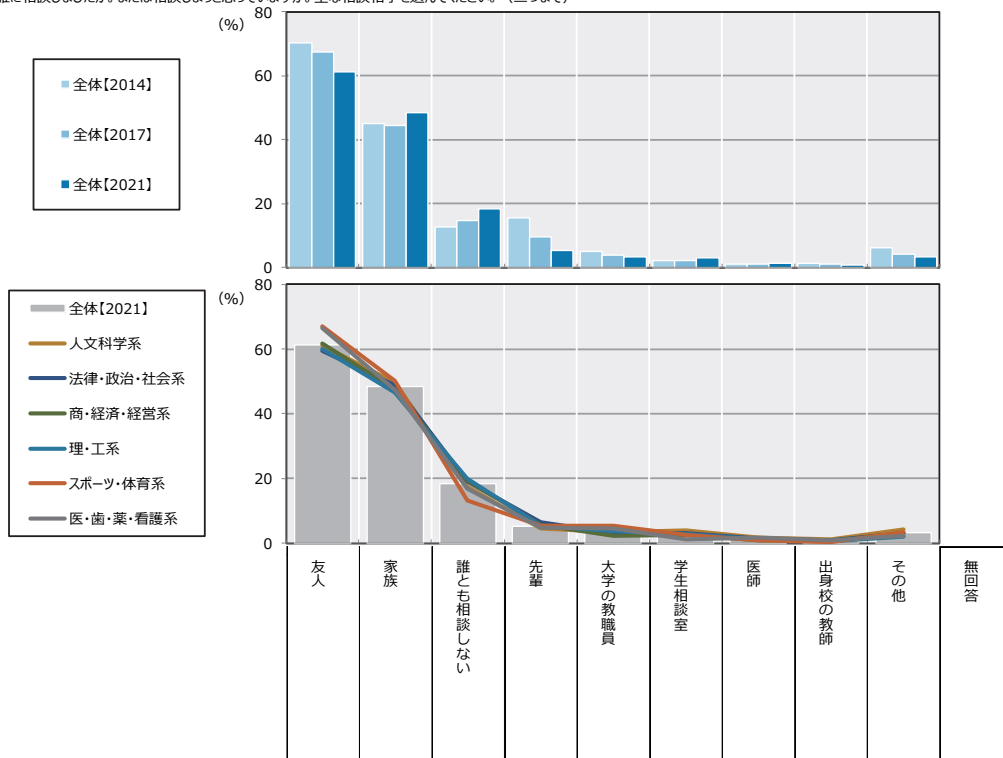
不安や悩みの相談（意向）先

◆「友人」や「先輩」への相談は減少し、「家族」もしくは「誰とも相談しない」が増加している。

- 不安・悩みの主な相談相手の1位は「友人」だが、前々回以降減少傾向にある（前々回70.3%→今回61.2%）。「先輩」も前々回から減少傾向。一方で「誰とも相談しない」は前々回以降増加している（前回12.6%→今回18.5%）。また「家族」は前回比4ポイント程度増加した。
- 性別にみると、男性は女性に比べて「誰とも相談しない」が高い。男性は特に「家族」の比率が低くなっている。
- 学部系統別にみると、「スポーツ・体育系」、「医・歯・薬・看護系」は「友人」の比率が他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、「1年」「2年」は「3年」「4年」に比べて「友人」「大学の教職員」「学生相談室」が低く、反対に「誰とも相談しない」が高い。コロナ禍での大学生活が経験していないことが影響していると考えられる。
- 自分の事を何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいる」と回答した人の「友人」の比率が7割を超えており、「自分の事を何でも話せる友人がいない」層と大差がついている。逆に、「自分の事を何でも話せる友人がいない」層の「誰とも相談しない」は4割を超えている。
- 成績自己評価別にみると、「成績自己評価下位」は他2層に比べ「誰とも相談しない」割合が高く、「友人」「家族」が低い。

■不安や悩みの相談（意向）先（悩みあり回答者／複数回答）

Q 5 1 その不安や悩みについて誰に相談しましたか。または相談しようと思っていますか。主な相談相手を選んでください。（二つまで）



	友人	家族	誰とも相談しない	先輩	大学の教職員	学生相談室	医師	出身校の教師	その他	無回答
全体 時系列	70.3	45.0	12.6	15.6	5.0	2.2	1.1	1.4	6.1	0.6
全体 [2014]	70.3	45.0	12.6	15.6	5.0	2.2	1.1	1.4	6.1	0.6
全体 [2017]	67.5	44.6	14.8	9.7	3.9	2.3	1.1	1.2	4.1	—
全体 [2021]	61.2	48.5	18.5	5.4	3.3	3.2	1.4	0.9	3.4	—
性別										
男性	58.2	43.1	22.1	6.3	3.8	2.9	1.1	0.8	3.0	—
女性	64.2	53.2	15.2	4.8	2.9	3.2	1.6	1.0	3.5	—
学部系統別										
人文科学系	61.2	49.7	17.5	4.5	3.4	4.0	1.7	1.3	4.2	—
法律・政治・社会系	59.6	48.7	19.2	6.6	3.1	3.3	1.6	0.8	3.3	—
商・経済・経営系	61.7	47.5	19.5	5.7	2.4	2.6	0.9	0.7	3.3	—
理・工系	59.9	46.5	20.0	5.4	3.7	2.9	1.2	0.7	2.1	—
スポーツ・体育系	67.0	50.3	13.3	5.4	5.4	2.7	1.0	0.3	3.4	—
医・歯・薬・看護系	66.4	47.5	17.0	4.9	4.5	1.2	1.9	1.0	2.4	—
学年別										
1年	59.8	48.0	20.5	4.5	1.5	2.2	1.2	1.3	2.6	—
2年	58.5	48.6	20.9	4.8	2.5	2.5	1.1	0.9	3.1	—
3年	64.8	49.2	14.4	8.1	4.9	4.1	1.7	0.8	3.8	—
4年	63.5	48.9	17.2	4.4	5.0	4.0	1.6	0.5	4.4	—
入試方法別										
一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	59.7	47.2	19.5	4.9	3.3	3.3	1.5	0.8	3.4	—
センター試験（大学入学共通テスト）のみ	61.2	48.6	17.7	5.3	5.0	5.0	1.3	0.9	4.5	—
AO・自己推薦入試	61.2	47.3	17.7	6.0	3.8	3.3	2.6	1.4	4.8	—
推薦入試	63.0	50.4	17.6	6.0	2.9	2.6	1.0	1.1	2.9	—
その他	61.8	47.8	17.9	4.6	4.8	3.7	2.4	0.5	3.0	—
成績自己評価別										
成績自己評価上位	61.6	53.4	15.4	5.5	4.8	3.7	1.8	1.0	3.6	—
成績自己評価中位	63.2	50.0	17.3	5.5	3.0	2.7	1.1	0.9	2.9	—
成績自己評価下位	55.9	39.3	25.0	5.0	2.5	3.6	1.9	0.9	4.1	—
何でも話せる友人の有無別										
自分の事を何でも話せる友人がいる	72.7	51.0	11.8	6.2	3.3	2.5	1.0	0.9	3.2	—
自分の事を何でも話せる友人がいない	17.8	39.1	43.8	2.3	3.2	5.8	3.0	1.1	3.9	—

※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q51.01

ハラスメント・犯罪被害経験の有無

◆ ハラスメントを「受けたことがある」は3.1%で、前回（5.6%）から減少。

- ・ 大学生活においてハラスメントを「受けたことがある」と回答したのは3.1%で、前回（5.6%）から減少。
- ・ 今回の調査から設けた選択肢「犯罪等の被害を受けたことがある」は1.1%。
- ・ 性別にみると、「女性」の「ハラスメントを受けたことがある」と回答した者が3.8%で、男性より高い。
- ・ 学部系統別にみると、「人文科学系」、「法律・政治・社会系」において、「ハラスメントを受けたことがある」の比率が相対的に高くなっている。
- ・ 学年別にみると、学年があがるほど「ハラスメントを受けたことがある」の割合は高い。
- ・ 自分の事を何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいない」と回答した人の「ハラスメントを受けたことがある」の比率が4.2%であり、「自分の事を何でも話せる友人がいる」層よりも高くなっている。

■ ハラスメント・犯罪被害経験の有無（全体／単一回答）

Q 5 2 あなたは大学入学後ハラスメント<いやがらせ>や犯罪等の被害を受けたと感じたことがありますか。（二つまで）

			受けたことがない	ハラスメントを受けたことがある	犯罪等の被害を受けたことがある	無回答
● 凡例						
全体 時系列	全体【2014】	(n= 6,791)	89.9%	9.3	0.8	—
	全体【2017】	(n=12,369)	94.4	5.6	—	—
	全体【2021】	(n=20,205)	96.0	3.1	1.1	—
全体【2021】		(n=20,205)	96.0	3.1	1.1	—
性別	男性	(n= 8,748)	97.5	2.1	0.6	—
	女性	(n=11,036)	95.1	3.8	1.6	—
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	94.8	3.9	1.7	—
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	95.4	3.8	1.2	—
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	97.0	2.6	0.6	—
	理・工系	(n= 2,696)	96.9	2.2	1.1	—
	スポーツ・体育系	(n= 341)	95.9	2.3	1.8	—
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	95.8	3.2	1.0	—
学年別	1年	(n= 6,056)	98.1	1.7	0.3	—
	2年	(n= 5,325)	97.0	2.5	0.7	—
	3年	(n= 4,483)	95.0	3.9	1.4	—
	4年	(n= 3,960)	93.4	4.9	2.4	—
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	96.1	2.9	1.2	—
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	94.8	4.1	1.6	—
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	94.2	5.1	1.4	—
	推薦入試	(n= 7,778)	96.7	2.6	0.9	—
	その他	(n= 680)	92.8	6.0	1.6	—
何でも話せる友人の有無別	自分の事を何でも話せる友人がいる	(n=16,188)	96.4	2.9	1.1	—
	自分の事を何でも話せる友人がいない	(n= 4,017)	94.6	4.2	1.5	—

※「ハラスメントを受けたことがある」は2021年文言変更、2017年までは「受けたことがある」

※「犯罪等の被害を受けたことがある」は2021年追加

Q52_01

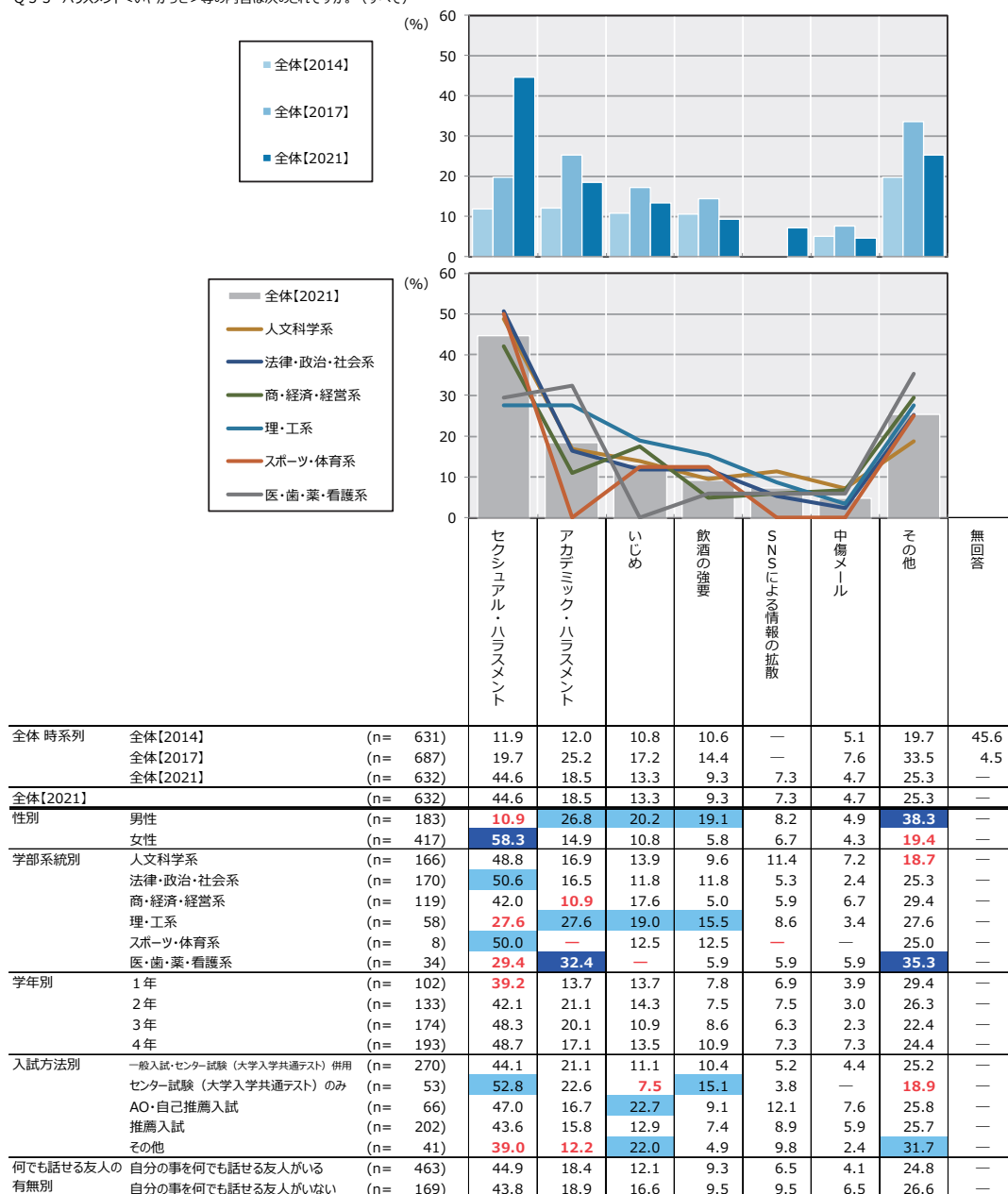
受けたハラスメントの内容

◆ ハラスメントの内容で回答が多かったのは、「セクシュアル・ハラスメント」(44.6%)であり、前回(19.7%)から大幅に増加している。

- 以下、「アカデミック・ハラスメント」(18.5%)、「いじめ」(13.3%)の順となったが、いずれも前回調査から比率は減少している。
- 今回調査から新設された「SNSによる情報の拡散」は7.3%だった。
- 性別にみると、女性の「セクシュアル・ハラスメント」が6割近くに達している一方、男性は「セクシュアル・ハラスメント」以外の項目の比率が女性よりも高い。
- 学部系統別にみると、「法律・政治・社会系」と「スポーツ・体育系」では「セクシュアル・ハラスメント」の比率が高く、「理・工系」では「セクシュアル・ハラスメント」以外の項目の比率が相対的に高いことが特徴である。
- 学年別にみると、「アカデミック・ハラスメント」は学年があがるほど高く、「4年」で17.1%。「飲酒の強要」は「2年」(7.5%)は最も低く、「2年」「3年」(ともに17.8%)で高い。
- 自分の事を何でも話せる友人の有無別では、「いじめ」、「SNSによる情報の拡散」、「中傷メール」で差がみられる。

■ 受けたハラスメントの内容 (ハラスメント経験者/複数回答)

Q53 ハラスメント<いやがらせ>等の内容は次のどれですか。(すべて)



※「全体【2021】」で降順ソート

※「SNSによる情報の拡散」は2021年追加

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け

+5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け

-5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q53.01

受けた犯罪の内容

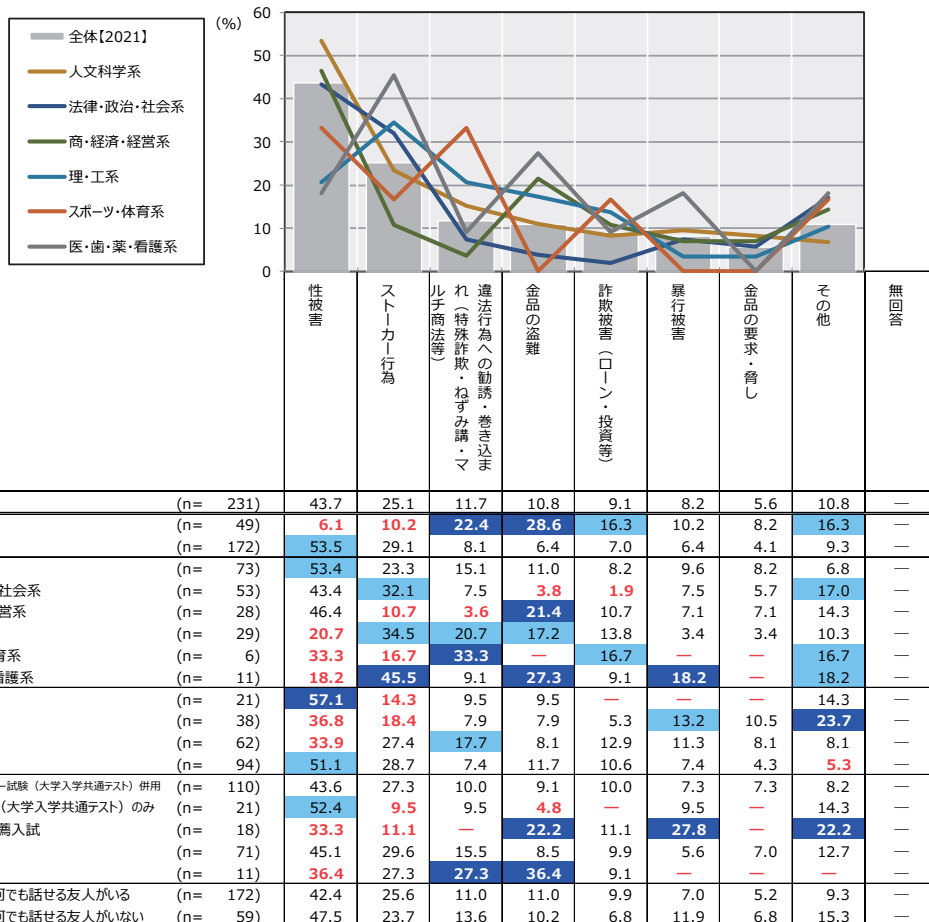
◆「受けた犯罪の内容」のトップは「性被害」。受けた者のうち43.7%が回答。「ストーカー行為」(25.1%)が続く。

- 性別にみると、「性被害」、「ストーカー行為」は女性の方が高く、男性はそれら以外の項目、特に「違法行為への勧誘・巻き込まれ(特殊詐欺・ねずみ講・マルチ商法等)」、「金品の盗難」、「詐欺被害(ローン・投資等)」の比率が高い。
- 学部系統別にみると、「人文科学系」では「性被害」、「商・経済・経営系」では「金品の盗難」、「スポーツ・体育系」では「違法行為への勧誘・巻き込まれ」、「医・歯・薬・看護系」では「ストーカー行為」「金品の盗難」「暴行被害」が全体を10ポイント以上、「法律・政治・社会系」では「ストーカー行為」、「理・工系」では「ストーカー行為」「違法行為への勧誘・巻き込まれ」「金品の盗難」が全体を5ポイント以上上回るなど、学部系統により受けた犯罪内容の傾向に違いが見られる。
- 何でも話せる友人の有無別にみると、特段の差がみられる項目はない。

■ 受けた犯罪の内容 (犯罪経験者/複数回答)

* 2021年 新規設問

Q54 犯罪等の内容は次のどれですか。(すべて)



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q54.01

ハラスメント・犯罪被害時に支援してくれた人

◆ ハラスメントや犯罪被害にあった人のうち、「誰にも言わなかった（言えなかった）」は2割強（21.1%）。

◆ 支援してくれた人では、「友人・先輩など」が約半数（51.2%）、「家族」が30.0%。

・ 「大学の先生や職員」は10.0%。

・ 性別にみると、「誰にも言わなかった（言えなかった）」は男性の方が高い。女性は「友人・先輩など」、「家族」が相対的に高い。

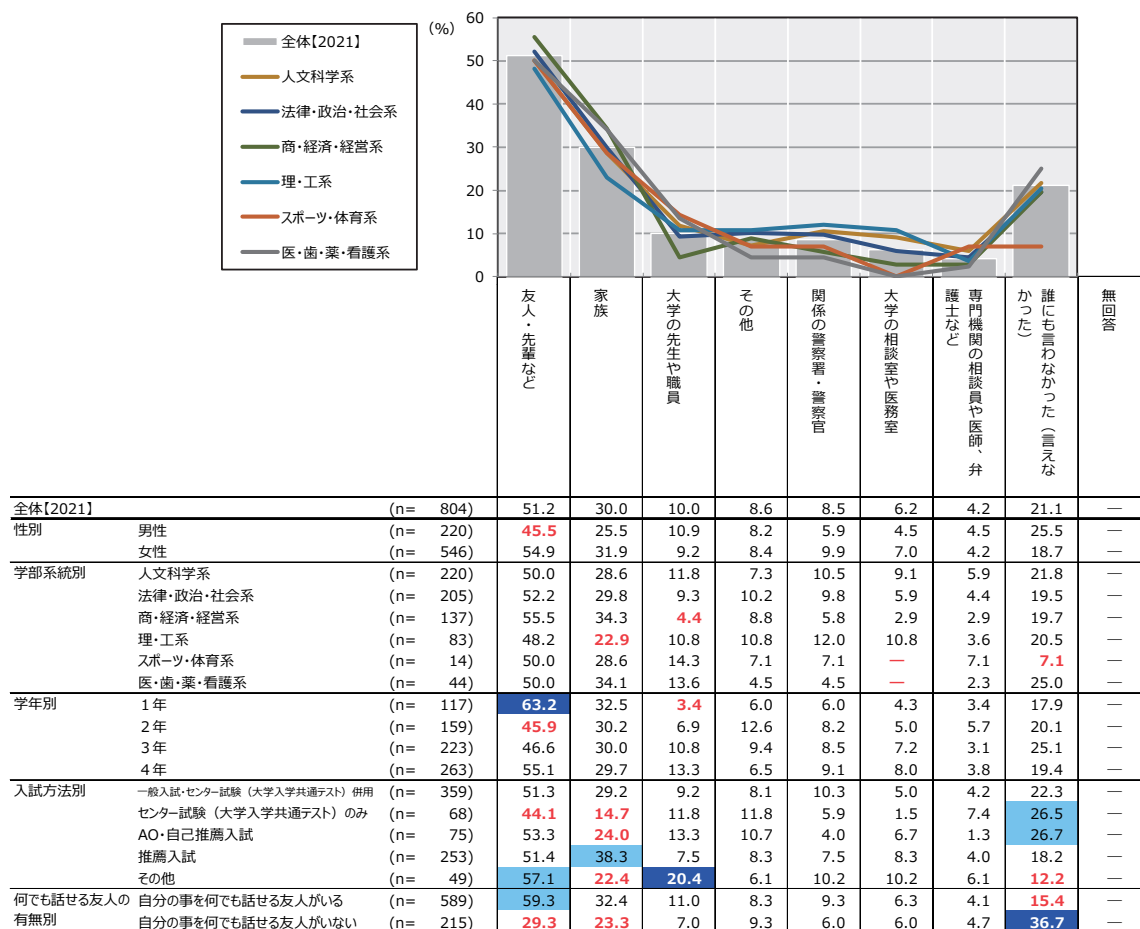
・ 学年別にみると、「1年」の「友人・先輩など」の比率が相対的に高い。

・ 自分の事を何でも話せる友人の有無別にみると、「自分の事を何でも話せる友人がいない」層の1/3以上（36.7%）が、「誰にも言わなかった（言えなかった）」と回答。ほとんどの項目で、「自分の事を何でも話せる友人がいる」層よりも低い比率となっている。

■ ハラスメント・犯罪被害時に支援してくれた人（ハラスメント・犯罪経験者／複数回答）

* 2021年 新規設問

Q55 ハラスメントや犯罪等の被害にあった時、あなたの力になってくれたのは次の誰（どこ）でしたか。（主なもの三つまで）



※「全体【2021】」で降順ソート

+10 : 『全体【2021】』より10ポイント以上高い数値に網掛け
+5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
-5 : 『全体【2021】』より5ポイント以上低い数値に網掛け

Q55.01

7章：進路・就職

● 就職への不安

「就職できるかどうか」の不安が前々回と同水準に増加。「就職すること自体」への不安も増加傾向が続く。

● 希望する進路

希望進路の1位は「民間企業・団体」で前回から増加。「公務員（国家、地方）」は29.9%で安定化傾向。

● どんな民間企業を志望するか

「自分の能力や資格を活かせるところ」よりも、「安定しているところ」「福利厚生が充実しているところ」などが上位に位置し、待遇の良さを重視する傾向は続いている。

また、今回新たに追加した選択肢である「自分の時間が確保できるところ」は19.9%と全体4位。

コメント

「就職できるかどうか」「就職すること自体」への不安が増加。

【どんな民間企業を志望するか】については「福利厚生が充実しているところ」は増加が続き、待遇の良さを重視する傾向が強くなっている。一方で、「自分の能力や資格を活かせるところ」は前々回以降減少している（前々回30.0%→前回23.5%→今回18.1%）

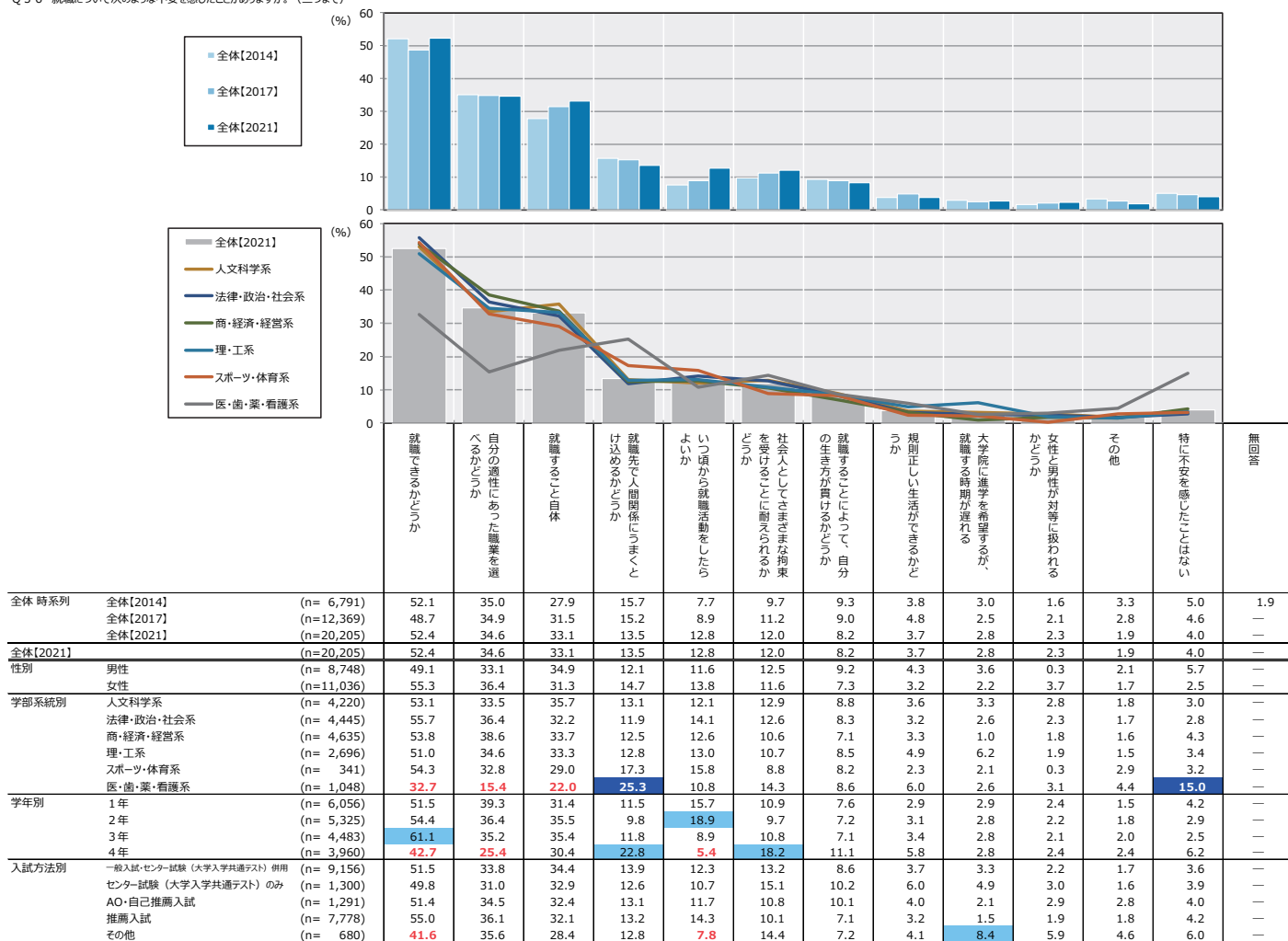
就職に関して不安に感じること

◆「就職できるかどうか」の不安は前々回と同水準に増加。「就職すること自体」への不安の増加も続く。

- ・ 就職への不安の1位は、「就職できるかどうか」(52.4%)で前々回と同水準に。「就職すること自体」(33.1%)は前々回以降増加傾向が続く。
- ・ 「いつ頃から就職活動をしたらよいか」も前々回以降増加傾向(前々回7.7%→今回12.8%)。
- ・ 性別にみると、男性(49.1%)よりも女性(55.3%)で「就職できるかどうか」が高い。
- ・ 学部系統別によると、「医・歯・薬・看護系」では他の学部系統に比べて「就職できるかどうか」「自分の適性にあった職業を選べるかどうか」「就職すること自体」は低い。一方で、「就職先で人間関係にうまくとけ込めるかどうか」が25.3%と高い。また、「医・歯・薬・看護系」では「特に不安を感じたことがない」が高い。
- ・ 下表にはないが、学年別に前回と比較してみると、「就職できるかどうか」については、「3年」「4年」においていずれも前回より7~8ポイントスコアが上昇。「いつ頃から就職活動をしたらよいか」は、「1年」「2年」での上昇が目立つ。コロナ禍での就職活動に不安を抱いている学生が多くなっているためと考えられる。

■ 就職に関して不安に感じること (全体/複数回答)

Q 5 6 就職について次のような不安を感じたことがありますか。(二つまで)



※「全体[2021]」で階層ソート
 ※「自分の適性にあった職業を選べるかどうか」
 「女性と男性が対等に扱われるかどうか」は2021年文言変更、
 2017年までは「自分の適性にあった職業を選べるか」「女性と男性が対等に扱われるか」

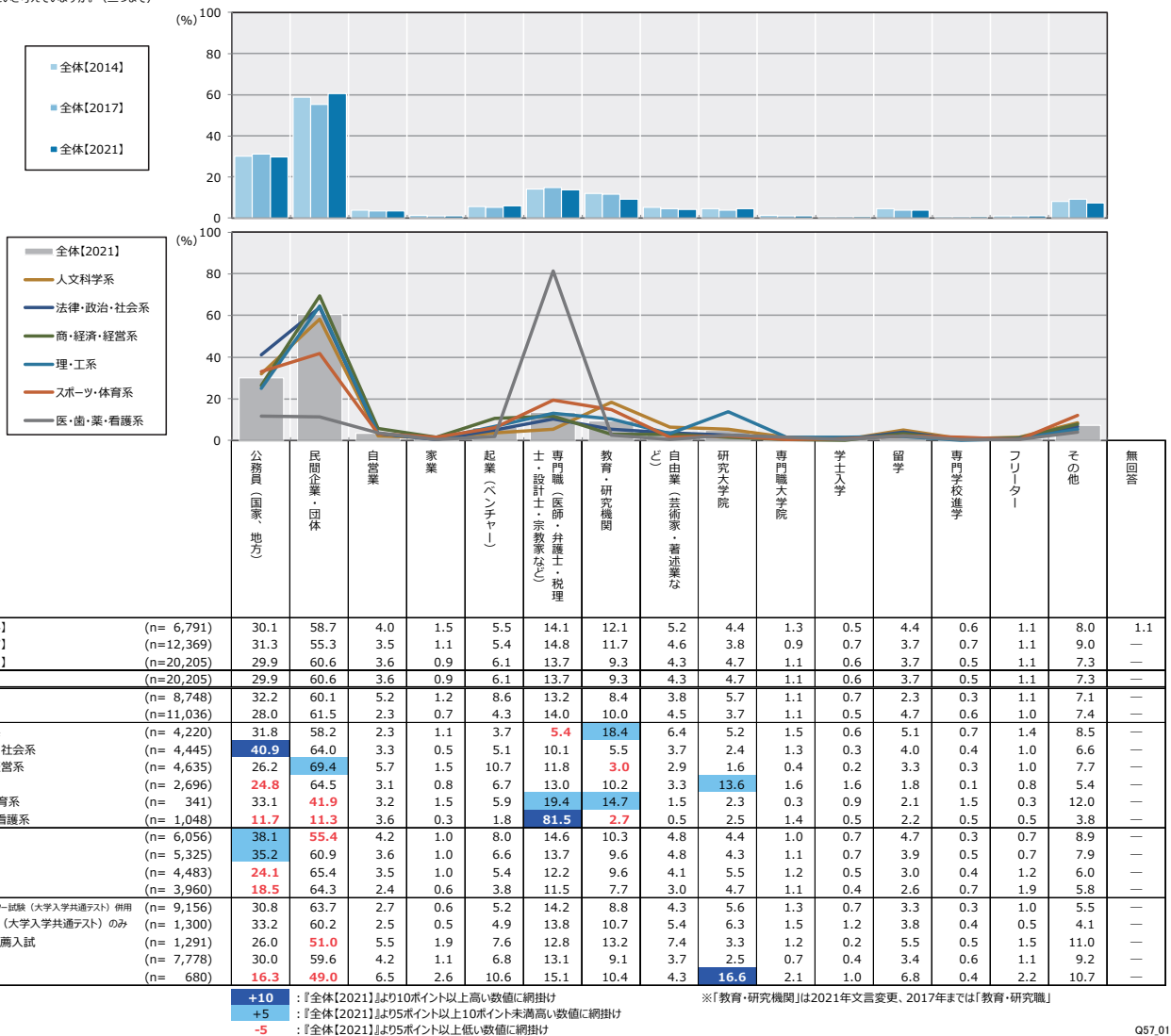
希望進路

◆希望進路の1位は「民間企業・団体」で前回から増加。

- 全体では希望進路の1位は「民間企業・団体」(60.6%)で、前回(55.3%)から増加。2位は「公務員(国家、地方)」。
- 性別にみると、男性(32.2%)は女性(28.0%)より「公務員(国家、地方)」のスコアが高い。
- 学部系統別にみると、「民間企業・団体」は「法律・政治・社会系」「商・経済・経営系」「理・工系」で60%を超えて高い。「人文科学系」では「教育・研究機関」、「法律・政治・社会系」では「公務員(国家、地方)」、「理・工系」では「研究大学院」、「医・歯・薬・看護系」では「専門職(医師・弁護士・税理士・設計士・宗教家など)」が全体値に比べそれぞれ高いという特徴がある。
- 学年別にみると、「1年」「2年」は「3年」「4年」に比べ「公務員(国家、地方)」の割合が10ポイント以上高い点は、毎回見られる特徴となっている。

■希望進路(全体/複数回答)

Q57 どのような進路を選択したいと考えていますか。(二つまで)



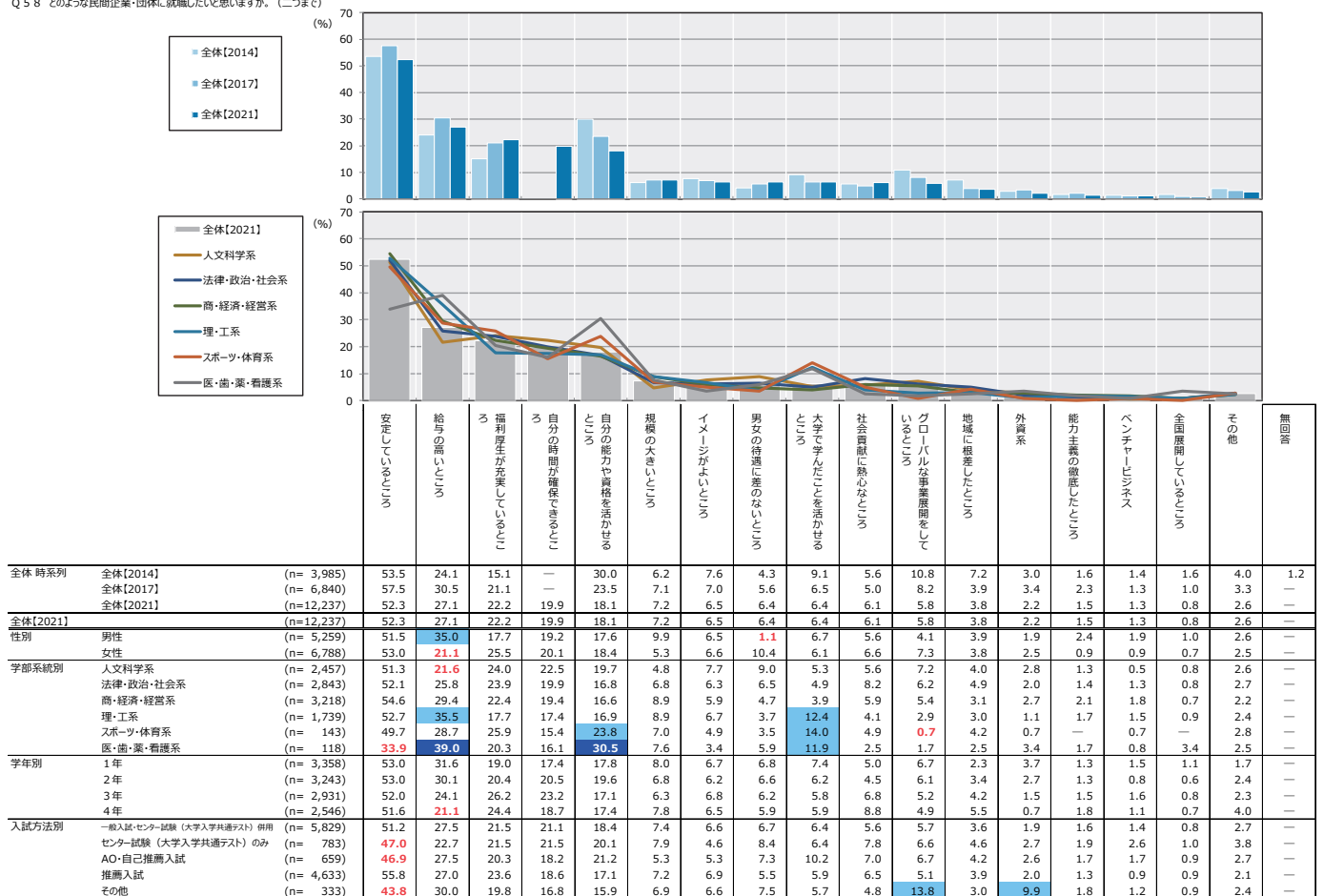
就職希望の民間企業・団体

◆「安定しているところ」が前回から減少したものの突出している。

- 全体では「安定しているところ」(52.3%)が1位だが、前回から5ポイント減少した。次いで「給与の高いところ」(27.1%)、「福利厚生が充実しているところ」(22.2%)と続く。
- 「福利厚生が充実しているところ」は増加傾向が続く。一方で、「自分の能力や資格を活かせるところ」「グローバルに事業展開をしているところ」は前々回以降減少している。
- 性別にみると、男性は女性よりも「給与の高いところ」「規模が大きいところ」が高い。一方、女性は「福利厚生が充実しているところ」「男女の待遇に差のないところ」が高い。
- 学部系統別にみると、「理・工系」では「給与の高いところ」「大学で学んだことを活かせるところ」、「スポーツ・体育系」「医・歯・薬・看護系」では「自分の能力や資格を活かせるところ」「大学で学んだことを活かせるところ」が他の学部系統に比べて高い。
- 学年別にみると、「1年」「2年」は「3年」「4年」に比べ、「給与の高いところ」が高い。

■ 就職希望の民間企業・団体（民間企業・団体志望者／複数回答）

Q 5 8 どのような民間企業・団体に就職したいと思いませんか。（二つまで）



※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 「全体[2021]」より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 「全体[2021]」より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 「全体[2021]」より5ポイント以上低い数値に網掛け

※「自分の時間が確保できるところ」は2021年追加

※「自分の能力や資格を活かせるところ」は2021年文言変更、2017年までは「自分の能力を活かせるところ」

8章：身についたこと

- **大学生活でこれまでに身についたと実感できる力**

「身についたと実感できる力」のスコアは、前回からほぼ横ばい。
「パソコンやインターネットを使いこなす力」は前回から大幅に増加。
「4年」の「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」の減少傾向が続く。

- **今後、大学生活で身につけたい力**

「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「パソコンやインターネットを使いこなす力」の増加傾向が続く。

コメント

「大学生活でこれまでに身についたと実感できる力」について「4年」の回答を前回と比較すると、いずれも前回からは回復傾向。ただし、「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」の減少傾向が続く。

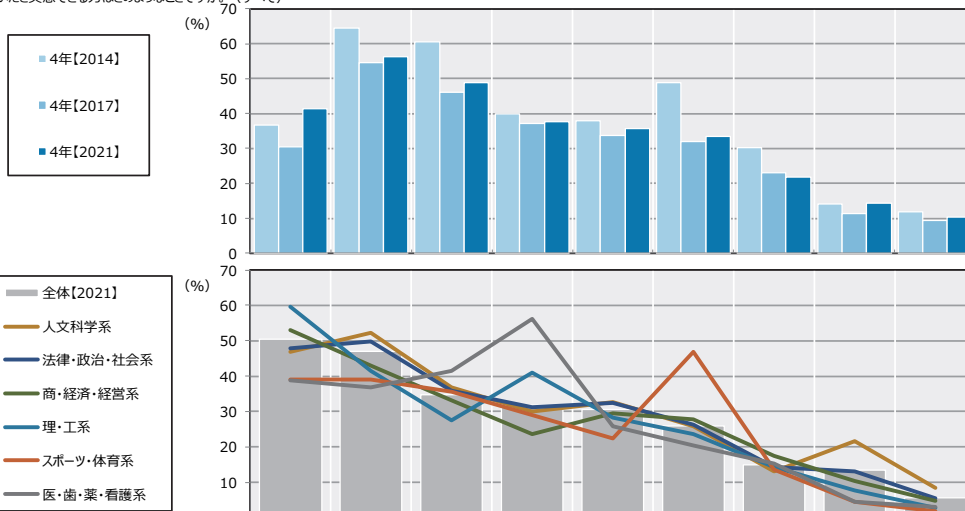
大学生活で身についた力

◆ [身についたと実感できる力] のスコアは、「パソコンやインターネットを使いこなす力」が最も高く、「視野を広げ、物事を幅広く考える力」が続く。「パソコンやインターネットを使いこなす力」は前回から大幅に増加。

- 全体で、唯一 1 割に満たなかった「留学体験や留学生との交流による異文化理解力」は、コロナ禍で留学生が来られない、海外へ留学できないといった状況が反映された結果とみることができる。
- 「4年」の回答を前回と比較すると、いずれも前回からは回復傾向。ただし、「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」の減少傾向が続く。
- 性別にみると、男性は「専門的知識をもとに論理的に考える力」「趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力」、女性は「相手の状況や考え方を考慮して話したり、対応する力」「外国語の本を読んだり、外国語で話をする力」が相対的に高い。
- 学部系統別にみると、理系（「理・工系」「医・歯・薬・看護系」）は「専門的知識をもとに論理的に考える力」が高い。それに加えて、「理・工系」では「パソコンやインターネットを使いこなす力」、「医・歯・薬・看護系」では「相手の状況や考え方を考慮して話したり、対応する力」が他の学部系統に比べて高い。「人文科学系」では「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」が高いという特徴がある。

■ 大学生活で身についた力（全体／複数回答）

Q59 大学生活でこれまでに身についたと実感できる力はどのようなことですか。（すべて）



		使いこなす力	パソコンやインターネットを	く	視野を広げ、ものごとを幅広く	相手の状況や考え方を考慮して話したり、対応する力	専門的知識をもとに論理的に考える力	自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力	趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力	計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力	外国語の本を読んだり、外国語で話をする力	留学体験や留学生との交流等による異文化理解力	無回答
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	34.0	52.3	48.1	32.4	29.2	42.9	22.3	14.5	10.1	2.7	
	全体[2017]	(n=12,369)	32.7	46.0	35.0	31.3	26.5	29.7	16.1	14.9	9.2	—	
	全体[2021]	(n=20,205)	50.4	46.9	34.8	31.8	30.5	26.0	14.8	13.5	5.6	—	
学年別 時系列	4年[2014]	(n= 1,365)	36.6	64.5	60.6	39.8	37.9	48.8	30.2	14.2	11.9	1.2	
	4年[2017]	(n= 2,186)	30.6	54.6	46.2	37.2	33.8	32.1	23.1	11.5	9.5	—	
	4年[2021]	(n= 3,960)	41.3	56.2	48.9	37.8	35.8	33.5	21.9	14.3	10.4	—	
全体[2021]	(n=20,205)	50.4	46.9	34.8	31.8	30.5	26.0	14.8	13.5	5.6	—		
性別	男性	(n= 8,748)	48.3	47.1	32.8	35.0	32.0	28.4	15.5	11.5	3.8	—	
	女性	(n=11,036)	52.3	46.8	36.4	29.2	29.4	24.3	14.4	15.2	7.0	—	
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	46.9	52.3	36.9	30.0	32.7	25.8	13.0	21.7	8.5	—	
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	47.9	49.8	35.9	31.3	32.5	26.2	14.4	13.0	5.5	—	
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	52.9	43.0	33.2	23.5	29.5	27.7	17.4	10.3	4.7	—	
	理・工系	(n= 2,696)	59.7	41.5	27.5	40.9	28.3	23.6	14.3	7.7	2.7	—	
	スポーツ・体育系	(n= 341)	39.0	39.0	35.5	29.0	22.3	46.9	13.5	4.4	1.8	—	
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	38.9	36.9	41.4	56.2	25.7	20.5	15.2	4.6	3.0	—	
学年別	1年	(n= 6,056)	54.9	39.5	24.5	24.1	26.9	22.2	9.5	14.5	3.4	—	
	2年	(n= 5,325)	55.3	42.9	29.5	30.5	28.5	22.6	11.9	12.2	3.4	—	
	3年	(n= 4,483)	47.8	53.5	41.6	37.1	33.0	28.1	18.7	12.6	6.3	—	
	4年	(n= 3,960)	41.3	56.2	48.9	37.8	35.8	33.5	21.9	14.3	10.4	—	
入試方法別	一般入試、センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	50.7	47.0	34.9	32.9	30.1	25.1	13.3	13.8	5.1	—	
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	50.0	49.2	36.2	32.0	31.8	25.8	15.5	16.5	5.5	—	
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	50.3	48.2	37.6	35.3	31.8	26.0	18.0	12.9	6.8	—	
	推薦入試	(n= 7,778)	51.2	45.4	34.2	29.2	30.3	27.8	15.4	11.4	4.7	—	
	その他	(n= 680)	39.0	55.1	32.5	40.7	33.2	18.5	20.9	29.1	20.6	—	
正課教育満足度別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	54.0	53.0	38.8	43.8	38.4	24.9	21.6	19.1	8.5	—	
	成績自己評価中位	(n=10,853)	50.2	47.0	34.3	29.3	29.4	25.9	13.2	12.6	5.1	—	
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	46.5	39.1	31.2	23.8	23.6	27.7	10.7	9.2	3.5	—	

※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 全体[2021]より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 全体[2021]より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 全体[2021]より5ポイント以上低い数値に網掛け

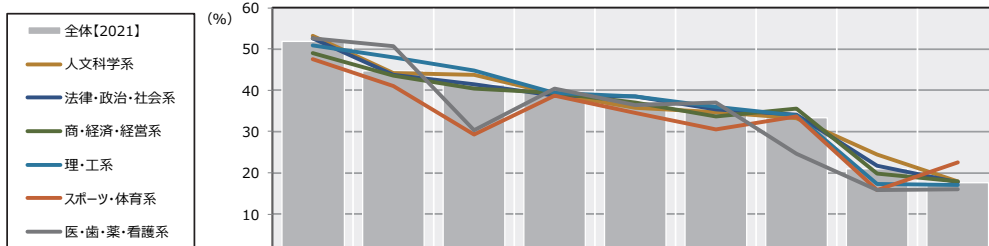
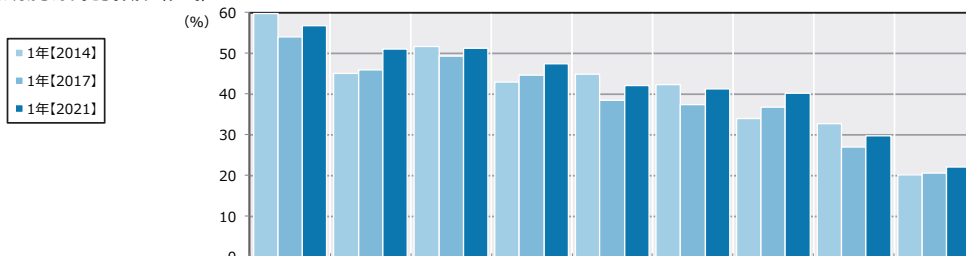
大学生活で身につけたい力

◆「専門的知識をもとに論理的に考える力」「視野を広げ、ものごとを幅広く考える力」「パソコンやインターネットを使いこなす力」の増加傾向が続く。

- ・ほとんどの項目において、「1年」のスコアが他の学年よりも高い。「1年」に絞ってみると「自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力」「計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力」「相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力」「留学体験や留学生との交流等による異文化理解力」などで前回から増加。
- ・学部系統別にみると、「医・歯・薬・看護系」では「専門的知識をもとに論理的に考える力」が他の学部系統に比べて高いという特徴がある。

■大学生生活で身につけたい力（全体／複数回答）

Q60 今後、大学生生活で身につけたい力はどのようなことですか。（すべて）



			自分の考えをまとめてわかりやすく表現する力	専門的知識をもとに論理的に考える力	語で話をする力	外国語の本を読んだり、外国語で話をする力	視野を広げ、ものごとを幅広く考える力	計画を立て、目標に向かってリーダーシップをとる力	相手の状況や考え方を考慮して話をしたり、対応する力	パソコンやインターネットを使いこなす力	留学体験や留学生との交流等による異文化理解力	趣味やスポーツ等によって生活を楽しむ力	無回答
全体 時系列	全体[2014]	(n= 6,791)	55.0	39.4	45.5	35.5	40.2	34.8	28.9	25.4	17.8	1.6	
	全体[2017]	(n=12,369)	50.2	41.2	41.2	37.8	35.8	32.5	30.9	19.6	16.9	—	
	全体[2021]	(n=20,205)	51.8	44.7	41.4	39.4	37.3	34.6	33.3	21.0	17.7	—	
学年別 時系列	1年[2014]	(n= 1,574)	59.7	45.0	51.6	43.0	44.8	42.3	33.9	32.8	20.1	1.3	
	1年[2017]	(n= 3,963)	54.1	45.9	49.4	44.7	38.5	37.5	36.8	27.0	20.7	—	
	1年[2021]	(n= 6,056)	56.8	51.0	51.2	47.3	42.1	41.3	40.2	29.8	22.1	—	
全体[2021]	(n=20,205)	51.8	44.7	41.4	39.4	37.3	34.6	33.3	21.0	17.7	—		
性別	男性	(n= 8,748)	47.9	44.1	41.5	37.6	38.0	34.9	35.6	19.1	19.5	—	
	女性	(n=11,036)	54.9	45.2	41.3	40.7	36.9	34.4	31.7	22.6	16.3	—	
学部系統別	人文科学系	(n= 4,220)	53.3	44.1	43.7	39.1	35.7	34.8	33.3	24.4	17.9	—	
	法律・政治・社会系	(n= 4,445)	52.5	43.7	41.5	38.7	38.5	35.3	34.0	21.8	17.8	—	
	商・経済・経営系	(n= 4,635)	49.1	43.6	40.5	39.3	37.1	33.7	35.6	19.8	17.9	—	
	理・工系	(n= 2,696)	51.0	47.9	44.8	39.4	38.6	36.0	33.9	17.2	17.1	—	
	スポーツ・体育系	(n= 341)	47.5	41.1	29.3	38.7	34.6	30.5	33.7	15.8	22.6	—	
	医・歯・薬・看護系	(n= 1,048)	52.5	50.6	30.3	40.4	36.5	37.1	24.7	15.8	16.1	—	
学年別	1年	(n= 6,056)	56.8	51.0	51.2	47.3	42.1	41.3	40.2	29.8	22.1	—	
	2年	(n= 5,325)	53.8	47.8	43.1	43.1	39.6	37.6	32.5	22.8	18.6	—	
	3年	(n= 4,483)	49.9	41.2	35.3	34.1	37.0	31.0	29.4	15.7	13.7	—	
	4年	(n= 3,960)	44.6	35.1	31.7	28.7	28.4	24.6	29.5	12.3	14.6	—	
入試方法別	一般入試・センター試験（大学入学共通テスト）併用	(n= 9,156)	52.5	46.1	42.7	40.1	37.6	35.0	33.7	20.7	17.3	—	
	センター試験（大学入学共通テスト）のみ	(n= 1,300)	52.4	49.1	41.2	37.0	35.8	32.7	32.0	21.4	16.7	—	
	AO・自己推薦入試	(n= 1,291)	52.9	43.3	41.5	39.9	36.9	36.6	32.8	21.5	19.4	—	
	推薦入試	(n= 7,778)	50.8	42.3	39.9	38.5	37.2	33.8	33.6	21.1	17.6	—	
その他	(n= 680)	50.4	49.1	40.4	42.2	39.3	38.1	30.0	23.4	22.8	—		
正課教育満足度別	成績自己評価上位	(n= 5,119)	51.5	44.7	43.5	38.8	39.7	35.7	31.9	23.5	18.5	—	
	成績自己評価中位	(n=10,853)	52.3	44.5	40.9	39.4	37.1	34.1	33.3	20.5	16.9	—	
	成績自己評価下位	(n= 4,233)	50.9	45.3	39.9	40.1	35.1	34.5	35.2	19.4	18.9	—	

※「全体[2021]」で降順ソート

+10 : 『全体[2021]』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 +5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上10ポイント未満高い数値に網掛け
 -5 : 『全体[2021]』より5ポイント以上低い数値に網掛け

委員名簿

学生委員会委員

担当理事	伊藤公平	慶應義塾	塾長
委員長	池谷知明	早稲田大学	学生部長・社会科学総合学術院教授
委員	鳥居伸好	中央大学	副学長(学生総合支援担当) ・学生部長・経済学部教授
	下楠昌哉	同志社	学生支援センター所長・文学部教授
	梶井昌邦	福岡大学	学生部長・経済学部教授
	福武慎太郎	上智学院	学生センター長・総合グローバル学部教授
	松村吉信	関西大学	学生センター所長・化学生命工学部教授
	本郷亮	関西学院	学生支援機構副機構長(学生部長) ・経済学部教授
	田上雅徳	慶應義塾	学生総合センター長・法学部教授
	佐藤和	慶應義塾	就職部長、商学部教授
	西山春文	明治大学	副学長(学務担当)・学生部長・商学部教授
	北條英勝	武蔵野大学	副学長・人間科学部教授
	吉田敦	南山学園	学生部長・理工学部教授
	砂川浩慶	立教学院	学生部長・社会学部教授
	河原典史	立命館	学生部長・文学部教授

(令和4年9月1日現在)

学生委員会学生生活実態調査分科会委員

分科会長	北條英勝	武蔵野大学	副学長・人間科学部教授
委員	鳴川義雄	梅村学園	学事局学生支援部長
	林永周	立命館	経営学部准教授
	阿藤正道	専修大学	学生部長・商学部教授
	米山真子	東洋大学	学生部次長

(令和4年9月1日現在)

担当事務局：相坂、佐藤（義）、萩原、船渡

一般社団法人日本私立大学連盟加盟大学一覧

(123大学 令和4年4月現在 大学名ABC順)

愛知大学	順天堂大学	武蔵野大学	白百合女子大学
亜細亜大学	金沢星稜大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学
青山学院大学	関西大学	名古屋学院大学	園田学園女子大学
跡見学園女子大学	関西学院大学	南山大学	創価大学
梅花女子大学	関東学園大学	日本大学	大正大学
文教大学	関東学院大学	日本女子大学	拓殖大学
筑紫女学園大学	慶應義塾大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
中央大学	恵泉女学園大学	大阪学院大学	東邦大学
中央大学	敬和学園大学	大阪医科薬科大学	東北学院大学
大東文化大学	神戸女学院大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
獨協大学	神戸海星女子学院大学	大谷大学	東海大学
獨協医科大学	皇學館大学	追手門学院大学	常磐大学
同志社大学	國學院大学	立教大学	東京医療保健大学
同志社女子大学	国際武道大学	立正大学	東京情報大学
フェリス女学院大学	国際基督教大学	立命館大学	東京女子大学
福岡大学	駒澤大学	立命館大学	東京女子医科大学
福岡女学院大学	甲南大学	龍谷大学	東京経済大学
福岡女学院看護大学	久留米大学	流通科学大学	東京国際大学
学習院大学	共立女子大学	流通経済大学	東京農業大学
学習院女子大学	京都産業大学	西武文理大学	東京歯科大学
白鷗大学	京都精華大学	聖学院大学	東洋大学
阪南大学	京都橘大学	成城大学	東洋英和女学院大学
姫路獨協大学	九州産業大学	聖力夕リナ大学	東洋学園大学
広島女学院大学	松山大学	成蹊大学	豊田工業大学
広島修道大学	松山東雲女子大学	西南学院大学	津田塾大学
法政大学	明治大学	聖路加国際大学	和光大学
石巻専修大学	明治学院大学	清泉女子大学	早稲田大学
実践女子大学	宮城学院女子大学	聖心女子大学	山梨英和大学
上智大学	桃山学院大学	仙台白百合女子大学	四日市大学
城西大学	桃山学院教育大学	専修大学	四日市看護医療大学
城西国際大学	武蔵大学	芝浦工業大学	

※令和4年3月退会の兵庫医科大学、兵庫医療大学には調査協力をいただいた。

私立大学 学生生活白書 2022

[発行] 令和4年9月

[編集者] 学生委員会学生生活実態調査分科会 分科会長 北條英勝

[発行者] 一般社団法人日本私立大学連盟
学生委員会 担当理事 伊藤公平
委員長 池谷知明

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 私学会館別館7階

TEL 03-3262-3603 (教学支援課)

URL <https://www.shidairen.or.jp/>

[企画・制作協力・印刷] 株式会社ディ・プラス

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-6 BIZMARKS麴町604

TEL 03-5776-3805

URL <https://dplusd.co.jp/company/>

©無断転載はご遠慮ください。